

量、集荷ノ場所及期日ヲ稟帳ニ記載シ生産者地主ノ管理米出荷実績ヲ明確ナラシムルコト
第七 管理米證印ヲ押捺セラレタル管理米ハ左ノ制限ヲ受クルコト

(一) 管理米ハ臨時米穀配給統制規則第一條ニ依リ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲ス場合ヲ除クノ外之ヲ消費シ、質入シ又ハ讓渡シ其ノ他處分スルヲ得ザルコト但シ自家用保有米ノ減失毀損、家族構成人員ヲ移動其ノ他特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ之ヲ消費シ其ノ他處分ヲ爲シ得ルコト

(二) 第五ノ地方長官ノ指示ニ依リ寄託シ又ハ保管セララル管理米ハ臨時米穀配給統制規則第三條ニ依リ生産者又ハ地主ガ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲シタル場合又ハ(一)但書ノ許可ヲ受ケタル場合ニ非ザレバ之ヲ移動スルヲ得ザルコト但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ之ヲ移動シ得ルコト

尙道府縣農會及郡農會ハ適當ナル方法ニ依リ市町村農會ノ行フ出荷統制ニ關シ指導督勵ヲ爲スコト
米穀生産者若ハ地主ガ管理米ヲ販賣組合若ハ農業倉庫業者以外ノ者ニ販賣シタル場合又ハ生産者若ハ地主ヨリ販賣ノ委託ヲ受ケタル販賣組合若ハ農業倉庫業者(販賣組

管理米數量トシテ割當ヲ爲スコト

一〇二 澱粉類配給統制規則抄

昭和十五年八月十四日農林省令第六六號

昭和十二年法律第九十二號第二條及第三條ノ規定ニ依リ澱粉類配給統制規則左ノ通定ム

第一條 澱粉類ニシテ農林大臣ノ指定スルモノ(以下指定品ト稱ス)ノ製造ヲ業トスル者若ハ其ノ組織スル團體又ハ指定品ヲ輸入若ハ移入シタル者ハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外之ヲ農林大臣ノ指定シタル統制機關(以下統制機關ト稱ス)ノ斡旋ニ依ルニ非ザレバ販賣(本令施行前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム以下同ジ)スルコトヲ得ズ

一 統制機關ニ販賣スル場合

二 特別ノ事由ニ因リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合
第三條 農林大臣ノ指定シタル配給團體(以下配給團體ト稱ス)ノ團體員ハ統制機關ヨリ買受クル場合ヲ除クノ外統制機關ノ斡旋ニ依ルニ非ザレバ指定品ヲ買受クル(本令施行前ニ爲シタル契約ニ依リ受入ルル場合ヲ含ム以下同ジ)コトヲ得ズ

第四條 統制機關ハ指定品ヲ原料又ハ材料トスル物品ノ製

統制法 澱粉類配給統制規則抄

合聯合會、聯合農業倉庫業者ヲ含ム)ガ管理米ヲ販賣シタル場合ハ當該米穀ハ爾後管理米トシテノ特別ノ制限ヲ受ケザルコト尤モ臨時米穀配給統制規則ノ適用ヲ受クルハ勿論ナルコト

第八 管理米ノ集荷配給ニ關シテハ之ヲ郷倉米ニ充當スルコトヲ認ムル等配給上支障ナキ限り地元ノ事情ニ即シタル措置ヲ講ズルコト

第九 市町村ニ設置スル米穀管理事務取扱員ハ穀物検査員ヲ之ニ充ツルノ外適當ナル者ヲ道府縣ニ於テ囑託スルコト

米穀管理事務取扱員ハ地方長官ノ指揮ニ從ヒ、農會ノ行フ管理米割當ニ關スル指導、管理米證印ノ押捺、管理米ノ集荷並ニ保管ニ關スル指示、保管狀況ノ調査等管理ニ必要ナル事務ニ從事スルモノトスルコト

米穀管理事務取扱員ハ擔當市町村ニ於テ集荷セラレタル管理米ノ保管場所別數量及其ノ移動ヲ隨時地方長官ニ報告スルコト

第十 管理米數量ノ割當ヲ爲ス際既ニ昭和十五產米ヲ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲シタル生産者又ハ地主ニ對シテハ第一ニ依リ算定セララル管理米數量ヨリ右ノ既ニ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲シタル數量ヲ控除シタル殘額ヲ以テ

造ヲ業トスル者(以下製造業者ト稱ス)ニ對シ農林大臣ノ指示ニ從ヒ割當票ヲ交付スベシ

統制機關ハ割當票ノ様式ニ付農林大臣ノ承認ヲ受クベシ

第五條 製造業者ハ割當票ト引換フルニ非ザレバ指定品ヲ買受クルコトヲ得ズ

第六條 製造業者ニ對シ指定品ヲ販賣スル者ハ割當票ト引換フルニ非ザレバ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

指定品ヲ販賣スル者ハ製造業者ヨリ割當票ト引換ヘニ買受ノ申込アリタルトキハ正當ノ事由アルニ非ザレバ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第七條 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第五條又ハ前條第一項ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第八條 農林大臣ハ指定品ノ製造ヲ業トスル者若ハ其ノ組織スル團體、指定品ヲ輸入若ハ移入シタル者、統制機關、配給團體若ハ其ノ團體員又ハ製造業者若ハ其ノ組織スル團體ニ對シ指定品ノ賣買方法其ノ他指定品ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲スコトアルベシ

第九條 指定品ヲ販賣シタル者ハ毎月二十日迄ニ其ノ前月中ニ引換ヘタル割當票ヲ統制機關ニ差出スベシ

附 則

本令ハ昭和十五年九月二十日ヨリ之ヲ施行ス

一〇三 澱粉類配給統制規則第一條及第三條ノ規定ニ依ル指定ノ件

昭和十五年八月三十一日農林省告示第百三十三號
改正昭和十六年八月農林省告示第百三十三號

(略)

一〇四 鶏卵配給統制規則

昭和十五年十月二十五日農林省令第九十九號

昭和十二年法律第九十二號第二條及第三條ノ規定ニ依リ鶏卵配給統制規則左ノ通定ム

第一條 農林大臣ノ指定シタル道府縣(以下生産地ト稱ス)

ニ於テ生産セラレタル鶏卵ハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外
之ヲ當該生産地ヨリ移出スルコトヲ得ズ

一 當該生産地ノ地方長官ノ指定シタル鶏卵ノ移出ヲ爲ス者(以下指定移出者ト稱ス)ガ移出スル場合

二 當該生産地ノ地方長官ノ指定シタル鶏卵ノ販賣斡旋事業ヲ行フ者(以下指定斡旋機關ト稱ス)ノ斡旋ニ依リ移出スル場合

指定シタル數量ノ範圍内ニ於テ搬入シタル鶏卵ヲ讓渡スル場合又ハ消費地ノ當該地方長官ノ許可ヲ受ケタル者ガ當該地方長官ノ指定シタル數量ノ範圍内ニ於テ讓渡スル場合

三 正味一貫ヲ超エザル數量ノ鶏卵ヲ無償讓渡スル場合

四 第一條第五號ノ許可ヲ受ケタル者ガ當該鶏卵ヲ搬入シ之ヲ讓渡スル場合又ハ特別ノ事由ニ因リ消費地ノ當該地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合

第四條 指定配給機關ハ當該消費地内ニ於テ鶏卵ノ賣買ヲ業トスル者以外ノ者ニ鶏卵ヲ讓渡スルコトヲ得ズ但シ地方長官ノ指定シタル販賣先ニ販賣スル場合又ハ特別ノ事由ニ因リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 農林大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ鶏卵ノ生産者、鶏卵ノ賣買業者、業務上鶏卵ノ消費ヲ爲ス者又ハ其ノ組織スル法人ニ對シ鶏卵ノ販賣先、買入先、賣買方法其ノ他ニ關シ鶏卵ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第六條 農林大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ前條ニ掲グル者ニ付鶏卵ノ配給統制上必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ帳簿其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

統制法 牛乳及乳製品配給統制規則 外二

三 當該生産地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケタル者ガ當該地方長官ノ指定シタル數量ノ範圍内ニ於テ移出スル場合

四 販賣以外ノ目的ヲ以テ正味一貫ヲ超エザル數量ノモノヲ移出スル場合

五 其ノ他特別ノ事由ニ因リ當該生産地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合

第二條 農林大臣ガ生産地ヨリノ鶏卵ノ移出ニ付仕向地別ニ其ノ數量又ハ割合ヲ指定シタルトキハ地方長官ハ指定移出者及指定斡旋機關ニ對シ其ノ移出シ又ハ移出ノ斡旋ヲ爲スベキ數量ヲ割當ツルモノトス

前項ノ移出數量ノ割當アリタルトキハ指定移出者及指定斡旋機關ハ其ノ割當テラレタル數量ニ付月別仕向地別移出計畫ヲ定メ地方長官ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第三條 農林大臣ノ指定シタル地域(以下消費地ト稱ス)内ニ當該地域外ヨリ鶏卵ヲ搬入スル者ハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外其ノ搬入シタル鶏卵ヲ農林大臣ノ指定シタル者(以下指定配給機關ト稱ス)以外ノ者ニ讓渡スルコトヲ得ズ

一 指定配給機關ガ自ラ搬入シタル鶏卵ヲ讓渡スル場合
二 第一條第三號ノ許可ヲ受ケタル者ガ當該地方長官ノ

トヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一〇五 牛乳及乳製品配給統制規則

昭和十五年十月十日農林省令第八十九號

(略)

一〇六 大豆及大豆油等配給統制規則

昭和十五年十月二十九日農林省令第一百號
改正昭和十六年一月農林省令第六號

(略)

一〇七 食料油配給統制ニ關スル件

昭和十六年四月二十八日農林省令第三十三號
農林省資材部長 通牒

統制法 食料油配給統制ニ關スル件

現下食料油ノ需給事情ニ鑑ミ別記要綱ニ依リ之ガ配給ノ統制ヲ行ヒ食料油配給ノ適正ヲ期スルコトト致度候條御了知ノ上至急御手配相成度此段及通牒候也

追而貴(道府)縣ニ對スル昭和十六年自四月至六月分食料油割當量ハ別記ノ通ニ有之候條御了知相成度

食料油配給統制要綱

- 一 一般家庭ニ於テ使用スル食料油及揚豆腐、天麩羅其ノ他業務用トシテ使用スル食料油(人造バター製造用、水産罐詰製造用、素麵製造用、製菓原料用等ノ特殊食料工業用ノモノヲ除ク)ノ配給ハ本要綱ニ依リ之ガ統制ヲ行フコト
 - 二 農林省ハ食料油ニ付毎四半期ノ各油別道府縣割當數量ヲ決定シ之ヲ道府縣並ニ統制機關(大豆油ニ付テハ日本大豆統制株式會社、菜種油ニ付テハ日本輸出農産物株式會社、胡麻油其ノ他ニ付テハ日本油料統制株式會社)ニ通知スルコト
 - 三 道府縣ハ割當ヲ受ケタル食料油ヲ一般家庭用及業務用ニ區分シテ配給割當ヲ行フコト
- 前項ニ依リ食料油ノ用途別割當ヲ決定シタルトキハ別記様式ニ依リ速ニ之ヲ農林省ニ報告スルコト
- 業務用ニシテ消費者ガ組合又ハ團體ヲ組織セザルモノ

及一般家庭用ノモノハ市町村ニ對シ之ヲ割當テ、業務用ニシテ消費者ガ組合又ハ團體ヲ組織シ地方長官ニ於テ適當ト認メタルモノニ付テハ其ノ組合又ハ團體ニ對シ割當ツルコト

四 特ニ一般家庭用ニ付道府縣ニ於テ配給ノ適正ヲ期スル爲地方ノ實情ニ應ジ購入券ヲ使用スル必要アリト認メタルトキハ市町村長ヲシテ購入券ヲ發行セシムルコト

家庭用食料油購入券ハ隣組等ヲ單位トシテ適宜之ヲ分配スルコト

家庭用食料油購入券ノ發行ニ關スル其ノ他ノ事項ハ地方長官ニ於テ適宜之ヲ定ムルコト

五 現品ノ配給ハ道府縣植物油卸商業組合ヲ通ジ小賣商業組合ヨリ配給スルコト

市町村産業組合、百貨店其他ノ配給機關ニヨリ配給セシムル數量ハ地方長官ニ於テ之ヲ定ムルコト

(別表)

食料油用途別割當表(昭和 年自 月分) 縣)

一〇九 農産罐詰ノ販賣制限ニ關スル件

昭和三十五年六月十日農林省令第四十七號

昭和十二年法律第九十二號第二條及第三條ノ規定ニ依リ農産罐詰ノ販賣制限ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 本則ニ於テ罐詰トハ農林畜産物ヲ原料トシテ製造シタル食料品罐詰ニシテ農林大臣ノ指定スルモノヲ謂フ

第二條 罐詰ノ製造ヲ爲ス者及其ノ製造ニ係ル罐詰ヲ販賣スル團體ニシテ農林大臣ノ指定スルモノ(以下指定團體ト稱ス)ハ農林大臣ノ指定スル者(以下罐詰共販機關ト稱ス)ニ販賣シ又ハ其ノ者ニ販賣ヲ委託スルニ非ザレバ罐詰ヲ販賣(本令施行前ニ爲シタル契約ニ依リ引渡ヲ含ム)スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

用途	内 容			合 計
	揚豆腐	天麩羅	業務用	
別大豆				
菜種油				
胡麻油				
合 計				

(單位瓩又ハ罐)

一〇八 植物油脂及植物油脂原料種實配給統制規則

昭和十五年十一月三日農林省令第百號 (略)

統制法 農産罐詰ノ販賣制限ニ關スル件第二條ノ指定團體ノ件
外一

一三八

- 一 罐詰ノ製造ヲ爲ス者ガ指定團體ニ販賣シ又ハ販賣ヲ委託スルトキ
- 二 指定團體ガ他ノ指定團體ニ販賣シ又ハ販賣ヲ委託スルトキ
- 三 特別ノ事由ニ因リ農林大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ

第三條 罐詰共販機關罐詰ヲ販賣セントスルトキハ農林大臣ノ許可ヲ受ケベシ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 關東州、滿洲國及中華民國以外ノ地ニ輸出スルコト明カナル場合ニ於テ輸出業者又ハ其ノ組織スル法人ニ販賣スルトキ
- 二 軍ニ販賣スルトキ

第四條 農林大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ指定團體又ハ罐詰共販機關ニ對シ罐詰ノ需給調整上必要ナル事項ヲ命ジ又ハ必要ナル報告ヲ徵スルコトアルベシ

第五條 罐詰共販機關ハ毎月十日迄ニ前月中ニ於ケル取引先別取扱數量ヲ記載シタル報告書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一一〇 農産罐詰ノ販賣制限ニ關スル件第二條ノ指定團體ノ件

昭和十五年六月十日農林省告示第三百五十五號

昭和十五年農林省令第四十七號第二條ノ指定團體左ノ如シ産業組合及産業組合聯合會

一一一 農産罐詰ノ販賣制限ニ關スル件第二條ノ規定ニ依リ罐詰共販機關指定ノ件

昭和十五年六月十日農林省告示第三百五十六號
改正昭和十五年三月農林省告示第六六號

昭和十五年農林省令第四十七號第二條ノ規定ニ依リ罐詰共販機關ヲ左ノ通指定ス

農産罐詰(密柑罐詰ヲ除ク)

東京市麴町區丸ノ内二丁目十四番地

日本農産罐詰共販株式會社

密柑罐詰

日本密柑罐詰工業組合聯合會
保證責任全國購買販賣組合聯合會

一一二 食料品罐詰用空罐配給統制規則

昭和十五年六月二十五日農林商工省令第七號
改正昭和十五年三月農林商工省令第十三號

(略)

一一三 藥工品配給統制規則抄

昭和十五年八月十五日農林省令第七號

昭和十二年法律第九十二號第一條、第二條及第三條ノ規定ニ依リ藥工品配給統制規則左ノ通定ム

第一條 本則ニ於テ藥工品トハ藥ヲ主要原料トスル其ノ他農林大臣ノ指定シタルモノヲ謂フ

第二條 農林大臣ノ指定シタル道府縣ニ於テ生産セラレタル藥工品ハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外之ヲ當該生産道府縣ヨリ他ノ道府縣ニ移出スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由ニ因リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

統制法 藥工品配給統制規則抄 外一

一三九

一 農林大臣ノ指定シタル藥工品ノ配給統制事業ヲ行フ者(以下統制機關ト稱ス)ガ移出スル場合

二 統制機關トノ契約ニ基キ移出スル場合

三 農林大臣ノ指定シタル場合

第八條 農林大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ藥工品ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ販賣先、販賣方法其ノ他ニ關シ藥工品ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 農林大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ藥工品ノ販賣ヲ爲ス者ニ付藥工品ノ配給統制上必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

附 則

本則中第一條、第八條及第九條ノ規定ハ本令公布ノ日ヨリ第三條乃至第七條ノ規定ハ昭和十五年八月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

本則第二條ノ規定ノ施行期日ハ別ニ之ヲ定ム

(昭和十五年八月農林省令第七十八號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)

統制法

農工品配給統制規則第一條、第二條及第三條ノ規定ニ依ル指定ノ件 農業藥劑配給統制規則 外二

一一四 農工品配給統制規則第一條、第二條及第三條ノ規定ニ依ル指定ノ件

昭和五年八月廿日農林省告示第百八十一號
改正昭和五年三月農林省告示第百六十五號

農工品配給統制規則第一條、第二條及第三條ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス

第一條ノ農工品
石川縣産建莖

青森、秋田、山形、富山、福井ノ各縣干莖

宮城縣産柏莖

岩手縣産柏建莖

第二條ノ道府縣

叭ニ付各道府縣

建莖ニ付石川縣

干莖ニ付青森、秋田、山形、富山、福井ノ各縣

柏莖ニ付宮城縣

柏建莖ニ付岩手縣

同條第一號ノ農工品ノ配給統制事業ヲ行フ者

日本農工品配給株式會社

同條第三號ノ農林大臣ノ指定シタル場合

各道府縣ノ産業組合聯合會ガ全國購買販賣組合聯合會ニ販賣シ又ハ販賣ヲ委託スル爲移出スル場合

二十枚未滿ノ叭又ハ莖ヲ移出スル場合

第三條但書農林大臣ノ指定シタル場合

二十枚未滿ノ叭又ハ莖ヲ輸出又ハ移出スル場合

一一五 麻袋ノ回收ニ關スル件

昭和十五年九月十一日農林省令第八十二號

(略)

一一六 農機具用ゴム製品配給統制規則

昭和十五年九月十四日農林省令第八十四號

昭和十五年九月十四日農林省令第八十四號

(略)

一一七 農業藥劑配給統制規則

昭和十五年十月二日農林省令第八十六號

昭和十二年法律第九十二號第二條及第三條ノ規定ニ依リ農

業藥劑配給統制規則左ノ通定ム

第一條 農林大臣ノ指定シタル農業藥劑(以下農業藥劑ト稱ス)ノ製造ヲ爲ス者又ハ其ノ輸入若ハ移入ヲ爲ス者ハ其ノ製造又ハ輸入若ハ移入ニ係ル農業藥劑ヲ農林大臣ノ指定シタル者(以下共販機關ト稱ス)以外ノ者ニ讓渡スルコトヲ得ズ但シ農林大臣ノ指定シタル場合又ハ特別ノ事情ニ依リ農林大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

共販機關以外ノ者ハ農業藥劑ノ製造ヲ爲ス者又ハ其ノ輸入若ハ移入ヲ爲ス者ヨリ其ノ製造又ハ輸入若ハ移入ニ係ル農業藥劑ヲ讓受クルコトヲ得ズ但シ前項但書ノ規定ニ依リ讓渡スル農業藥劑ヲ讓受クル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 共販機關ハ其ノ取扱フ農業藥劑ノ種類別配給先別配給數量ニ付豫メ農林大臣ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第三條 農林大臣ノ指定シタル者ヲ除クノ外共販機關ヨリ農業藥劑ヲ讓受ケ之ヲ販賣スル者ハ配給セントスル道府縣別ノ種類別配給先別配給數量ニ付豫メ當該道府縣ノ地方長官ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ前項ノ農林大臣ノ指定シタル者ヨリ農業藥劑ヲ讓受ケ之ヲ販賣スル者ニ之ヲ準用ス

第四條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ農業藥劑ノ製造ヲ爲ス者農業藥劑ノ輸入若ハ移入ヲ爲ス者、共販機關又ハ農業藥劑ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ農業藥劑ノ需給調整上必要ナル事項ヲ命ジ又ハ必要ナル報告ヲ徵シ若ハ當該官吏ヲシテ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトアルベシ
地方長官必要アリト認ムルトキハ農業藥劑ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ農業藥劑ノ需給調整上必要ナル事項ヲ命ジ又ハ必要ナル報告ヲ徵シ若ハ當該官吏ヲシテ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和十五年十月十一日ヨリ之ヲ施行ス

農業藥劑ノ製造ヲ爲ス者又ハ其ノ輸入若ハ移入ヲ爲ス者ハ第一條ノ規定ニ依ル農業藥劑ノ指定アリタル後二週間以内ニ指定ノ際ニ於ケル農業藥劑ノ種類別在庫數量ヲ農林大臣ニ届出ヅベシ

農業藥劑ノ販賣ヲ爲ス者ハ第一條ノ規定ニ依ル農業藥劑ノ指定アリタル後二週間以内ニ指定ノ際ニ於ケル農業藥劑ノ種類別在庫數量ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

一一八 農業用ホルマリン配給統制要綱

昭和十六年一月九日一五對部第二三二號
農林省臨時農村對策部長商工省價格局長通牒
(略)

一一九 農機具配給統制規則

昭和十五年十二月三日農林省令第百號

昭和十二年法律第九十二號第二條及第三條ノ規定ニ依リ農機具配給統制規則左ノ通定ム

第一條 農林水産業用機械器具ニシテ農林大臣ノ指定シタルモノ(以下農機具ト稱ス)ノ製造ヲ爲ス者ハ其ノ製造ニ係ル農機具ヲ農林大臣ノ指定シタル者(以下統制機關ト稱ス)以外ノ者ニ讓渡スルコトヲ得ズ但シ輸出スルコト明カナル場合ニ於テ輸出ヲ爲ス者ニ農機具ヲ讓渡スル場合、農林大臣ノ指定シタル場合又ハ特別ノ事情ニ依リ農林大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
統制機關以外ノ者ハ農機具ノ製造ヲ爲ス者ヨリ其ノ製造

アリタル後二十日以内ニ指定ノ際ニ於ケル農機具ノ種類別銘柄別在庫數量ヲ地方長官ヲ經由シ農林大臣ニ届出ヅベシ
農機具ノ販賣ヲ爲ス者ハ第一條ノ規定ニ依ル農機具ノ指定アリタル後二週間以内ニ指定ノ際ニ於ケル農機具ノ種類別銘柄別在庫數量ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

一二〇 農機具配給統制規則施行ニ關スル件

昭和十五年十一月二十三日一五對部第七六六號
農林省臨時農村對策部長通牒

農機具ノ圓滑ナル配給ヲ圖ル目的ヲ以テ本年五月八日農機具配給株式會社ノ創立ヲ見爾來右會社ヲ中樞機關トシテ農機具ノ配給統制ニ着手シ來リ候處今般昭和十二年法律第九十二號ニ基キ別紙農林省令第百七號農機具配給統制規則ヲ決定シ昭和十五年十一月二十二日公布相成リ十二月五日ヨリ之ヲ施行シ以テ農機具配給統制ノ強化徹底ヲ圖ルコトト相成候ニ付テハ左記事項御了知ノ上萬遺憾無キヲ期セラレ度依命此段及通牒候也

追而本規則ノ運用ニ付テハ先般昭和十五年十月十九日附一五對部第五一〇八號通牒ノ通全國購買組合聯合會並ニ

統制法 農機具配給統制規則施行ニ關スル件

ニ係ル農機具ヲ讓受クルコトヲ得ズ但シ前項但書ノ規定ニ依リ讓渡スル農機具ヲ讓受クル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第二條 統制機關ハ其ノ取扱フ農機具ノ種類別銘柄別配給先別配給數量ニ付豫メ農林大臣ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
第三條 農林大臣ノ指定シタル者ヲ除クノ外統制機關ヨリ農機具ヲ讓受ケ之ヲ販賣スル者ハ配給セントスル道府縣別ノ種類別銘柄別配給先別配給數量ニ付豫メ當該道府縣ノ地方長官ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ同項ノ農林大臣ノ指定シタル者ヨリ農機具ヲ讓受ケ之ヲ販賣スル者ニ之ヲ準用ス
第四條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ農機具ノ製造ヲ爲ス者、統制機關又ハ農機具ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ農機具ノ需給調整上必要ナル事項ヲ命ジ又ハ必要ナル報告ヲ徵スルコトアルベシ地方長官必要アリト認ムルトキハ農機具ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ農機具ノ需給調整上必要ナル事項ヲ命ジ又ハ必要ナル報告ヲ徵スルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和十五年十二月五日ヨリ之ヲ施行ス
農機具ノ製造ヲ爲ス者ハ第一條ノ規定ニ依ル農機具ノ指定

大日本農機具商業組合聯合會兩者間ニ農機具ノ一元配給ニ關スル協定成立有之候ニ付右ニ關スル限り協定ニ準據シ實施スル方針ナルヲ以テ御了知ノ上至急協定ニ即應シ地方ニ於ケル配給機構ヲ整備相成度申添候

記

- 一、規則第一條第一項ノ規定ニ依ル農機具ハ別紙農林省告示第五百九十七號ノ通り指定セラレタルコト
別紙告示中一ノ二ニ掲グル農機具ニ付テハ日本農機具工業組合聯合會所屬ノ農機具ニ關スル工業組合ノ組員ノ製造ニ係ルモノニ限り之ガ自道府縣内ニ販賣セラレルモノナルト否トニ拘ハラズ本規則ノ適用ヲ受クルモノトナルコト
別紙告示中一ノ三ノ農機具ニ付テハ特ニ農業用ニ向ケラルルモノニ限り本規則ヲ適用スル趣旨ニシテ右ノ農機具ニハ其ノ製造業者ノ所屬スル工業組合(例ヘバ石油機關ニ付テハ内燃機工業組合)ヲシテ農業用ナル旨ヲ明示スル證票ヲ貼附セシムル豫定ナルコト
- 二、規則第一條第一項ノ統制機關ハ告示ニ依リ農機具配給株式會社ヲ指定セラレタルヲ以テ本規則施行後ハ同告示ニ依リ指定セラレタル農機具ハ總テ右會社ヲ通ジ配給セラレタルコトナリタルコト

右會社ノ事務所所在地ハ左ノ通りナルコト

本店 東京市日本橋區竊鼓町一丁目十三番地ノ一

支店 大阪市西區江ノ子島二十一番地

大阪府立工業獎勵館内

三、本規則ニ於テ「讓渡」又ハ「讓受」トハ本規則施行前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡又ハ受入ヲ含ムモノナルコト

四、規則第一條第一項但書ノ「輸出」トハ當然關東州、滿洲及支那ニ對スル輸出ヲ含ムモノニシテ「明カナル場合」トハ例ヘバ日本農機具輸出組合ノ輸出承認書アル場合等内需向ト明確ニ區別セラルル場合ヲ謂フモノナルコト

五、規則第二條ノ規定ニ依ル統制機關ノ配給計畫ハ道府縣別ニ直接統制機關ヨリ農機具ノ購入ヲ爲スベキ者ニ付各農機具ノ種類別銘柄別數量ヲ決定セシムル豫定ナルヲ以テ右以外ノ者ハ統制機關ヨリ直接農機具ヲ買受クルコトヲ得ザルコト

尙本規則ノ運用ニ當リテハ昭和十五年十月十九日附一五對部第五一〇八號通牒ノ通り全國購買組合聯合會及大日本農機具商業組合聯合會兩者間ノ協定ニ準據シ右ニ該當スル農機具ノ中央ニ於ケル配給計畫ハ總テ道府縣別ニ全購聯ヲ配給先ト指定シ計畫セシムル豫定ナル

コト

官廳用品、公共團體用品等ニ付テモ本配給計畫ニ組入ルル方針ナルコト

六、規則第三條第一項ノ規定ニ依ル農林大臣ノ指定シタル者トシテ別紙告示ニ依リ全國購買組合聯合會ヲ指定セラレタルヲ以テ同會ヨリ農機具ノ購入ヲ爲ス道府縣購買組合聯合會等ニ付テモ前號ノ方針ニ依リ措置セラレ度キコト

七、規則第三條ノ運用ニ付テハ需要ノ緊急性等ヲ考慮ノ上豫メ道府縣内ノ配給計畫ヲ樹立シ配給業者ヲシテ右計畫ニ即應シタル配給計畫ヲ樹立セシメテ之ガ承認ヲ爲シ配給ノ適正迅速ヲ圖ルコト

八、右ノ道府縣内ノ配給方法ニ關シテハ貴官限リ適正ナル措置ヲ講ゼラルベキモノナルヲ以テ之ガ要項決定次第遲滯ナク其ノ概要ヲ農林省ニ報告セラレ度キコト

九、規則第四條ノ販賣ヲ爲ス者ノ範圍ハ第三條ノ場合ニ比シ廣汎ニシテ小賣業者等ヲモ當然含ムモノナルコト

一〇、規則第四條第二項ニ依リ農機具ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ需給調整上必要ナル事項ヲ命ジタル場合ハ其ノ都度其ノ大要ヲ具シ農林省ニ報告セラレ度キコト

動力耕耘機（原動機ヲ除ク）

乾燥機

篩分機

切斷機

穀物火力乾燥機

製糞機（糞用）

製糞機（糞用）

製糞機

畜力傳動機

煙草乾燥裝置

飼料脫粒機

藁切機（押切ヲ除ク）

藁毛羽取器

カルチパツカー

肥料撒布機

蒸機

粗採機

揉捻機

再乾機

中採機

精採機

乾燥機

篩分機

切斷機

熬機

糞加工用機

糞打機

製糞機（糞用）

製糞機

畜力傳動機

煙草乾燥裝置

飼料脫粒機

藁切機（押切ヲ除ク）

藁毛羽取器

カルチパツカー

肥料撒布機

蒸機

粗採機

揉捻機

再乾機

中採機

精採機

品ヲ販賣スルハ規則ニ抵觸スル所ニ在ラザルモ今後本規則ニ依リ統制機關ヨリ配給セラルル分ト明確ニ區別シ取締上混淆ヲ來スコト無キ様監督スルト共ニ現下農機具ノ需給事情ニ鑑ミ之ガ配給ニ關シテハ貴官ノ指示ニ從ハシムル様取計ハレ度キコト

一二一 農機具配給統制規則第一條第一項及第三條第一項ノ規定ニ依ル指定ノ件

昭和十五年十二月三日農林省告示第五九七號
改正昭和十五年十二月農林省告示第六五七號

農機具配給統制規則第一條第一項及第三條第一項ノ規定ニ依リ左ノ通指定シ昭和十五年十二月五日ヨリ之ヲ施行ス

- 一 第一條第一項ノ農機具
- (一) 左ニ掲グル機械器具

統制法 農機具配給統制規則第一條第一項及第三條第一項ノ規定ニ依リ指定ノ件

統制法

農機具配給統制規則第一條第一項及第三條第一項ノ規定
ニ依リ指定ノ件

甜菜掘取器

根菜截斷機

肥料配合機

飼料配合機

飼料截斷機

飼料粉碎機

石油機關

(二) 左ニ掲グル機械器具ニシテ日本農機具工業組合聯合會所屬組合(其ノ所屬組合ヲ含ム)ノ組合員ノ製造ニ

飼料粉末機

ディーゼル機關

係ルモノ

穀物調製用扇風器

二 第一條第一項ノ統制機關
農機具配給株式會社

碎土器(代播馬鍬

唐箕

三 第三條第一項ノ農林大臣ノ指定シタル者
保證責任全國購買販賣組合聯合會

ヲ除ク)

萬石

播種器

肥料用フオーク

土入器

鋏(剪定用、茶摘用、剪毛用)

株切器

イモ切機

水田中耕除草器

製蔴器

畑中耕除草器

拔根機

誘蛾燈

(三) 左ニ掲グル機械器具ニシテ其ノ製造ヲ爲ス者ノ所屬スル工業組合ニ於テ當該機械器具ハ農業用ニ向ケラ

ルベキモノナル旨ノ證明ヲ爲シタルモノ

精米機

製粉機(人力製粉機ヲ除ク)

精麥機

製麵機

壓麥機

肥料粉碎機

挽麥機

肥料粉末機

【第八類】

其

他

【第八號】 其 出

(一) 稅法關係

一 所得稅法抄

昭和十五年三月二十九日法律第二十四號

第一章 總則

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ハ本法ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セザル個人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

- 一 本法施行地ニ資産又ハ事業ヲ有スルトキ
- 二 本法施行地ニ於テ公債、社債若ハ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ノ支拂ヲ受クルトキ
- 三 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ヲ受クルトキ
- 四 本法施行地ニ於テ俸給、給料、歳費、費用辨償(月額又ハ年額ヲ以テ支給スルモノニ限ル以下同ジ)、年金(郵便年金ヲ除ク以下同ジ)、恩給、賞與若ハ退職給與

其他 所得稅法抄

又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ受クルトキ

第八條 左ノ金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做シ本法ヲ適用ス

- 一 株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社若ハ出資ノ減少ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額ガ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額
- 二 法人解散シタル場合ニ於テ殘餘財産ノ分配トシテ株主又ハ社員ノ受クル金額ガ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額
- 三 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員ガ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額及金錢ノ總額ガ其ノ株主又ハ社員ノ有シタル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額

第九條 所得稅ハ之ヲ分類所得稅及綜合所得稅ノ二種トス

第二章 分類所得稅

第十條 分類所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス
第一 不動産所得(略)

其他 所得稅法抄

第二 配當利子所得

甲種 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ預金(法人ニ對スル預金ニ限ル)ノ利子及合同運用信託ノ利益並ニ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配

乙種 營業ニ非ザル貸金ノ利子並ニ甲種ニ屬セザル公債、社債又ハ預金ノ利子、合同運用信託ノ利益及法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配

第三 事業所得(略)

第四 勤勞所得

甲種 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル俸給、給料、歳費、費用辨償、年金、恩給(一時金タル恩給ヲ除ク)及賞與並ニ此等ノ性質ヲ有スル給與但シ命令ヲ以テ定ムル個人ヨリ支拂ヲ受クルモノヲ除ク

乙種 甲種ニ屬セザル俸給、給料、歳費、費用辨償、年金、恩給(一時金タル恩給ヲ除ク)及賞與並ニ此等ノ性質ヲ有スル給與

第五 山林ノ所得(略)

第六 退職ノ所得(略)

第十一條 左ノ各號ニ該當スル所得ニハ分類所得稅ヲ課セ

ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス

第十六條 甲種ノ勤勞所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ年七百二十圓ノ割合ニ依リ給與ノ支給期間ニ應ジテ算出シタル金額ヲ其ノ給與ヨリ控除ス

同一ノ支拂者ヨリ賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ト其ノ他ノ給與トヲ併セ受クル者ニ在リテハ前項ノ控除ハ先ヅ賞與及賞與ノ性質ヲ有スル給與以外ノ給與ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ及ブ

二以上ノ支拂者ヨリ甲種ノ勤勞所得ヲ受クル者ニ付テハ前二項ノ規定ニ依リ控除ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 事業所得及乙種ノ勤勞所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所得ヨリ左ノ金額ヲ控除ス

一 事業所得ニ付テハ五百圓

二 乙種ノ勤勞所得ニ付テハ七百二十圓

事業所得ト乙種ノ勤勞所得トヲ有スル者ノ事業所得ニ付テハ前項第一號ノ規定ニ依リ控除ハ之ヲ爲サズ但シ乙種ノ勤勞所得ガ七百二十圓ニ滿タザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ五百圓ト乙種ノ勤勞所得ノ七・二分ノ五ニ相當スル金額トノ差額ヲ事業所得ヨリ控除ス

第十八條 前年中ニ甲種ノ勤勞所得ニ付第十六條第一項ノ

其他 所得稅法抄

ズ

二

一 軍人及軍屬ノ從軍中ノ俸給、手當及賞與

二 傷痍疾病者ノ恩給並ニ遺族ノ恩給及年金

三 旅費、學資金及法定扶養料

四 郵便貯金ノ利子及命令ヲ以テ定ムル當座預金ノ利子

五 元本三千圓ヲ超エザル銀行貯蓄預金、產業組合貯金其ノ他命令ヲ以テ定ムル預金ノ利子

六 乙種ノ事業所得中營利ヲ目的トスル繼續的行爲ヨリ生ジタルニ非ザル一時ノ所得

七 日本ノ國籍ヲ有セザル者ノ本法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生ズル所得

前項第五號ノ元本ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十二條 分類所得稅ヲ課スベキ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

二 甲種ノ配當利子所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額但シ法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ支拂ヲ受クベキ金額ヨリ其ノ十分ノ一ヲ控除シタル金額

(第四項) 不動産所得、配當利子所得及山林ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ事業所得ニ付テハ相續シタル資産又ハ事業ハ相續人ガ引續キ之

規定ニ依リ控除ヲ受ケタル者ノ事業所得又ハ乙種ノ勤勞所得ニ付テハ前條ノ規定ニ依リ控除ハ之ヲ爲サズ但シ前年中ニ甲種ノ勤勞所得ニ付第十六條第一項ノ規定ニ依リ控除シタル金額ガ七百二十圓ニ滿タザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所得ヨリ左ノ金額ヲ控除ス

一 事業所得ニ付テハ五百圓ト第十六條第一項ノ規定ニ依リ控除シタル金額ノ七・二分ノ五ニ相當スル金額トノ差額

二 乙種ノ勤勞所得ニ付テハ七百二十圓ト第十六條第一項ノ規定ニ依リ控除シタル金額トノ差額

三 前第二號ノ所得ヲ併セ有スルトキハ其ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル金額

第二十一條 分類所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

第一 不動産所得 百分ノ十

第二 配當利子所得 百分ノ十

甲種

一 國債ノ利子 百分ノ四

二 國債以外ノ公債ノ利子 百分ノ九

三 其ノ他 百分ノ十

乙種 百分ノ十

第四 勤勞所得 百分ノ六

三

銀行貯蓄預金、産業組合貯金其ノ他命令ヲ以テ定ムル預金ノ利子及産業組合、工業組合、商業組合等命令ヲ以テ定ムル法人ヨリ受クル剩餘金ノ分配ニ付テハ前項中配當利子所得甲種第三號ニ規定スル稅率百分ノ十ハ之ヲ百分ノ五トス

(第四項) 戶主及其ノ同居家族ノ事業所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ事業所得ニ付亦同ジ

第二十四條 甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年一月一日現在ノ扶養家族一人ニ付年百五十圓ノ割合ニ依リ給與ノ支給期間ニ應ジテ算出シタル金額ノ百分ノ八ニ相當スル金額ヲ分類所得稅額ヨリ控除ス

同一ノ支拂者ヨリ賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ト其ノ他ノ給與トヲ併セ受クル者ニ在リテハ前項ノ控除ハ先ヅ賞與及賞與ノ性質ヲ有スル給與以外ノ給與ニ對スル分類所得稅ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ對スル分類所得稅ニ及ブ

二以上ノ支拂者ヨリ甲種ノ勤勞所得ヲ受クル者ニ付テハ前二項ノ規定ニ依ル控除ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

テ命令ヲ以テ定ムル金額ノ百分ノ六ニ相當スル金額ヲ不動産所得、事業所得、勤勞所得又ハ山林ノ所得ニ對スル分類所得稅額ヨリ控除ス

第二十七條 第二十四條、第二十五條及前條ノ規定ハ第二條ノ規定ニ依ル納稅義務者ニハ之ヲ適用セズ

第四章 申告、申請、調査及決定

第三十五條 甲種ノ勤勞所得ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第十六條ノ規定ニ依ル控除ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第二十四條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ政府ニ提出スベシ

第七章 徵收

第七十二條 甲種ノ配當利子所得、甲種ノ勤勞所得又ハ甲種ノ退職所得ニ對スル分類所得稅ハ支拂者支拂ノ際之ヲ徵收シ翌月十月迄ニ政府ニ納付スベシ

第七十四條 第七十二條ノ規定ニ依リ徵收スベキ分類所得稅ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第一項ノ扶養家族ガ前年中ニ甲種ノ勤勞所得ヲ有シ又ハ其ノ年分ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得若ハ山林ノ所有ヲ有スル場合ニ於テ第十六條第一項、第十七條、第十八條又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ此等ノ所得ヨリ控除スル金額ガ總額ニ於テ百五十圓ヲ超ユルトキハ其ノ扶養家族ニ付テハ第一項ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ

第一項ノ扶養家族ニ付第二十五條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ爲ストキハ其ノ扶養家族ニ付テハ第一項ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ

第二十六條 本法ニ於テ扶養家族トハ當該所得ヲ有スル者ノ同居ノ妻並ニ同居ノ戶主及家族中年齡十八歲未滿若ハ六十歲以上又ハ不具癱疾ノ者ヲ謂フ

第二十六條ノ二 自己若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ拂込ミタル保險料アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險料中年額二百圓以内ニ於

法人解散シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ徵收セラルル稅金ヲ納付セズシテ剩餘財產ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第八章 雜則

第七十九條 俸給、給料、歳費、費用辨償、年金、恩給若ハ賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第八十條 左ニ掲グル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スベシ

- 一 俸給、給料、歳費、費用辨償、年金、恩給若ハ賞與
- 又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者
- 二 公債、社債若ハ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ノ支拂ヲ爲ス者

三 利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人合同運用信託以外ノ信託ノ受託者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各信託ニ付計算書ヲ政府ニ提出スベシ

第八十三條 政府ハ第七十二條ノ規定ニ依リ甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅ヲ徵收シタル者及第八十條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタ

其他 所得稅法施行規則抄

ル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

第八十七條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ所得稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第九章 罰則

第九十條 正當ノ事由ナクシテ第八十條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スベキ支拂調書若ハ計算書ヲ提出セズ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル支拂調書若ハ計算書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

二 所得稅法施行規則抄

昭和十五年三月三十一日勅令第三百三十四號
改正昭和十六年一月勅令第八十號

第二章 分類所得稅

第五條 所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル俸給、給料及賞與並ニ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ常時十人以上ノ使用人ヲ使用シ稅務署長ノ指定シタル個人ヨリ受クルモ

スル利率ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

同一人ガ同一ノ支拂者ニ對シ二口以上ノ預金又ハ貯金ヲ有スルトキハ所得稅法第十一條第一項第五號及前條ノ元本額ハ此等ノ預金又ハ貯金ヲ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス

第十條 所得稅法第十二條ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料、收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

第十三條 甲種ノ勤務所得ニ屬スル賞與(賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ含ム以下同ジ)以外ノ給與ニ付テハ所得稅法第十六條第一項規定ニ依リ左ノ金額ヲ其ノ給與ヨリ控除ス

- 一 支拂ヲ受クベキ給與ガ一月分ナルトキハ六十圓
- 二 同半月分ナルトキハ三十圓
- 三 同一旬分ナルトキハ二十圓
- 四 同一週分ナルトキハ十四圓
- 五 前各號ニ該當セザル給與ナルトキハ八年七百二十圓

其他 所得稅法施行規則抄

ノハ所得稅法第十條ニ規定スル甲種ノ勤務所得トシ其ノ他ノ個人ヨリ受クルモノハ同條ニ規定スル乙種ノ勤務所得トス

稅務署長前項ノ指定ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ指定ヲ受ケタル者ニ通知スベシ其ノ指定ヲ取消シタルトキ亦同ジ
第一項ノ指定及其ノ取消ハ前項ノ通知ヲ爲シタル年ノ翌年一月一日ヨリ其ノ效力ヲ發生ス

第六條 小切手ヲ以テ引出ス當座預金ニシテ元本百圓ニ付日歩三厘ヲ超エザルモノノ利子ニハ所得稅法第十一條第一項第四號ノ規定ニ依リ分類所得稅ヲ課セズ

第七條 左ニ掲グル法人ニ對スル預金ニシテ元本三千圓ヲ超エザルモノノ利子ニハ所得稅法第十一條第一項第五號ノ規定ニ依リ分類所得稅ヲ課セズ

- 一 工業組合、商業組合、貿易組合及漁業協同組合
- 二 工業組合聯合會、商業組合聯合會、貿易組合聯合會及商工組合中央金庫
- 三 恩給金庫及庶民金庫

第八條 所得稅法第十一條第一項第五號及前條ノ元本額ハ支拂ヲ受クベキ預金又ハ貯金ノ利子金額ヲ年額ニ換算シタルモノヲ當該預金又ハ貯金ノ年利率又ハ年利率ニ相當

ノ割合ニ依リ給與ノ支給期間ニ應ジテ算出シタル金額

第十四條 同一ノ支拂者ヨリ甲種ノ勤務所得ニ屬スル賞與ト賞與以外ノ給與トヲ併セ受クル者ノ該賞與ニ付テハ所得稅法第十六條第二項ノ規定ニ依リ其ノ年中ニ於テ受クル賞與以外ノ給與ニシテ前條ノ規定ニ依リ控除額ニ達セザルモノアルトキニ限リ其ノ不足額ヲ賞與ヨリ控除ス

前項ノ不足額ハ豫算ニ依リ算出シ之ヲ賞與ヨリ控除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ豫算ニ依リ算出シタル不足額ガ實際ノ不足額ト異ルトキハ其ノ差額ニ對スル分類所得稅ニ付テハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

- 一 實際ノ不足額ガ豫算ニ依リ算出シタル不足額ヲ超過スルトキハ本人ノ申請ニ依リ更ニ其ノ差額ヲ賞與ヨリ控除シ過納ト爲リタル分類所得稅ニ相當スル金額ヲ其ノ年經過後本人ニ還付ス
- 二 實際ノ不足額ガ豫算ニ依リ算出シタル不足額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ニ對スル分類所得稅ヲ其ノ年ニ於ケル最終ノ給與支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收スベシ

月三十一日迄ニ其ノ申請書ヲ支拂者ヲ經由シテ所轄稅務署ニ提出スベシ

第十五條 同一ノ支拂者ヨリ甲種ノ勤勞所得ニ屬スル給與ノ中賞與ノミノ支拂ヲ受クル者ノ該賞與ニ付テハ支拂ノ際ニ於テハ所得税法第十六條第一項ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ但シ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ各其ノ定ムル所ニ依ル

一 其ノ年中ニ他ニ甲種ノ勤勞所得ヲ有セザル場合ニ於テハ本人ノ申請ニ依リ七百二十圓ヲ賞與ヨリ控除シ過納ト爲リタル分類所得稅ニ相當スル金額ヲ還付ス

二 其ノ年中ニ他ニ甲種ノ勤勞所得ヲ有スル場合ニ於テ其ノ金額ガ七百二十圓ニ滿タザルトキハ本人ノ申請ニ因リ七百二十圓ト該勤勞所得トノ差額ヲ賞與ヨリ控除シ過納ト爲リタル分類所得稅ニ相當スル金額ヲ還付ス前項但書ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケントスル者ハ翌年一月三十一日迄ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第二十二條 左ニ掲グル法人ヨリ受クル剩餘金ノ分配ニ付テハ所得税法第二十一條第一項中配當利子所得甲種第三號ニ規定スル稅率百分ノ十八之ヲ百分ノ五トス

一 産業組合、工業組合、商業組合、貿易組合、漁業協同組合及蠶絲共同施設組合

二 工業組合聯合會

第二十四條 甲種ノ勤勞所得ニ屬スル賞與以外ノ給與ニ付テハ所得税法第二十四條第一項ノ規定ニ依リ給與ヲ受クル者ノ申請ニ依リ其ノ年一月一日現在ノ扶養家族一人ニ付左ノ金額ヲ分類所得稅額ヨリ控除ス

- 一 支拂ヲ受クベキ給與ガ一月分ナルトキハ一圓
- 二 同半月分ナルトキハ五十錢
- 三 同一旬分ナルトキハ三十四錢
- 四 同一週分ナルトキハ二十四錢
- 五 前各號ニ該當セザル給與ナルトキハ年十二圓ノ割合ニ依リ給與ノ支給期間ニ應ジテ算出シタル金額

第二十五條 同一ノ支拂者ヨリ甲種ノ勤勞所得ニ屬スル賞與ト賞與以外ノ給與トヲ併セ受クル者ノ該賞與ニ對スル分類所得稅ニ付テハ其ノ年中ニ於テ受クル賞與以外ノ給與ニ對スル分類所得稅ニシテ前條ニ規定スル控除金額ニ達セザルモノアルトキニ限り其ノ不足額ヲ賞與ニ對スル分類所得稅額ヨリ控除ス

第十四條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第二十六條 同一ノ支拂者ヨリ甲種ノ勤勞所得ニ屬スル給與ノ中賞與ノミノ支拂ヲ受クル者ノ該賞與ニ對スル分類

分類所得稅額ヨリ控除ス

前年中ニ拂込ミタル生命保險料ノ總額	支拂ヲ受クベキ給與ガ一月分ナルトキ	同半月分ナルトキ	同一旬分ナルトキ	同一週分ナルトキ
十圓以下ナルトキ	四錢	二錢	一錢	一錢
十圓ヲ超エ二十圓以下ナルトキ	八錢	四錢	二錢	二錢
二十圓ヲ超エ六十圓以下ナルトキ	二十錢	十錢	七錢	五錢
六十圓ヲ超エ百圓以下ナルトキ	四十錢	二十錢	十四錢	十錢
百圓ヲ超エ二百圓以下ナルトキ	六十錢	三十錢	二十錢	十四錢
二百圓ヲ超エ四百圓以下ナルトキ	八十錢	四十錢	二十七錢	十九錢
四百圓ヲ超エ八百圓以下ナルトキ	一圓	五十錢	三十四錢	二十四錢

前項ノ場合ニ於テ甲種ノ勤勞所得方前表ニ掲グル給與以外ノモノナルトキハ支拂ヲ受クベキ給與ガ一月分ナルトキニ付前表ニ定ムル金額ヲ給與ノ支給期間ニ應ジテ換算シタル金額ヲ分類所得稅額ヨリ控除ス

同一ノ支拂者ヨリ賞與ト賞與以外ノ給與トヲ併セ受クル者ニ在リテハ前二項ノ控除ハ先ヅ賞與以外ノ給與ニ對スル分類所得稅ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ賞與ニ對スル

所得稅ニ付テハ支拂ノ際ニ於テハ所得税法第二十四條第一項ノ規定ニ依ル控除ハ之ヲ爲サズ

前項ノ場合ニ於テ其ノ年中ニ他ノ所得ニ付所得税法第二十四條第一項又ハ第二十五條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケザル扶養家族アルトキハ給與ヲ受クル者ノ申請ニ依リ其ノ扶養家族一人ニ付十二圓ヲ該賞與ニ對スル分類所得稅額ヨリ控除シ過納ト爲リタル分類所得稅ニ相當スル金額ヲ還付ス

前項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスル者ハ翌年一月三十一日迄ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第二十七條 同居ノ戸主又ハ家族中二人以上ノ者ガ甲種ノ勤勞所得ニ屬スル給與ヲ受クル場合ニ於テ其ノ中一人ノ甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅額ヨリ所得税法第二十四條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル扶養家族ニ付テハ其ノ他ノ者ノ甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅額ヨリハ同項ノ規定ニ依ル控除ヲ爲サズ

第三十一條 自己若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ保險料ヲ拂込ミタル者ノ甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅ニ付テハ所得税法第二十六條ノ二ノ規定ニ依リ本人ノ申請ニ依リ給與ノ支給期間及前年中ニ拂込ミタル保險料ノ總額ニ應ジ左表ノ金額ヲ

其他 所得稅法施行規則抄

分類所得稅ニ及ブ
第二十五條及第二十六條ノ規定ハ前三項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三章 綜合所得稅

第三十五條 左ニ掲グル法人ヨリ受クル剩餘金ノ分配ニ付テハ所得稅法第三十三條第三項ニ規定スル割合百分ノ一ハ之ヲ百分ノ〇・五トス

- 一 産業組合、工業組合、商業組合、貿易組合、漁業協同組合及蠶絲共同施設組合
- 二 工業組合聯合會

第七章 徵收

第八十一條 甲種ノ配當利子所得、甲種ノ勤勞所得又ハ甲種ノ退職所得ニ付其ノ金額ノ支拂者所得稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムベシ所得稅法第一條ノ規定ニ該當セザル者ノ受クル甲種ノ配當利子所得、甲種ノ勤勞所得又ハ甲種ノ退職所得ニ付テハ尙其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ各人別明細書ヲ添附スベシ

第八章 雜則

第九十二條 所得稅法第八十條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ所轄稅務

署ニ提出スベシ但シ登錄國債、郵便官署ノ保管ニ係ル公債社債若ハ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニシテ同一人ニ對スル支拂金額年百圓未滿ナルモノ並ニ第九十條但書ニ規定スル公債又ハ社債ノ利子ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 俸給、給料、歳費、費用辨償、年金、恩給若ハ賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ毎年一月末日限
- 二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタル日ヨリ三十日以内但シ無記名ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ毎年三月十五日限
- 三 公債、社債若ハ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニ付テハ毎年一月末日限

無記名ノ公債、社債又ハ株式ノ利子又ハ配當ニ付テハ第九十條ノ規定ニ依ル告知書ヲ以テ前項ノ支拂調書ニ代フルコトヲ得

第九十三條 前條ノ支拂調書ニハ左ノ各號ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル者ノ住所又ハ居所、氏名又ハ名稱及各人別支拂金額ヲ記載スベシ

- 一 俸給、給料、歳費、費用辨償、年金、恩給若ハ賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ前年中ノ支拂金

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケントスル者ハ翌年一月三十一日迄ニ請求書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第九十七條 第九十二條又ハ第九十四條ノ規定ニ依リ支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ依リ左ノ金額ヲ交付ス但シ所得稅法第九十條ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ノ提出ニ係ル支拂調書又ハ計算書ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 第九十二條ニ規定スル支拂調書ニ付テハ記載事項一件一人毎ニ五圓
- 二 第九十四條ニ規定スル計算書ニ付テハ一信託毎ニ三圓

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケントスル者ハ支拂調書又ハ計算書提出後三十日以内ニ請求書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

附則

第九十六條 本令ハ昭和十五年法律第二十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九十七條 俸給、給料若ハ賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス個人ニシテ常時十人以上ノ使用人ヲ使スルモノハ昭和十五年ニ限リ第九十一條ノ規定ニ依リ申告書ノ外昭和十五年四月一日現在ニ於ケル使用人ノ職名別人員ヲ記載シタル申告書ヲ本令施行後直ニ所轄稅務

其他 所得稅法施行規則抄

額及其ノ金額計算ノ基礎、所得稅法第十六條、第二十四條又ハ第二十六條ノ二ノ規定ニ依リ控除ヲ爲シタル金額並ニ分類所得稅ヲ徵收シタルモノニ在リテハ該稅額ニ付テハ前年中ノ支拂金額、公債、社債、預金又ハ合同運用信託ノ種類、元本、利率、利子計算期間其ノ他支拂金額計算ノ基礎、支拂金額ノ確定シタル月日、配當利子特別稅ヲ課セラレタルモノニ在リテハ該稅額並ニ無記名ノ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受ケタル者ガ元本ノ所有者ト異ルトキハ元本所有者ノ住所又ハ居所及氏名又ハ名稱

三 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ其ノ支拂金額（無記名ノ株式ニ付テハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間ノ支拂金額）、支拂金額ノ確定シタル月日（無記名ノ株式ニ付テハ支拂月日）並ニ其ノ支拂ヲ受クル者ノ種類別及拂込金額別株式數、出資金額、基金其ノ他支拂金額計算ノ基礎

第九十六條 所得稅法第七十二條ノ規定ニ依リ甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅ヲ徵收シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ依リ毎年取扱ヒタル甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅ノ納稅者一人ニ付十錢ヲ交付ス

其他 所得稅法施行細則抄

署ニ提出スベシ

附 則 (昭和十六年勅令第八十號)

本令ハ昭和十五年法律第百六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十六年一月勅令第七十六號ニヨリ同年二月一日ヨ
リ施行)

三 所得稅法施行細則抄

大正十年五月十一日大藏省令第十四號
改正昭和十五年四月大藏省令第九號

第一條 所得稅法施行規則第八十一條及第一百五條(所得

稅法人稅内外地關涉法施行規則第十條ニ於テ準用スル場
合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ、計算書

ハ第三號書式ニ、明細書ハ第四號書式ニ依リ調製スヘシ

第三條 甲種ノ配當利子所得、甲種ノ勤勞所得若ハ甲種ノ
退職所得又ハ所得稅法第六條第一項及所得稅法人稅内
外地關涉法第二十二條第一項ニ規定スル利子若ハ利益ニ
付所得稅ノ過誤納アリタル爲之カ下戻ヲ請求セムトスル
者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子、配當金又ハ給與等ノ支拂
地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提
出スヘシ

第三條ノ二 所得稅法施行規則第十四條第二項第一號(第

一一

二十五條第二項及第三十一條第四項ニ於テ準用スル場合
ヲ含ム)、第十五條第一項但書、第十七條第二項及第二十
六條第二項(第三十一條第四項ニ於テ準用スル場合ヲ含
ム)ノ規定ニ依リ分類所得稅ニ相當スル金額ノ還付ヲ受
ケントスル者ハ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ
請求書ヲ提出スヘシ

第四條 所得稅法施行規則第九十二條及第九十四條ノ規定

ニ依ル支拂調書及計算書ハ第五號書式ニ依リ調製スヘシ

附 則

本令ハ昭和十五年法律第二十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
法人ノ本令施行前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得稅及本
令施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所
得稅並ニ本令施行前ニ賦課シ若ハ賦課スヘカリシ又ハ徵收
シ若ハ徵收スヘカリシ第二種又ハ第三種ノ所得ニ對スル所
得稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

諸 書 式

但シ第三號甲、第三號丙、第三號戊、第四號乙、第四號丙、
第四號丁、第五號乙、第五號丙、第五號丁、第五號己、第
五號庚、第六號、第七號、第八號各書式ハ必要ナキニ付省
略ス

第一號書式 (用紙適宜 輪廓 縱四寸五分 橫三寸三分)

所得稅拂込書

第	何	號	何	年	度	大	藏	省	主	管
租	稅	所	得	稅	分	類	所	得	稅	何
						(又ハ綜合)				稅
						所得稅)				務
						所得稅				署
<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 0 auto;"> ¥ </div>										
頭書ノ金額拂込候也										
何縣何郡何町何番地										
何 某 團										
(其ノ他之ニ準ス)										
昭和何年何月何日										

備 考

- 一、本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スヘシ
- 二、綜合所得稅ニ付テハ分類所得稅トアル箇所ヲ綜合所得稅所得稅法第六條ノ場合等ト改記スルモノトス
- 三、拂込人官公署、公法人又ハ私法人其ノ他ノ團體ナルトキハ官公署名、法人名又ハ團體名ヲ肩書シ代表者氏名ヲ記載スルモノトス

(第二號書式略)

其他 所得稅法施行細則抄

一三

昭和何年何月分
 公社債銀行預金ノ利子等ニ對
 スル綜合所得稅徵收高計算書
 合同運用信託、銀行貯蓄預金等ヲ含ム

第三號書式已
 (用紙縦八寸五分)

備考

一、銀行貯蓄預金等利子ノ欄ニハ銀行貯蓄預金、産業組合貯金其ノ他所得稅法施行規則第二十一條ニ規定スル預金ノ利子ニ付記載スルモノトス
 其他 所得稅法施行細則抄

區分		申請者ノ數	支拂口數	支拂金額	稅額	摘要
何	分			圓		
何	公債利子					
何	分債利子					
何	社債利子					
小計						
預金ノ利子	銀行預金					
	當座預金					
	特別當座預金					
	通知預金					
	定期預金					
計						
銀行貯蓄預金等利子其ノ他ノ預金利子						
小計						
合同運用信託ノ利益						
合計						

昭和何年何月何日

何縣、何市町村、何某又ハ何會社

昭和何年
 甲種ノ勤勞所得ニ對スル

其他 所得稅法施行細則抄

區分	支給總額		基礎控除ニ因リ失格スルモノ		基礎控除ニ因リ失格セサルモノ			
	人員	支給額	人員	支給額	人員	支給額	基礎控除額	算出稅額
俸給給料	人	圓	人	圓	人	圓	圓	圓
.....								
賞與								
歲費								
費用辨償								
年金								
恩給(一時恩給ヲ除ク)								
合計								

昭和何年何月何日

區分	扶養控除及保險料控除ニ因リ失格スルモノ		扶養控除及保險料控除ニ因リ失格セサルモノ	
	扶養控除	保險料控除	扶養控除	保險料控除
人員	人	人	人	人
控除費	圓	圓	圓	圓

其他 所得税法施行細則抄
第五號書式戊(用紙美濃判)

何年分甲種ノ勤勞所得ニ屬スル俸給其ノ他支拂調書
年 月 日
官公衙名、法人代表者
其ノ他支拂者 氏 名 團

金額	計算ノ基礎	金額	計算ノ基礎	賞與	基礎控除額	扶養家族ノ控除額	生命保徵收シタル分類所	摘要	支拂ヲ受クル者	
									住所又ハ居所名	官職氏名
		何手當		何賞與		人員	控除額	控除額	得稅額	

備考
一、俸給、給料、歳費、費用辨償、年金、恩給若ハ賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ甲種ノ勤勞所得ニ屬スルモノノ支拂調書ハ總テ本様式ニ依ルモノトス
二、給與ノ額ハ總テ前年中ニ支拂ノ確定シタルモノヲ記載スルコトトシ現ニ在勤セサル者ノ分ニ付テモ記載スルモノトス
三、計算ノ基礎ハ例ヘハ一月ヨリ何圓七月ヨリ何圓ノ如ク記載スルモノトス
四、基礎控除額、扶養家族ノ控除額、生命保険料ノ控除額ノ各欄ハ前年中甲種ノ勤勞所得ニ付分類所得稅額ヨリ控除シタル各金額(基礎控除額ニ付テハ前年中ニ控除シタル金額)ヲ記載スルモノトス

五、住所又ハ居所ハ支拂調書提出當時ニ於ケルモノニ依リ記載スルモノトス
六、摘要欄ニハ就職、退職、轉勤ノ異動月日其ノ他參考事項ヲ記載スルモノトス
七、恩給及年金ニシテ代理受領ニ係ルモノニ付テハ代理受領者ノ住所氏名ヲ摘要欄ニ記載スルモノトス
八、稅務署長ノ承認ヲ得タルトキハ本様式ト異リタル様式ニ依リ調製スルコトヲ得ルモノトス
(以下 略)

四 特別法人税法

昭和十五年三月二十九日法律第二十六號
改正昭和十五年四月法律第六號

第一條 本法施行地ニ主タル事務所ヲ有スル特別ノ法人ハ本法ニ依リ特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス
第二條 本法ニ於テ特別ノ法人トハ左ニ掲グル法人ヲ謂フ
一 産業組合及産業組合聯合會
二 商業組合及商業組合聯合會(所屬ノ組合員、組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)
三 工業組合及工業組合聯合會(所屬ノ組合員、組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)
四 貿易組合及貿易組合聯合會(所屬ノ組合員、組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)
五 漁業協同組合及漁業組合聯合會
其他 特別法人税法

六 蠶絲共同施設組合
七 自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會(所屬ノ組合員、組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)
八 産業組合中央金庫
九 商工組合中央金庫
第三條 特別法人稅ハ特別ノ法人ノ剩餘金ニ付之ヲ賦課ス
第四條 特別ノ法人ノ剩餘金ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル
特別ノ法人ガ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スベキ金額ハ前項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス
特別ノ法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ特別法人稅ハ第一項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入

セズ

特別ノ法人ノ各事業年度開始前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ第一項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス
前三項ニ規定スルモノノ外第一項ノ剩餘金ノ計算ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 前條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ヲ計算スル場合ニ於テ特別ノ法人ガ國債ヲ所有スルトキハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間分ノ利子額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ剩餘金ヨリ控除ス

第六條 特別ノ法人ノ前條ノ規定ニ依ル控除前ノ剩餘金額ガ其ノ拂込濟出資金額ニ對シ年百分ノ三ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超エザルトキハ特別法人税ヲ課セズ
前項ノ拂込濟出資金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第七條 特別ノ法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第八條 合併後存續スル特別ノ法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル特別ノ法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人

件ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ特別ノ法人ニ通知スベシ

第十四條 特別ノ法人前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル剩餘金額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得
前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徴收ヲ猶豫セズ

第十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得税法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス
所得税法第三十八條及第六十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十六條 前條第一項ノ決定ニ對シ不服アル特別ノ法人ハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十七條 特別法人税ハ事業年度毎ニ之ヲ徴收ス
第十八條 特別ノ法人解散シタル場合ニ於テ特別法人税ヲ納付セズシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納税ノ義務アルモノトス

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ特別法人税ヲ遁脱シタル者ハ其ノ遁脱シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又

ノ剩餘金ニ付特別法人税ヲ納ムル義務アルモノトス
分割ニ因リテ設立シタル特別ノ法人ハ分割ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ剩餘金又ハ分割後存續スル特別ノ法人ノ分割前ノ剩餘金ニ付分割ニ因リテ設立シタル他ノ特別ノ法人又ハ分割後存續スル特別ノ法人ト連帶シテ特別法人税ヲ納ムル義務アルモノトス
前二項ノ規定ハ合併若ハ分割後存續スル法人又ハ合併若ハ分割ニ因リテ設立シタル法人ガ特別ノ法人ニ非ザル場合ニ付之ヲ準用ス

第九條 特別法人税ノ稅率ハ百分ノ六トス
第十條 納稅義務アル特別ノ法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財産目錄、貸借對照表、損益計算書並ニ第四條及第六條第二項ノ規定ニ依リ計算シタル剩餘金額及拂込濟出資金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ剩餘金ヲ政府ニ申告スベシ
前項ノ規定ハ特別ノ法人ニ特別法人税ヲ課スベキ剩餘金ナキ場合ニ付之ヲ準用ス

第十一條 特別ノ法人ノ剩餘金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十二條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ特別ノ法人ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿書類其ノ他ノ物

ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス但シ自首シ又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第二十條 第十二條ノ規定ニ依ル帳簿書類其ノ他物件ノ検査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第二十一條 特別ノ法人ノ剩餘金ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第十九條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

附 則

本法ハ昭和十五年四月二日ヨリ之ヲ施行ス
本法ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス
本法ニ依ル特別法人税ノ賦課ハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リトス
明治四十年法律第二十一號第一條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ
二十 特別法人税

附 則 (昭和十五年法律第六十六號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(昭和十六年一月勅令第七十六號ヲ以テ同年二月一日ヨリ施行)

五 特別法人税法施行規則

昭和十五年三月三十一日勅令第三百三十六號

第一條 特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金ハ其ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ
特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損金ハ特別法人税法第四條第四項ニ規定スルモノヲ除クノ外其ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上損金ニ之ヲ算入セズ

第二條 特別ノ法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ其ノ損金ノ生ジタル事業年度以後ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ特別法人税法第四條第四項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ剩餘金ノ計算上損金ニ之ヲ算入ス

第三條 大藏大臣ノ指定スル國庫補助金ノ收入ハ特別ノ法人ノ剩餘金ノ計算上大藏大臣ノ定ムル割合ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ益金ニ算入セズ

度ノ益金ニ算入ス

第七條 漁業協同組合ガ漁業權ノ拋棄又ハ讓渡ニ因リ生ジタル利益金額ノ全部又ハ一部ヲ組合員ニ對シ補償トシテ交付シ又ハ増殖施設、船溜若ハ船揚場ノ設置ノ爲支出シタルトキハ其ノ交付金額又ハ支出金額ハ特別ノ法人ノ剩餘金ノ計算上損金ニ之ヲ算入ス

第八條 漁業協同組合ガ漁業權ノ拋棄又ハ讓渡ニ因リ生ジタル利益金額ノ全部又ハ一部ヲ増殖施設又ハ船溜若ハ船揚場ノ設置ニ必要ナル資金ニ充テタルトキハ之ヲ其ノ剩餘金額ヨリ控除ス

第九條 漁業協同組合ガ漁業權ノ拋棄又ハ讓渡ニ因リ生ジタル利益金額ノ全部又ハ一部ヲ前條ニ定ムル増殖施設又ハ船溜若ハ船揚場ノ設置ニ必要ナル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ剩餘金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「増殖施設等設置留保金」勘定(貸方勘定)ニ繰入ルベシ

第五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ「増殖施設等設置留保金」勘定ニ繰入レタル金額ニ付之ヲ準用ス

第十條 第六條ノ規定ハ漁業協同組合ガ「増殖施設等設置留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ増殖施設又ハ船溜若ハ船揚場ノ設置以外ノ目的ニ支出シタル場合又ハ「増殖施設

其他 特別法人税法施行規則

前項ノ國庫補助金ノ種類及割合ハ大藏大臣之ヲ告示ス
第四條 産業組合、商業組合、工業組合若ハ貿易組合又ハ此等ノ組合ノ聯合會ガ其ノ剩餘金中留保シタル金額ノ全部又ハ一部ヲ輸出振興ノ爲必要ナル資金ニ充テタルトキハ當該事業年度ノ剩餘金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「輸出振興留保金」勘定(貸方勘定)ニ繰入ルベシ

第五條 産業組合、商業組合、工業組合若ハ貿易組合又ハ此等ノ組合ノ聯合會ガ各事業年度ノ留保金額ノ全部又ハ一部ヲ前條ニ定ムル輸出振興ノ爲必要ナル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ剩餘金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタルトキ又ハ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ輸出振興ノ爲支出セズシテ解散シタルトキハ其ノ支出金又ハ繰入金ニ相當スル金額ヲ支出ノ日又ハ解散ノ日ノ屬スル事業年度ノ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ハ現金、預金又ハ有價證券ノ外之ヲ運用スルコトヲ得ズ

第六條 産業組合、商業組合、工業組合若ハ貿易組合又ハ此等ノ組合ノ聯合會ガ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ輸出振興以外ノ目的ニ支出シタルトキ又ハ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ輸出振興ノ爲支出セズシテ解散シタルトキハ其ノ支出金又ハ繰入金ニ相當スル金額ヲ支出ノ日又ハ解散ノ日ノ屬スル事業年度ノ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ハ現金、預金又ハ有價證券ノ外之ヲ運用スルコトヲ得ズ

第七條 特別ノ法人ノ前事業年度ノ剩餘金ハ毎事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ
前項ノ申告ハ特別ノ法人ガ分割ニ因リ解散シタル場合ニ

第十條 特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ハ毎事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ
前項ノ申告ハ特別ノ法人ガ分割ニ因リ解散シタル場合ニ

第十一條 特別法人税法第五條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヨリ國債利子ノ控除ヲ受ケントスル特別ノ法人ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ
前項ノ申請ハ特別法人税法第十條ノ申告ト同時ニ控除ニ關スル明細書ヲ添附シテ之ヲ爲スベシ

第十二條 特別法人税法第六條第二項ノ規定ニ依リ拂込濟出資金額ハ各事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込濟出資金額ノ月割平均額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘ジタルモノヲ十分シテ計算シタル金額ニ依ル
前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

第十三條 特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ハ毎事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ
前項ノ申告ハ特別ノ法人ガ分割ニ因リ解散シタル場合ニ

其他 特別法人税法施行規則第二條ノ規定ニ依リ國庫補助金ノ種類及割合指定ノ件抄

於テハ分割ノ日ヨリ十四日以内ニ所轄稅務署ニ之ヲ爲ス
ベシ

第十四條 稅務署長又ハ其ノ代理官特別法人税法第十二條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帶スベシ

第十五條 稅務署長特別法人税法第十三條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別ノ法人ニ通知スベシ

第十六條 特別法人税法第十四條ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル特別ノ法人ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添へ剩餘金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ヅベシ

第十七條 所得稅法施行規則第七十九條ノ規定ハ特別法人稅ニ付之ヲ準用ス

第十八條 稅務監督局長特別法人税法第十五條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別ノ法人ニ通知スベシ

附 則

本令ハ特別法人税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(昭和十五年四月一日ヨリ施行)

本令ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之

六 特別法人税法施行規則第三

條ノ規定ニ依リ國庫補助金ノ種類及割合指定ノ件抄

昭和十五年十月五日大藏省告示第百三十七號

昭和十五年一般會計又ハ特別會計歳出豫算ニ掲上セラレタル左ノ費途ニ屬スル國庫補助金ニシテ産業組合及産業組合聯合會ノ收入金額ノ全部

木炭生産其他林業改善施設獎勵金(木炭倉庫建設費補助ニ限ル)

有畜農業獎勵費(牛豚肥育事業獎勵金、牛乳共同處理獎勵金、肉共同施設獎勵金及鶏卵共同處理獎勵金ニ限ル)

牛増殖促進獎勵金(牛共同育成施設事業獎勵金及牝犢育成施設獎勵金ニ限ル)

飼料自給促進獎勵金(サイレイヂ利用普及獎勵金及飼料共同施設獎勵金ニ限ル)

産業組合製絲整理合同助成金
乾繭取引助成金

農産物販賣統制施設助成金(農産物販賣統制中央團體設

備其他施設助成金ニ限ル)

糞製品集積貯藏倉庫建設獎勵金

農村工業獎勵金(共同施設獎勵金及共同設備獎勵金ニ限ル)

定置式薪炭瓦斯發生裝置助成金

肥料配給統制施設助成金(肥料消費調整設備助成金ニ限ル)

農村共同施設助成金(小水力利用設備助成金ニ限ル)

蠶絲業助成費(産繭消化施設助成金ニ限ル)

蠶絲業改良助成金(蠶絲業改良普及事業助成金ニ限ル)倉庫建設費補助

雜費(機械製鹽獎勵金及鹹水天日濃縮獎勵金ニ限ル)

昭和十五年一般會計歳出豫算ニ掲上セラレタル左ノ費途ニ屬スル國庫補助金ニシテ蠶絲共同施設組合ノ收入金額ノ全部

製絲業共同施設費補助

繭生産費低減施設助成金(優良蠶種普及飼育分場地帯改善助成金及蠶種製造設備改善獎勵金ニ限ル)

(商業組合、工業組合、漁業組合關係省略ス)

七 産業組合課稅取扱ニ關スル件

其他 産業組合課稅取扱ニ關スル件

昭和十五年四月十六日一五更第三四六一號
大藏 次 官 宛 農 林 次 官 申 達
今回ノ稅制改革ニ依リ産業組合ニ特別法人稅ヲ課セラルルコトト相成候處産業組合製絲及乾繭組合ニ付テハ其ノ事業ノ性質ニ鑑ミ從來ヨリ配分平衡積立金ヲ設ケシメ其ノ造成ヲ懲進シ居候ニ付テハ本積立金ノ本質竝ニ其ノ主旨ヲ御了察ノ上課稅上左記ノ通り取扱相成様致度候條可然御詮議ノ上何分ノ御回示相煩度此段申達候也

記

一 配分平衡積立金ヲ積立ツル場合ハ定款ニ其ノ旨規定セシムルコト

一 右ニ依リ組合員ニ配分スベキ販賣代金ノ中ヨリ積立タル配分平衡積立金ニハ課稅セザルコト但シ之ヲ處分シ組合員ニ分配セルトキハ組合員個人ニ課稅スルモノトスルコト

一 配分平衡積立金ヲ剩餘金中ヨリ積立テタル場合ハ組合ニ課稅スルコト但シ次年度以降ニ於テ之ヲ處分シ組合員ニ分配シタルトキハ之ヲ組合ノ損失金ト看做スコト
産業組合課稅取扱ニ關スル件

昭和十五年七月五日一五藏稅二〇四一號
農 林 次 官 宛 大 藏 大 臣 回 答

其他 產業組合其ノ他特別法人ニ對スル國庫補助金庫交付指令ニ關スル件 家屋稅法抄 家屋稅法施行規則抄

二八

四月二十日附一五更第三四六一號ヲ以テ御照會ニ依ル產業組合製絲及乾繭組合ノ配分平衡積立金ニ對スル課稅取扱ニ關スル件ハ左記ノ通取扱フコトニ決定致候條此段及回答候也

追而本取扱ハ各稅務監督局長ニ對シ通牒濟ニ付御了承相成度爲念申添候

記

- 一 生絲販賣組合（組合製絲）及乾繭販賣組合（乾繭組合）ガ其ノ組合員ニ配分スベキ販賣代金ノ一部ヲ積立ツル配分平衡積立金ハ之ヲ假受金トシテ取扱ヒ其ノ計算ヲ認ムルコト
- 一 剩餘金ヨリ積立ツル配分平衡積立金ハ課稅スルコトトシ之ヲ組合員ニ分配シタルトキト雖モ損金ニ算入セザルコト

八 產業組合其ノ他特別法人ニ對スル國庫補助金交付指令ニ關スル件

ニ關スル件

昭和十五年十月七日一五會乙第三三七號
農林省會計課長 通牒

第一條 家屋稅法第三條第一號ノ規定ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

- 一 府縣組合、市町村組合、町村組合及市町村内ノ區
- 二 市町村學校組合、町村學校組合及學區
- 三 水利組合、水利組合聯合會及北海道土功組合

第二條 家屋稅法第三條第五號ノ規定ニ依リ家屋稅ヲ課セザル家屋ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 耕地整理組合、耕地整理組合聯合會、主要物產同業組合、重要物產同業組合聯合會、森林組合、森林組合聯合會、酒造組合、酒造組合聯合會、酒造組合中央會、水產組合、水產組合聯合會、外國領海水產組合、外國領海水產組合聯合會、畜產組合、畜產組合聯合會、農會、水產會、商工會議所其ノ他此等ノ公共團體ニ準ズベキモノノ事務所ノ用ニ供スル家屋
- 三 農業倉庫業者ノ農業倉庫及聯合農業倉庫業者ノ聯合農業倉庫
- 五 民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人其ノ他營利ヲ目的トセザル法人ニ於テ事務所ノ用ニ供シ又ハ直接ニ公益ノ用ニ供スル家屋ニシテ大藏大臣ノ指定スルモノ

其他 家屋稅法施行細則抄 印紙稅法抄

產業組合、同聯合會、漁業協同組合、漁業組合聯合會及蠶絲共同施設組合（特別法人稅法第二條ニ規定スル特別ノ法人）ニ對スル國庫補助金ハ特別法人稅法施行規則第三條ノ規定ノ適用ヲ受クル爲ニハ國庫補助金ノ費目及國庫ヨリ補助セラルベキ金額ヲ明示スルヲ要スル義ニ付爾今貴道府縣補助金ニ對シ助成スル國庫補助金ニ付テハ指令書ニ國庫補助金指令説明書ヲ添付スルヲ以テ道府縣ニ於テモ右説明書ト同様ノ補助金指令説明書及國庫ヨリ補助セラルベキ金額ト縣費ヨリ補助セラルベキ金額トノ區別ヲ明示シタル書面ヲ作製シ之ヲ被補助組合又ハ聯合會ニ交付セラレ度此段及通牒候也

九 家屋稅法抄

昭和十五年七月十二日法律第百八號

第一章 總則

第三條 左ニ掲グル家屋ニハ家屋稅ヲ課セズ但シ有料借家ハ此ノ限ニ在ラズ

五 其ノ他命令ヲ以テ定ムル家屋

一〇 家屋稅法施行規則抄

昭和十五年七月十二日勅令第四百六十七號

一一 家屋稅法施行細則抄

昭和十五年七月十三日大藏省令第五十二號

- 第二條 民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人其ノ營利ヲ目的トセザル法人家屋稅法施行規則第二條第五號ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ指定ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署ヲ經由シ大藏大臣ニ提出スベシ
- 一 目的及名稱
 - 二 主タル事務所ノ所在地
 - 三 設立ノ認可又ハ許可ノ年月日
 - 四 申請當時ニ於ケル事業ノ概要又ハ計畫及收支豫算書
 - 五 理事者ノ履歷
 - 六 指定ヲ受ケントスル家屋ノ所在、用途及床面積
- 前項ノ申請書ニハ定款又ハ寄附行爲ノ寫及財産目錄ヲ添付スベシ

一二 印紙稅法抄

明治三十二年三月法律第五十四號
改正（中略）
昭和十五年四月法律第百六號

二九

其他 印紙税ニ關スル件

第四條

左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ、帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シテハ印紙税ヲ納ムヘシ

八 約束手形

九 爲替手形

十一 産業組合又ハ産業組合聯合會ノ發スル貯金證書

十二 産業組合、産業組合聯合會、漁業組合、漁業組合聯合會、商工組合中央金庫、工業組合、工業組合聯合會、商業組合、商業組合聯合會、貿易組合、貿易組合聯合會、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ノ發スル出資證券

十五 倉庫證券

二十六 定款又ハ組合契約書

第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス

五 小切手

五ノ二 恩給金庫ノ發スル出資證券又ハ貸付業務ニ關スル證書、帳簿

六 産業組合ノ發スル出資證券若ハ貯金通帳又ハ住宅組合ノ發スル出資證券

六ノ二 庶民金庫ノ業務ニ關スル證書、帳簿及庶民債券

七 記載金高十圓未満ノ約束手形及爲替手形

三〇

九 産業組合又ハ産業組合聯合會ノ發スル貯金證書ニシテ其ノ記載金高十圓未満ノモノ

十六 手形及證券ノ裏書又ハ之ニ併記シタル受取書

十八 手形ノ引受及保證

十九 手形又ハ證券ノ拒絶證書

二十 手形又ハ證券ノ複本及謄本

二十一 農業倉庫證券又ハ聯合農業倉庫證券

一三 印紙税ニ關スル件

大正四年十一月二十九日主稅局通牒

産業組合ニ於テ作成シ又ハ之ニ向テ發スル證書ノ印紙税ハ左ノ通り取扱フコト(自一至五並七ハ昭和二年三月法律第七號ニ依リ消滅)

六 産業組合ニ於テ其ノ組合員又ハ組合員以外ノ者ニ對シ發スル受取書ハ營業ニ關セサル受取書トシテ第五條ニ依ルコト

第五條 左ニ掲クル證書帳簿ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス

十一 賣買仕切書

十四 記載金高十圓未満若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書

〔參照〕

昭和三十七年藏稅第一二五〇號
農林省農務局長宛大藏省主稅局長通牒
本月二日附七農局第二一八一號ヲ以テ御照會相成候首標ノ件了承右ハ御來旨ノ通印紙貼用ノ要無之モノト思料致候此段及回答候也
(右照會文)
産業組合員カ其ノ組合ニ對スル債務現在高ニ付組合監事ノ照會ニ對シテ發スル回答書ノ印紙税ニ關スル件
七農局第二一八一號
大藏省主稅局長宛農務局長通牒

十六 手形及證券ノ裏書又ハ之ニ併記シタル受取書

一四 印紙税ニ關スル大藏省主稅局長通牒要旨

産業組合聯合會ノ發スル貯金通帳

昭和十五年七月二十九日藏稅第二二九六號通牒

産業組合聯合會ノ發スル貯金通帳ニ對シテハ印紙税法上別段非課稅規定ノ存セザル點ヨリ觀ルモ課稅ノ取扱ヲ爲スベキモノニシテ第四條第一項第三十二號(預金通帳)ニ依リ印紙税ノ納付ヲ要ス

産業組合ノ發スル積金通帳又ハ積金證書

昭和二年四月四日藏稅第九三五號通牒

産業組合ニ於テ積金通帳又ハ積金證書ヲ發スルコトアルモ貯金通帳ニ準ジ非課稅トシテ取扱フコト

産業組合ノ使用スル貯金票

昭和五年四月十四日藏稅第九一〇號通牒

産業組合ニ於テ定期貯金等ノ如ク一契約ニ對シ連續的ニ受入ル貯金ヲ取扱フ場合集金人ノ集金ニ便スル爲夫々相當ノ證書又ハ通帳ヲ交付シ更ニ別冊ノ貯金票ヲ貯金者ニ交付シ置キ貯金受入ノ都度受入金額、年月日ヲ記入シ集金人認印シ之ヲ連續使用スルモ右貯金票ハ第五條ニ該當シ印紙税

其他

印紙税ニ關スル大藏省主稅局長通牒要旨 産業組合ノ自治監査ニ於ケル書類ニ對シ印紙税法適用ニ關スル件

産業組合ノ監事ノ行フ組合監査所謂自治監査ノ勵行ハ從來當省ニ於テ獎勵シ來リシ所ニ有之候處監事力監査執行ノ方法トシテ各組合員ニ對シ其ノ組合ニ對スル債務現在高ニ關シ照會ヲ發シタル場合之ニ對スル組合員ノ回答書ニ付島根縣下稅務署ニ於テハ印紙税法第四條第一項第二十七號ニ該

産業組合ノ自治監査ニ於ケル書類ニ對シ印紙税法適用ニ關スル件

産業組合ノ自治監査ニ於ケル書類ニ對シ印紙税法適用ニ關スル件

産業組合ノ自治監査ニ於ケル書類ニ對シ印紙税法適用ニ關スル件

産業組合ノ自治監査ニ於ケル書類ニ對シ印紙税法適用ニ關スル件

産業組合ノ自治監査ニ於ケル書類ニ對シ印紙税法適用ニ關スル件

産業組合ノ自治監査ニ於ケル書類ニ對シ印紙税法適用ニ關スル件

産業組合ノ自治監査ニ於ケル書類ニ對シ印紙税法適用ニ關スル件

當スル書類トシテ印紙ノ貼用ヲ要スルモノト取扱ハレ居ル
趣ニテ同縣知事ヨリ別紙ノ如キ照會有之候然ル處前記組合
員ノ回答書ハ監事ヨリ照會ニ對シ監事宛發セラル、モノ
ニシテ債權者タル組合ニ對スルモノニアラス從ツテ印紙税
法ニ所謂承認ニ關スル證書ニハ該當セサルモノト被認セラレ
島根縣知事ヨリ照會セル所ハ相當理由アルモノト被認候ニ
付テハ可然御詮議ノ上右書類ニ付テハ印紙貼用ノ要無之様
御配慮相煩度此段及照會候也

一六 産業組合加入申込書ノ印紙 税ニ關スル件

昭和九年八月四日九更部第八五二號
農林省經濟更生部長通牒岩手縣知事宛

首題ノ件ニ關シ照會有之候處産業組合加入申込書ハ加入申
込ノ豫約及組合設立ノ場合ニ於ケル申込ト解スヘク株式申
込證ノ如ク申込ニ因リ直ニ出資ノ拂込ヲ爲スヘキ義務ヲ負
ハス且又直ニ社員タル資格ヲ取得スルモノニ非サルヲ以テ
財産權ノ創設ヲ證スル證書ト謂フヲ得テ從テ印紙税法ノ適
用ヲ受ケス右及回答候也
追而本件ニ就テハ仙臺稅務監督局ニ於テ産業組合加入申

込書ハ印紙ノ貼附ヲ要セサル證書ト決定シ其旨管下ノ各
稅務署宛通牒シタル趣ニ付爲念申添候

一七 登録税法抄

明治二十九年三月二十八日法律第二十七號
改正(中略)
昭和十五年四月法律第六號

第十九條 左ニ掲クルモノニハ登録稅ヲ課セス但シ第二號
ノ二、第八號乃至第九號ノ四、第十一號、第十二號及第
十四號乃至第十七號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

- 一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録
- 二 神社ノ敷地ニ關スル登記
- 二ノ二 寺院ノ境内地若ハ教會ノ構内地又ハ寺院若ハ教
會ノ用ニ供スル建物ニ關スル登記
- 二ノ三 墳墓地ニ關スル登記
- 三 北海道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用ニ供
スル不動産ニ關スル登記
- 四 府縣市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣市町
村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣市町村ニ所有權ヲ移スニ
付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録

- 五 市町村ノ一部ニ屬スル財産ヲ其ノ市町村ニ移ス場合
ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權
ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録
- 六 市町村又ハ市町村ノ一部ニ屬スル入會權ニシテ二以
上ノ市町村ニ互ルモノヲ消滅セシムル爲市町村又ハ其
ノ一部カ其ノ入會財産ニ付爲ス權利ノ取得若ハ財産ノ
分割又ハ之カ爲ニスル所有權ノ保存ノ登記

- 七 恩給金庫、産業組合、産業組合聯合會、産業組合中
央會、庶民金庫、蠶絲共同施設組合、漁業組合、漁業
組合聯合會、商工組合中央金庫、工業組合、工業組合
聯合會、工業小組合、工業組合中央會、商業組合、商
業組合聯合會、商業小組合、商業組合中央會、貿易組
合、貿易組合聯合會、貿易組合中央會、造船組合、造
船組合聯合會、海運組合、海運組合聯合會、肥料製造
業組合、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合
聯合會ニ付恩給金庫法、産業組合法、庶民金庫法、蠶
絲業法、漁業法、商工組合中央金庫法、工業組合法、
商業組合法、貿易組合法、造船事業法、海運組合法、
重要肥料業統制法又ハ自動車交通事業法ニ基キテ爲ス
登記
- 八 負債整理ノ爲ニスル負債整理組合又ハ農村負債整理

- 組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ
施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記
- 八ノ二 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作
農創設維持ノ事業ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登
記
- 九 農地調整法第三條若ハ第四條ノ團體又ハ第六條若ハ
第十九條ノ事業ヲ行フ者ニ對シ同法第三條、第四條、第
六條又ハ第十九條ノ事業ニ要スル資金ノ貸付ヲ爲ス者
カ其ノ貸付ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記
- 九ノ二 農地調整法第三條又ハ第四條ノ團體カ同法第三
條又ハ第四條ノ事業ノ爲ニスル土地ノ權利ノ取得ノ登
記
- 九ノ三 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業
ヲ行フ者カ自作農創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ
登記
- 九ノ四 農地調整法第七條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル登
記
- 十 北海道府縣市町村、産業組合又ハ住宅組合カ住宅ノ
供給ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記
- 十一 住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組合員
カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記

- 十二 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル土地ノ所有者カ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル事業者ノ土地所有權ノ取得ノ登記
- 十三 農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者ノ農業倉庫若ハ聯合農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權利ノ取得ノ登記
- 十四 學校經營ヲ目的トスル法人ノ土地、建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記
- 十五 市町村、産業組合中央金庫、信用組合、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ負債整理ノ爲ノ資金貸付ノ場合ニ於ケル抵當權ノ取得ノ登記
- 十六 市町村、産業組合中央金庫、信用組合、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ヨリ負債整理ノ爲ノ資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル市町村、産業組合中央金庫、信用組合、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ所有權ノ取得ノ登記

- 十七 負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ同法第七條第二項ニ規定スル場合ニ於ケル土地所有權ノ取得ノ登記
- 十八 庶民金庫ノ業務ノ用ニ供スル不動産ニ關スル登記

一八 登録税法施行規則抄

明治三十二年五月十九日勅令第二百五號
改正(中略)
昭和十四年十二月勅令第八百六十七號

- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル登記ニシテ其ノ該當スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登録税法第十九條第八號ノ二乃至第九號ノ四又ハ第十二號ノ規定ニ依リ登録税ヲ免除ス
 - 一 北海道府縣市町村、産業組合又ハ農事實行組合カ行フ農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記
 - 二 北海道府縣市町村、産業組合、農事實行組合又ハ養蠶實行組合ニ對シ農地調整法第三條、第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ニ要スル資金ノ貸付ヲ爲ス者カ其ノ貸付ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記
 - 三 北海道府縣市町村、産業組合、農事實行組合又ハ養蠶實行組合カ農地調整法第三條又ハ第四條ノ事業ノ爲

ニスル土地ノ權利ノ取得ノ登記

- 四 北海道府縣市町村、産業組合又ハ農事實行組合カ農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記
 - 五 農地調整法第七條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル登記
 - 六 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル土地ノ所有者カ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、産業組合又ハ農地實行組合ノ土地所有權ノ取得ノ登記
- 第五條ノ二 左ニ掲クル住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記ニハ登録税法第十九條第十一號ノ規定ニ依リ登録税ヲ免除ス但シ一人ニ付各一個ニ限ル
- 一 住居ノ用ニ供スル家屋各階ノ坪數ノ合計カ三十五坪以下ナル住宅
 - 二 七十坪以下ノ住宅用地

一九 有價證券移轉税法抄

昭和十二年三月三十日法律第七號
改正昭和十四年四月法律第五號

其他 有價證券移轉税法抄

- 第一條 有價證券ノ賣買、交換、贈與、遺贈其ノ他ノ原因ニ因ル移轉アリタルトキハ本法ニ依リ有價證券移轉税ヲ課ス
- 第八條 營利ヲ目的トセザル法人ニシテ所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ所得税ヲ課セラレザル者ハ有價證券移轉税ヲ納ムルコトヲ要セズ

(二) 金融關係

二〇 農業動産信用法

昭和八年三月二十九日法律第三十號

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ農業トハ耕作、養畜又ハ養蠶ノ業務及之ニ附隨スル業務ヲ謂フ

水産動植物ノ採捕若ハ養殖又ハ薪炭生産ノ業務及之ニ附隨スル業務ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ農業ト看做ス

第二條 本法ニ於テ農業用動産トハ農業ノ經營ノ用ニ供スル動産ヲ謂フ

前項ノ農業用動産ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 本法ノ先取特權又ハ農業用動産ノ抵當權ヲ取得スルコトヲ得ル者ハ信用組合及勅令ヲ以テ定ムル法人ニ限ル

第二章 農業經營資金貸付ノ先取特權

第四條 信用組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人ガ農業ヲ爲ス者ニ對シ左ニ掲グル行爲ヲ爲スニ必要ナル資金ノ貸付

ヲ爲シタルトキハ其ノ債權ノ元本及利息ニ付債務者ノ特定動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一 農業用動産又ハ農業生産物ノ保存

二 農業用動産ノ購入

三 種苗又ハ肥料ノ購入

四 蠶種又ハ桑葉ノ購入

五 薪炭原木ノ購入

六 勅令ヲ以テ定ムル水産養殖用ノ種苗又ハ餌料ノ購入

前項ノ法人ガ農事實行組合、養蠶實行組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人ニ對シ其ノ農業用動産ヲ保存シ又ハ購入スル爲ニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第五條 農業用動産保存資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ保存シタル農業用動産ノ上ニ存在ス

農業生産物保存資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ保存シタル農業生産物ノ上ニ存在ス

前二項ノ先取特權ハ農業用動産又ハ農業生産物ニ關スル權利ヲ保存、追認又ハ實行セシムル爲ニ必要ナル資金ノ貸付ニ付テモ亦存在ス

第六條 農業用動産購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル農業用動産ノ上ニ存在ス

ハ桑葉又ハ水産養殖用ノ種苗若ハ餌料ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ種苗肥料供給ノ先取特權ト看做ス

第三章 農業用動産ノ抵當權

第十二條 農業用動産ハ農業ヲ爲ス者又ハ農事實行組合、養蠶實行組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人ガ信用組合又ハ勅令ヲ以テ定ムル法人ニ對シテ負擔スル債務ヲ擔保スル場合ニ限り之ヲ目的トシテ抵當權ヲ設定スルコトヲ得

農業用動産ノ抵當權ニハ本法其ノ他ノ法令ニ別段ノ定アルモノノ外不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第三百七十八條乃至第三百八十七條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 農業用動産ノ抵當權ノ得喪及變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ登記ノ後ト雖モ民法第九十二條乃至第九十四條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第十四條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者ガ之ヲ讓渡セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ讓受人ニ對シ抵當權ノ存在スル旨ヲ告知スルコトヲ要ス

第七條 種苗又ハ肥料ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル種苗又ハ肥料ヲ用ヒタル後一年內ニ之ヲ用ヒタル土地ヨリ生ジタル果實ノ上ニ存在ス尙桑樹ノ肥料購入資金貸付ノ先取特權ニ在リテハ其ノ果實タル桑葉ヨリ生ジタル物ノ上ニモ亦存在ス

第八條 蠶種又ハ桑葉ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル蠶種又ハ桑葉ヨリ生ジタル物ノ上ニ存在ス

第九條 薪炭原木購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル薪炭原木ヨリ生産シタル薪炭ノ上ニ存在ス

第十條 水産養殖用種苗購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル種苗ヲ養殖シタル物ノ上ニ存在ス

水産養殖用餌料購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル餌料ヲ用ヒテ養殖シタル物ノ上ニ存在ス

第十一條 先取特權ノ優先權ノ順位ニ付テハ農業用動産又ハ農業生産物ノ保存資金貸付ノ先取特權ハ動産保存ノ先取特權ト、農業用動産又ハ薪炭原木ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ動産購買ノ先取特權ト、種苗若ハ肥料、蠶種若

前項ノ規定ハ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ他ノ債務ノ擔保ニ供セントスルトキニ之ヲ準用ス

第十五條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者ガ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ債務ノ擔保ニ供シタル場合ニ於テハ遲滞テク前條ノ告知ヲ爲シタル旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス

抵當權ノ目的タル農業用動産ニ付第三者ガ差押ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス

第十六條 先取特權ト農業用動産ノ抵當權ト競合スル場合ニ於テハ抵當權者ハ民法第三百三十條ニ掲グル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第十七條 農業用動産ノ抵當權ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 罰則

第十八條 抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ損傷シ又ハ隠匿シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ所有者ノ意思ニ反シテ損傷シタル者ニ付テハ刑法ニ依ル

第十九條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ該動産ニ關シ讓渡、質入其ノ他抵當權ヲ侵害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ動産所有者ノ代表者又ハ代理人本人ノ爲ニ前項ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第二十條 前二條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和八年十一月勅令第三百六號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

登錄稅法第三條ノ六ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三條ノ七 農業用動産ノ抵當權ニ關スル登記ヲ受クルト

キハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムベシ

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ二

但シ稅額金二十錢未滿ナルトキハ二十錢トス

二 抹消シタル登記ノ回復 農業用動産每一箇金十錢

三 假登記 農業用動産每一箇金十錢

四 附記登記 農業用動産每一箇金五錢

但シ一件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ一圓トス

五 登記ノ更正、變更又 農業用動産每一箇金十錢

ハ抹消 但シ一件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ一圓トス

二 農業動産信用法施行令

昭和八年十一月二十八日勅令第三百七號

第一條 農業動産信用法ノ農業用動産ノ範圍左ノ如シ但シ第五號ニ掲グルモノハ同法第三章ノ農業用動産ノ範圍ヨリ之ヲ除ク

- 一 石油發動機(揮發油發動機、燈油發動機、輕油發動機及重油發動機ニ限ル)、電動機、水力原動機(「タービン」水車及螺旋水車ニ限ル)、畜力原動機、「トラクタール」、貨物自動車、汽罐、木炭瓦斯發生機、「カルチヴェーター」、揚水機(渦卷唧筒及縱型唧筒ニ限ル)穀物火力乾燥機、製茶機械(鶴鴿釜、蒸葉機、粗揉機揉捻機、精揉機及乾燥機ニ限ル)、肥料飼料又ハ餌料ノ調製加工機(粉碎機、粉末機及配合機ニ限ル)、牛乳殺菌機、牛乳冷却機、牛乳分離機、「チャーン」、孵

其他 農業動産信用法施行令

卵器、乾藪機、繰絲機、生絲水分檢查機及臺秤

二 噴霧機、脫穀機、麥摺機、叔摺機、精米機、精麥機、製粉機及製繩仕上機ニシテ原動機ニ依リ運轉セラルルモノ

三 牛及馬

四 總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ漁船但シ總噸數五噸未滿又ハ積石數五十石未滿ノ漁船ニ在リテハ發動機ノ備附アルモノ又ハ長サ七メートル以上ノモノ

五 羊、豚、鶏及あひる

第二條 農業動産信用法ノ先取特權及農業用動産ノ抵當權ヲ取得スルコトヲ得ル法人左ノ如シ

一 信用組合聯合會

二 漁業法第四十三條ノ二第一項第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合

第三條 農業動産信用法第四條第一項第六號ノ水産養殖用ノ種苗又ハ餌料ハ一定ノ區域内ニ於テ垂下用懸垂柵若ハ簾ヲ建設シテ爲ス養殖業又ハ土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業ニ用フル種苗又ハ餌料ニシテ左ニ掲グルモノトス

三九

其他 農業用動産抵當登記令

一 種苗ニ在リテハかき、のり、うなぎ、こひ、ます
(陸封性ノモノ)、ぼら、わかさぎ、あゆ、はまち及え
び

二 餌料ニ在リテハ蠶ノさなぎ、いさぎ(別名こませ)、
小麦粉及いわし

第四條 農業動産信用法第四條第二項ニ規定スル貸付ヲ受
クルコトヲ得ル法人又ハ同法第十二條ニ規定スル抵當權
ニ依リ擔保セララルル債務ヲ負擔スルコトヲ得ル法人左ノ
如シ

産業組合

第五條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者之ヲ讓渡セ
ントスルトキハ其ノ讓受人ニ對シ左ニ掲グル事項ヲ告知
スルコトヲ要ス

一 當該動産ガ抵當權ノ目的タルコト

二 抵當權者ノ名稱及事務所

三 債務ノ金額、利率、償還方法、發生ノ時期及辨濟期

四 農業用動産ノ所有者ガ債務者ニ非ザルトキハ債務者
ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所

前項ノ規定ハ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ他ノ債務ノ
擔保ニ供セントスル場合ニ於ケル其ノ債權者ニ對スル告
知ニ之ヲ準用ス

關スル事項ヲ記載シ、甲區表示欄ニハ所有者ノ表示ヲ爲
シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ、表示番號欄ニハ表
示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ抵當權ニ關スル事項ヲ記載シ順位番號欄
ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第五條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署
名捺印スルコトヲ要ス

一 農業用動産ノ表示

二 不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲グル
事項

第六條 農業用動産ノ表示ヲ爲スニハ其ノ所在ノ場所ノ
郡、市、區、町村、字及土地ノ番號ヲ記載スルノ外後三
條ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第七條 農業用機械(農業動産信用法施行令第一條第一號
及第二號ニ掲グルモノ)ニ付テハ其ノ種類及構造ヲ記載
シ若シ製作者ノ氏名又ハ名稱、製造ノ年月、記號、番號
其ノ他同種類ノ他ノ物ト區別スルニ足ルベキ特質アルト
キハ其ノ特質ヲモ記載スルコトヲ要ス

第八條 牛及馬ニ付テハ其ノ性、生年月、用途及特徴ヲ記
載スルコトヲ要ス

第九條 總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ漁船ニ

其他 農業用動産抵當登記令

其他 農業用動産抵當登記令

其他 農業用動産抵當登記令

附 則

本令ハ農業動産信用法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(昭和八年十二月一日ヨリ施行)

但シ第二條第二號ノ規定ハ昭和八年法律第三十三號施行ノ
日ヨリ之ヲ施行ス

二二 農業用動産抵當登記令

昭和八年十一月二十八日勅令第三百八號

第一條 農業用動産ノ抵當權ノ登記ニ付テハ其ノ目的タル
農業用動産ノ所在ノ場所ヲ管轄スル區裁判所又ハ其ノ出
張所ヲ以テ管轄登記所トス

第二條 各登記所ニ農業用動産抵當登記簿及農業用動産抵
當共同人名簿ヲ備フ

第三條 農業用動産抵當登記簿ハ一個ノ動産ニ付一用紙ヲ
備フ

第四條 農業用動産抵當登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號
欄、表題部及甲乙ノ二區ニ分チ尙表題部及甲區ニ表示欄
及表示番號欄、乙區ニ事項欄及順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各農業用動産ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ
爲シタル順序ヲ記載ス

表題部表示欄ニハ農業用動産ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ

付テハ其ノ船種、船名、船籍港又ハ定繫場所、尺度、積量、
進水年月並ニ船鑑札又ハ之ニ類スル鑑札ノ交付年月及番
號ヲ記載シ尙機關アルモノニ在リテハ其ノ種類、推進器
アルモノニ在リテハ其ノ種類及數、帆船ニ在リテハ帆裝
ヲモ記載スルコトヲ要ス

第十條 抵當權設定ノ登記ハ抵當權者及抵當權設定者之ヲ
申請シ申請書ニ農業用動産ガ抵當權設定者ノ所有ニ係ル
コトヲ證スルニ足ルベキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十一條 始メテ抵當權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登
記番號欄ニ番號ヲ記載シ表題部表示欄ニ農業用動産ノ表
示ヲ爲シ且甲區表示欄ニハ所有者ノ氏名及住所ヲ記載ス
ルコトヲ要ス

第十二條 農業用動産ガ共有ニ係ルトキハ共有者中申請書
ニ掲ゲタル筆頭ノ者ノ氏名、住所及他ノ人員ヲ登記用紙
ニ記載シ全員ノ氏名及住所ヲ共同人名簿ニ記載スルコト
ヲ得債務者ノ氏名及住所ヲ登記用紙ニ記載スベキ場合ニ
於テ債務者ガ多數ナルトキ亦同シ

第十三條 農業用動産又ハ其ノ所有者ノ表示ノ變更ノ登記
ヲ申請スルニハ申請書ニ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三
者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ベキ裁判ノ謄本ヲ
添附スルコトヲ要ス

其他 農業用動産抵當登記令

其他 農業用動産抵當登記令

其他 農業用動産抵當登記令

其他 農業用動産抵當登記令

其他 農業用動産抵當登記令

其他 農業用動産抵當登記令

其他 農業用動産抵當登記令

其他 農業用動産抵當登記令

其他 農業用動産抵當登記令

所有者ノ變更ニ因ル表示ノ變更ノ登記ヲ申請スルニハ新所有者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ベキ裁判ノ謄本ヲモ添附スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ申請書ニ變更ヲ證スルニ足ルベキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十四條 農業用動産又ハ其ノ所有者ノ表示ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ變更後ノ事項及變更ノ原因ヲ、表示番號欄ニ番號ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス但シ事情ニ依リテハ表示欄ニ變更ノ部分ノミノ表示ヲ爲シ表示番號欄ニ番號ヲ記載シタル上前ノ表示中變更セラレタル部分ノミヲ朱抹スルヲ以テ足ル

第十五條 農業用動産ノ所在ノ場所ガ甲登記所ノ管轄地ヨリ乙登記所ノ管轄地ニ移轉シタル場合ニ於テ其ノ變更ノ登記ヲ申請スルニハ甲登記所ニ登記簿ノ謄本ノ交付ヲ申請シ其ノ謄本ヲ乙登記所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス前項ノ變更登記ハ登記簿ノ謄本ニ依リ登記ヲ移シタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

不動産登記法第九條第二項但書ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 前條ノ場合ニ於テ登記簿ニ登記ヲ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス

登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ甲登記所ノ登記簿ノ謄本ニ依リ登記ヲ爲シタル旨及申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第十七條 二個以上ノ農業用動産ニ關スル抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ共同擔保目錄ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ目錄ニハ各農業用動産ノ表示ヲ爲シ申請人之署名捺印スルコトヲ要ス

第十八條 抵當權ガ農業用動産ノ競落ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ之ヲ證スルニ足ルベキ書面ヲ添附スルトキハ債務者、抵當權設定者又ハ競落人ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第十九條 一用紙ノ抵當權ノ登記ガ全部抹消セラレタルキハ登記用紙中表題部表示欄ニ抵當權ノ登記ヲ抹消シタル旨ヲ記載シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第二十條 不動産登記法第二條乃至第七條、第八條第二項、第八條ノ二、第九條第二項、第十條、第十二條、第十三

條、第十八條乃至第二十八條、第三十二條乃至第三十五條、第三十八條、第四十條、第四十二條乃至第五十條、第五十二條乃至第六十七條、第六十九條乃至第七十七條、第十七條、第十九條、第二十條、第二百二十二條、第二百二十六條ノ二、第二百四十四條乃至第四百七條及第四百九條ノ二乃至第五百九條ノ規定ハ農業用動産ノ抵當權ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十一條 本令ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ農業動産信用法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(昭和八年十二月一日ヨリ施行)

二二三 農業用動産抵當權實行令

昭和八年十一月二十八日勅令第三百九號

第一條 農業用動産ノ抵當權實行ノ手續ハ本令ニ規定スルモノノ外動産ノ競賣ニ關スル競賣法ノ規定ニ從フ

第二條 農業用動産ノ競賣ノ委任ハ委任書ニ抵當權ニ關スル登記簿ノ謄本及債權證書ヲ添附シテ之ヲ爲ス債權證書ヲ添附スルコト能ハザルトキハ委任書ニ其ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス

其他 農業用動産抵當權實行令

抵當權ニ付其ノ登記ナキ場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ得テ競賣ノ委任ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 前條第二項ノ許可ノ申請ニ關スル裁判ハ農業用動産ノ所在ノ場所ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得許可ノ裁判ハ債務者並ニ農業用動産ノ所有者及占有者ニ對シテモ之ヲ告知スルコトヲ要ス

第四條 競賣ヲ爲スニハ執達吏ハ先ヅ抵當權ノ目的タル農業用動産ノ占有ヲ爲スコトヲ要ス但シ競賣ノ委任ニ係ル抵當權ニ優先スル權利ニ基キテ占有スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

執達吏前項ノ占有ヲ爲スニハ登記簿ノ謄本又ハ第二條第二項ノ許可ノ裁判ノ正本ヲ提示スルコトヲ要ス

民事訴訟法第五百三十六條及第五百三十七條ノ規定ハ執達吏ガ第一項ノ規定ニ依リ農業用動産ノ占有ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五條 執達吏前條ノ規定ニ依リ農業用動産ノ占有ヲ爲シタル場合ニ於テ債權者ノ承諾アルトキ、運搬ヲ爲スニ付重大ナル困難アルトキ其ノ他相當ノ事情アルトキハ之ヲ債務者又ハ第三者ノ保管ニ任ズルコトヲ得此ノ場合ニ於

其他 農業用動産抵當登記取扱手續

第十一號、第十三號及第十四號ノ帳簿ヲ用フベシ

第八條 共同擔保目録ハ附録第五號様式ニ依リ之ヲ調製スベシ

共同擔保目録ニハ日本標準規格B列四番ノ強靱ナル用紙ヲ用フルコトヲ要ス

第九條 登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ登記ヲ申請スルニ必要ナル事項ノ外登録稅額ヲ記載スベシ但シ登録稅法第三條ノ第五號ノ登記ニ付テハ課稅標準ノ價格ヲモ記載スベシ

登録稅法第十九條ノ九ノ場合ニ於テハ前項ニ掲グル事項ノ外差稅額ヲ記載スベシ

第十條 農業用機械（農業動産信用法施行令第一條第一號及第二號ニ掲グルモノ）ニ付テハ常置ノ場所、牛及馬ニ付テハ厩舎ノ所在ノ場所、漁船ニ付テハ定繫ノ場所ヲ以テ其ノ農業用動産ノ所在ノ場所トス

第十一條 牛及馬ノ特徴ノ記載ハ其ノ毛色及旋毛ヲ以テ之ヲ爲シ名號及斑紋アルモノハ之ヲ掲ゲ尙牛ニ在リテハ角番號アルモノ、馬ニ在リテハ耳朶ノ入墨アルモノハ之ヲモ掲ゲベシ

第十二條 登記原因及登記ノ目的ガ同一ニシテ且登録稅法第三條ノ第五號但書及第五號但書ノ規定ニ依リ登録稅ヲ納付スベキ場合ニ於テ數個ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數

四四

個ノ農業用動産ノ抵當權ニ關スル登記ヲ申請スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登録稅ノ全額ヲ納付スベシ

第十三條 農業用動産抵當登記令第十二條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ記載シ氏名住所欄ニ所有者又ハ債務者ノ氏名、住所ヲ記載シ豫備欄ニ登記番號、申請書受附ノ年月日及表示番號又ハ順位番號ヲ記載シテ登記官吏捺印スベシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ番號欄及豫備欄ニ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スベシ

第十四條 共同人名簿ニ記載ヲ爲シタルトキハ登記用紙中甲區表示欄又ハ乙區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スベシ

第十五條 共同人名簿ニ記載シタル所有者又ハ債務者ノ氏名、住所ノ變更ニ付登記簿ニ登記ヲ爲シタルトキハ人名簿中豫備欄ニ變更後ノ事項、申請書受附ノ年月日及表示番號又ハ順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱抹スベシ

第十六條 農業用動産抵當登記令第十五條第一項ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スルニハ抵當權者及抵當權設定者ニ於テ申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ且同令第十三

テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ其ノ占有ヲ明白ナラシムルコトヲ要ス

第六條 執達吏農業用動産ノ占有ヲ爲シタルトキハ調書ヲ作成スルコトヲ要ス

民事訴訟法第五百四十條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ調書ニ之ヲ準用ス

第七條 執達吏ハ利害關係人ノ請求ニ因リ記録ノ閱覽ヲ許シ又ハ記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ交付スルコトヲ要ス

附則

本令ハ農業動産信用法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和八年十二月一日ヨリ施行）

二四 農業用動産抵當登記取扱手續

昭和八年十一月二十九日司法省令第三六號
改正昭和十三年四月司法省令第九號
昭和十四年十二月司法省令第六七號
昭和十四年十二月司法省令第六七號
昭和十五年六月司法省令第三十八號

第一條 農業用動産抵當登記簿ハ附録第一號様式ニ依リ地方裁判所長ニ於テ之ヲ調製スベシ

第二條 農業用動産抵當共同人名簿ハ附録第二號様式ニ依

其他 農業用動産抵當登記取扱手續

リ地方裁判所長ニ於テ之ヲ調製スベシ

第三條 農業用動産抵當登記見出帳ハ附録第三號様式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第四條 農業用動産抵當登記見出帳ニハイロハ順ニ依リ豫メイノ部ヨリスノ部マデヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ所有者ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ所有者ノ氏名、動産ノ種類、所在ノ場所、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及登記番號ヲ記入スベシ

前項ノ規定ハ所有者ノ變更ニ因ル表示ノ變更ノ登記ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五條 受附帳ハ附録第四號様式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第六條 決定原本、抗告書類、評價書類及還納受領證ハ不動産登記法施行細則第十四條第一項第六號、第七號、第九號及第十五號ノ綴込帳ニ各之ヲ合綴スベシ

第七條 登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出帳及受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

- 一 共同擔保目録綴込帳
- 二 申請書類綴込帳

前項ノ帳簿ハ年毎ニ別冊ト爲スベシ
評價事件簿、本登記濟證交付帳、各種通知簿及受領證原符元帳ハ不動産登記法施行細則第十四條第一項第八號、

條第一項ノ添附書面ト共ニ之ヲ提出スベシ
前項ノ請求ニ因リテ交付スル謄本ニハ其ノ交付ノ事由ヲ
附記スベシ

第十七條 登記簿ノ謄本ニ依リ登記ヲ移シタルトキハ登記
用紙中乙區順位番號欄ニ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ
前登記ノ順位番號ヲ表示スベシ

第十八條 不動産登記法施行細則第四條、第五條、第十條、
第十二條、第十三條、第十五條、第十六條ノ二、第十六
條ノ三、第十七條、第十八條、第二十條乃至第二十四條、
第二十九條乃至第三十一條、第三十二條ノ二乃至第三十
七條ノ三、第三十九條乃至第四十一條、第四十三條ノ三
乃至第四十三條ノ五、第四十四條第二項第三項、第四十
四條ノ二、第四十四條ノ五、第四十四條ノ七乃至第四十
四條ノ九、第四十四條ノ十一、第四十四條ノ十六、第四
十五條、第四十六條、第四十六條ノ三乃至第四十七條、
第四十九條、第五十一條、第五十二條、第五十六條、第
五十七條ノ二乃至第五十七條ノ七、第五十八條乃至第六
十二條、第六十三條ノ二、第六十三條ノ三、第六十四條
乃至第六十七條、第六十九條ノ二乃至第七十條及第七十
一條第二項ノ規定ハ農業用動産ノ抵當權ノ登記ニ之ヲ準
用ス

附 則

本令ハ農業動産信用法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和八年十二月一日ヨリ施行)

(様式 略)

附 則 (昭和十五年司法省令第三十八號)

本令ハ昭和十五年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

二五 庶民金庫法

昭和十三年四月一日法律第五十八號
改正昭和十五年三月法律第五十九號

第一章 總 則

第一條 庶民金庫ハ庶民金融ノ圓滑ヲ圖ルコトヲ目的トス
庶民金庫ハ法人トス

第二條 庶民金庫ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク
庶民金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タニ事務
所ヲ設置スルコトヲ得

第三條 庶民金庫ハ銀行、無盡會社及産業組合法第一條第
四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引又ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用
組合(以下金融機關ト總稱ス)ヲシテ業務ノ一部ヲ代理
セシムルコトヲ得

庶民金庫ハ金融機關ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシメント
スルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

金融機關ハ庶民金庫ノ貸付ヲ代理シタル場合ニ於テハ庶
民金庫ニ對シ債務者ノ爲ニ命令ノ定ムル所ニ依リ債務ノ
保證ヲ爲スコトヲ得

第四條 庶民金庫ノ資本金ハ千萬圓トス但シ主務大臣ノ認
可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第五條 政府ハ千萬圓ヲ庶民金庫ニ出資スベシ

前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ大藏大
臣ノヲ定ム

第六條 庶民金庫ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所ノ所在地
- 四 資本金額及資産ニ關スル事項
- 五 役員及會議ニ關スル事項
- 六 業務及其ノ執行ニ關スル事項
- 七 庶民債券ノ發行ニ關スル事項
- 八 會計ニ關スル事項
- 九 公告ノ方法

定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條 庶民金庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコト

其他 庶民金庫法

ヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ
之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第八條 庶民金庫ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ
北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ庶民金
庫ノ事業ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別
ノ事情ニ基キ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合
ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 庶民金庫ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場
合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 庶民金庫ニ非ザル者ハ庶民金庫又ハ之ニ類似スル
名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第二章 役 員

第十一條 庶民金庫ニ理事長一人、理事三人以上及監事二
人以上ヲ置ク

第十二條 理事長ハ庶民金庫ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス
理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ庶民金庫ヲ代表シ、理事長
ヲ輔佐シテ庶民金庫ノ業務ヲ掌理シ、理事長事故アルト
キハ其ノ職務ヲ代理シ、理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ
行フ

監事ハ庶民金庫ノ業務ヲ監査ス

第十三條 理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ズ

庶民金庫ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間庶民金庫ノ理事長、理事及監事ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

理事長及理事ノ任期ハ三年、監事ノ任期ハ二年トス

第十四條 理事長及理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ從タル事務所ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得

第十五條 理事長及理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 庶民金庫ニ評議員若干人ヲ置キ主務大臣之ヲ命ズ

評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス

第三章 業務

第十七條 庶民金庫ハ左ノ業務ヲ行フ

- 一 割賦償還又ハ定期償還ノ方法ニ依ル小口貸付
- 二 金融機關ニ對スル小口貸付資金ノ融通

ベシ

第二十二條 政府ハ庶民債券ニ付額面金額現在最高一億圓ヲ限リ其ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

政府ガ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證シタル庶民債券ノ借換ノ爲前條ノ規定ニ依リ庶民債券ヲ發行スル場合ニ在リテハ其ノ庶民債券分ニ付テハ前項ノ制限ヲ超ユルコトヲ得

第二十三條 庶民債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十四條 庶民金庫ニ於テ庶民債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十五條 庶民債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第二十六條 所得税法及有價證券移轉税法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ庶民債券ニ之ヲ準用ス

第二十七條 本章ニ規定スルモノヲ除クノ外庶民債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 會計

第二十八條 庶民金庫ノ事業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第二十九條 庶民金庫ノ剩餘金ハ之ヲ配當セズ

三 金融機關ノ爲ニスル小口貸付ノ損失補償

四 庶民金庫ト前各號ノ取引ヲ爲ス者ノ預金ノ受入

五 前各號ノ業務ニ附帶スル事業

第十八條 庶民金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

- 一 國債、地方債又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ取得ヲ爲スコト
- 二 大藏省預金部若ハ銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金ト爲スコト

第四章 庶民債券

第十九條 庶民金庫ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ庶民債券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ貸付金及所有ニ係ル有價證券ノ現在高ヲ超過スルコトヲ得ズ

第二十條 庶民債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

庶民債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十一條 庶民金庫ハ庶民債券借換ノ爲一時第十九條ノ制限ニ依ラズ庶民債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ庶民債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊庶民債券ヲ償還ス

第三十條 庶民金庫ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財産目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

債權者ハ業務時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第六章 監督

第三十一條 庶民金庫ハ大藏大臣之ヲ監督ス

第三十二條 庶民金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十三條 庶民金庫ハ毎事業年度ノ初ニ於テ貸付利率、融通利率及補償料ノ最高限度其ノ他貸付、融通及補償ニ關スル條件ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第三十四條 主務大臣ハ庶民金庫ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 主務大臣ハ特ニ庶民金庫監理官ヲ置キ庶民金庫ノ業務ヲ監視セシム

第三十六條 庶民金庫監理官ハ何時ニテモ庶民金庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

庶民金庫監理官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ庶民金庫ニ命ジテ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ

得

庶民金庫監理官ハ庶民金庫ノ諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十七條 役員ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第七章 罰則

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ庶民金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

三 第十八條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

四 第十九條又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ違反シ庶民債券ノ發行ヲ爲シ又ハ償還ヲ爲サザルトキ

五 主務大臣ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

六 第三十六條ノ規定ニ依ル庶民金庫監理官ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル報告ヲ爲サザルトキ

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ庶民金庫ノ理事長、理事又

ハ監事ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 第三十條ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置カザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ閲覧ヲ拒ミタルトキ

第四十條 第十條ノ規定ニ違反シ庶民金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第四十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和十三年勅令第三百五十九號ヲ以テ同年五月二十日ヨリ施行)

第四十三條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ庶民金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十四條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十五條 定款ニ付主務大臣ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資ノ拂込ヲ稟請スベシ

第四十六條 政府ノ出資ノ拂込アリタルトキハ庶民金庫ハ

之ニ因リテ成立ス此ノ場合ニ於テハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ事務ヲ庶民金庫理事長ニ引繼グベシ

第四十七條 政府ハ第五條ノ規定ニ依リ交付スル爲昭和十三年度ニ於テ額面千萬圓ヲ限リ三分半利附公債ヲ發行スルコトヲ得

第四十八條 第十條ノ規定ハ本法施行前ヨリ行政官廳ノ許可又ハ認可ヲ受ケ使用スル名稱ニハ之ヲ適用セズ

第四十九條 登録税法第十九條第七號中「産業組合中央會」ノ下ニ「庶民金庫」ヲ、「産業組合法」ノ下ニ「庶民金庫法」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

十八 庶民金庫ノ業務ノ用ニ供スル不動産ニ關スル登記

第五十條 印紙税法第五條中第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
六ノ二 庶民金庫ノ業務ニ關スル證書帳簿及庶民債券

附則 (昭和十五年法律第五十九號)

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

二六 庶民金庫法施行規則

昭和十三年六月二十九日大藏省令第三七號

第一條 庶民金庫法第三條第二項ノ認可申請書ハ業務ノ一部ヲ代理セシメントスル銀行、無盡會社又ハ産業組合法

其他 庶民金庫法施行規則

第一條第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引又ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合(以下金融機關ト總稱ス)ノ商號又ハ名稱、住所及代理業務ヲ行フベキ本支店又ハ事務所ノ所在地並ニ代理セシムベキ業務ノ範圍ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

第二條 庶民金庫法第三條第一項ノ規定ニ依リ庶民金庫ノ業務ノ一部ヲ代理シタル金融機關ハ其ノ代理業務ニ關シ別ニ帳簿ヲ設ケ經理ヲ爲スベシ
金融機關ハ庶民金庫ニ對シ債務者ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲シタル代理貸付ニ付保證ヲ爲サザルモノト區別シテ之ヲ經理スベシ

第三條 産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引又ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合ハ庶民金庫ニ對シ組合員以外ノ者ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲サントスルトキハ每事業年度ノ總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル其ノ債務保證額ノ最高限度ヲ議決スベシ

第四條 庶民金庫ノ理事長、理事及監事ノ報酬又ハ賞與ノ額ハ大藏大臣ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第五條 剩餘金處分ニ付大藏大臣ノ認可アリタルトキハ庶民金庫ハ遲滯ナク定款ノ定ムル方法ニ從ヒ貸借對照表ヲ

其他 庶民金庫業務ノ代理ニ要スル件

公告スベシ

第六條 左ノ場合ニ於テハ庶民金庫ハ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ツベシ

- 一 業務ノ執行其ノ他ニ關スル規程ヲ定メ又ハ之ヲ改廢シタルトキ
- 二 庶民金庫登記令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲シタルトキ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

庶民金庫理事長、設立委員ヨリ其ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ大藏大臣ニ届出ツベシ

庶民金庫設立初度ノ理事長、理事及監事ノ報酬ノ額ハ設立委員之ヲ定ム

二七 庶民金庫業務ノ代理ニ關スル件

昭和十三年八月二十七日大藏省銀行局長通牒

市街地信用組合ハ庶民金庫法第三條ノ規定ニ依リ庶民金庫ノ業務ノ一部ヲ代理シ得ルコトニ相成居候處之カ手段ニ關シテハ左記ニ據リ處理スルコトト致候條右御了知相成貴管

七、庶民金庫ハ右報告寫ヲ添ヘ大藏省ニ認可申請ヲ爲スコト

八、大藏省ノ認可アリタルトキハ庶民金庫ハ組合ト本契約ヲ締結スルコト

二八 庶民金庫ノ業務代理ヲ爲ス信用組合ニ關スル件

昭和十四年八月十七日西更第七七三二號
農林省 經濟 更生部 長 通牒

標記ノ件ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候條貴管下ニ於テモ可然取計相成度此段及通牒候也

(乙 號)

昭和十四年八月十七日十四更第七七三一號
農林省 經濟 更生部 長 通牒
北 海 道 廳 長 官 宛

一月十九日附卯印經第四二五號ヲ以テ首題ニ關シ照會相成候處產業組合及同聯合會取扱心得第七條ノ產業組合狀況報告ニハ業務代理關係ヲ記載スルノ要無ク第十條ノ規定ニ依リ差出スベキ書類ニハ業務代理ニ依リ生ズル勘定科目ノ設定ヲ行ハシムルモ(右勘定科目ノ設立ハ市街地信用組合ニ對シテ業務代理ノ認可アリタル後庶民金庫ヨリ具體的ニ指定アル筈ニ有之)年度内取扱實績等ニ付テハ當分ノ内特ニ

其他

庶民金庫業務ノ代理ヲ爲ス信用組合ニ關スル件 國民貯蓄組合法

下組合ニ對シ其ノ旨御示達相成度此段及通牒候也

記

- 一、業務代理ニ關シ庶民金庫ト代理希望組合トノ合意成リタルトキハ假契約ヲ締結スルコト
- 二、庶民金庫ハ右假契約ニ基キ大藏省ニ對シ内認可ノ申請ヲ爲スコト
- 三、右内認可アリタルトキハ庶民金庫ハ當該組合ニ對シテ其ノ旨ヲ通知スルコト
- 四、右通知ヲ受ケタル組合ハ總會又ハ總代會ヲ招集シ定款ヲ變更スルコト(特別決議ヲ要ス)

(定款例)

- 第一條ノ二 本組合ハ庶民金庫トノ契約ニ依リ其ノ業務ノ一部ヲ代理スルコトヲ得
- 庶民金庫ノ小口貸付ヲ代理シタル場合ニ於テハ庶民金庫ニ對シ債務者ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得
- 五、右總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於テ庶民金庫ニ對シ組合員外者ノ爲ニ爲サントスル債務保證額ノ最高限度總額ヲ議決スルコト
- 六、地方長官ヨリ定款變更ノ認可ヲ受ケタル組合ハ定款抄本及總會又ハ總代會ノ決議錄ヲ添ヘ認可年月日ヲ記載シ庶民金庫ニ其ノ旨ヲ報告スルコト

記載ノ要無之モノト致候條諒承相成度此段及回答候也

(甲 號)

昭和十四年一月十九日卯經第四二五號
農林省 經濟 更生部 長 宛 北海道廳 長 官

管下產業組合法第一條第四項ノ信用組合ニシテ庶民金庫ノ業務代理ヲ爲スモノ有之候處之ガ業務狀況報告ニ關シテハ產業組合及產業組合聯合會取扱心得第七條第十條及第十二條ニ依リ提出スベキ書類ニ該當事項ノ記載ヲ要スベキヤ將亦別途報告ヲ要スルモノトセバ其ノ様式ニ關シ何分ノ御回答相成度

右照會候也

二九 國民貯蓄組合法

昭和十六年三月十二日法律第六十四號

第一條 本法ニ於テ國民貯蓄組合トハ左ノ各號ノ一ニ掲グル者ヲ以テ組織シ戰時(戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム)ニ於ケル國民貯蓄ノ増強ニ資スル爲組合員ノ貯蓄ノ斡旋ヲ爲スモノヲ謂フ

- 一 市町村(町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノ)ノ一部ニシテ命令ヲ以テ定ムル區域内ニ居住スル者

二 官公署、學校、事務所、營業所、工場、事業場又ハ之ニ準ズベキモノニ勤務スル者

三 産業組合、商業組合、工業組合其ノ他同業者ノ組織スル團體ノ構成員

四 前各號ニ掲グル者ノ外命令ヲ以テ定ムル者

第二條 國民貯蓄組合ノ斡旋ヲ爲ス貯蓄ハ左ノ方法ニ依ルベシ

一 郵便貯金又ハ郵便年金ノ掛金若ハ簡易生命保險ノ保險料ノ拂込

二 銀行ヘノ預ケ金又ハ定期積金

三 信託會社ヘノ金錢信託

四 産業組合其ノ他命令ヲ以テ定ムル産業團體ヘノ貯金

五 無盡會社ヘノ無盡ノ掛金ノ拂込

六 生命保險ノ保險料ノ拂込

七 國債、貯蓄債券又ハ報國債券ノ買入

八 其ノ他主務大臣ノ指定スルモノ

前項ノ貯蓄ノ斡旋ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 國民貯蓄組合ヲ組織シタルトキハ組合ノ代表者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合規約ヲ主務大臣ニ届出ツベシ組合規約ヲ變更シタルトキ亦同ジ

國民貯蓄組合解散シタルトキハ組合ノ代表者ハ命令ノ定

ムル所ニヨリ其ノ旨ヲ主務大臣ニ届出ツベシ

第四條 國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル銀行預金又ハ合同運用信託ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノノ元本ガ三千圓ヲ超エザルトキハ其ノ利子又ハ利益ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ甲種ノ配當利子所得ニ對スル分額所得稅ヲ免除ス國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依リ買入レ命令ノ定ムル所ニ依リ郵便官署ニ保管ヲ委託シ又ハ登錄ヲ爲シタル國債ニシテ額面金額三千圓ヲ超エザルモノノ利子ニ付亦同ジ

國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル銀行貯蓄預金、産業組合貯金其ノ他ノ預金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノノ元本ガ五千圓ヲ超エザルトキハ其ノ利子ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ甲種ノ配當利子所得ニ對スル分額所得稅ヲ免除ス前二項ノ場合ニ於テ預金又ハ合同運用信託ガ組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ爲サルトキハ元本ハ組合員毎ニ其ノ預金又ハ合同運用信託ニ付之ヲ計算ス

前項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ於テ國債ノ保管ノ委託又ハ登錄ガ組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ爲サル場合ノ額面金額ノ計算ニ之ヲ準用ス前四項ノ元本及額面金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第五條 政府ハ豫算ノ範圍内ニ於テ國民貯蓄組合ニ補助金

又ハ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第六條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一條各號ノ一ニ掲グル者ニ對シ國民貯蓄組合ヲ

組織スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第七條 主務大臣ハ國民貯蓄組合ノ代表者ニ對シ貯蓄ニ關シ報告ヲ爲サシメ、帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲シ又ハ組合ノ代表者ノ改任其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第八條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ定ムル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

地方長官ハ前項ノ規定ニ依リ委任ヲ受ケタル職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ市町村長（市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區長、町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノ）ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

第九條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行ハ貯蓄銀行法第一條ノ規定ニ係ラズ命令ノ定ムル所ニヨリ國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル場合ニ限リ同法第一條第一號又ハ第三號ニ掲グル業務ヲ營ムコトヲ得

第四條第二項及第三項並ニ所得稅法第十一條、第二十一條及第二十九條中銀行貯蓄預金ニ關スル規定ハ前項ノ規定ニ依リ受入レタル預金ニハ之ヲ適用セズ

第十條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前

條第一項ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スベシ

前條第二項ノ預金ヲ爲シタル者ハ其ノ預金ニ關シテハ前項ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先立チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

前項ノ規定ニ依リ優先辨濟ヲ受ケル範圍ハ預金額ヲ限度トス

第十一條 國民貯蓄組合ノ代表者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第十二條 本法ニ規定スルモノノ外國民貯蓄組合ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和七年勅令等百七號ヲ以テ同年六月二十日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ存スル團體ニシテ第一條各號ノ一ニ掲グル者ヲ以テ組織シ戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム）ニ於ケル國民貯蓄ノ増強ニ資スル爲メ第二條ニ掲グル貯蓄ノ斡旋ヲ爲スモノハ之ヲ本法ノ國民貯蓄組合ト看做ス前項ノ國民貯蓄組合ノ代表者ハ本法施行後三月以内ニ第三

條第一項ノ規定ニ準ジ組合規約ヲ主務大臣ニ届出ツベシ
印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

九ノ二 國民貯蓄組合ノ代表者ガ組合ノ業務ニ關シ發ス
ル金錢ノ寄託若ハ信託行爲ニ關スル證書若ハ通帳又ハ
委任狀

三〇 國民貯蓄組合法施行規則

昭和十六年六月十九日大藏省令第三十三號

第一條 國民貯蓄組合法(以下ト稱ス)第一條第一號ノ區
域ハ一箇又ハ數箇ノ町内會、部落會、隣保班又ハ之ニ準
ズベキモノノ地域トス

第二條 法第一條第四號ニ規定スル者ハ左ニ掲グルモノト
ス

- 一 在郷軍人會、青年團、少年團、婦人團體其ノ他之ニ
準ズル團體ノ團員又ハ會員
- 二 學生、生徒又ハ兒童
- 三 宗教團體ノ檀徒、教徒又ハ信徒
- 四 其ノ他大藏大臣ノ指定スル者

第三條 法第二條第一項第四號ノ産業團體ハ商業組合、工
業組合、貿易組合、漁業協同組合及自動車運送事業組合

トス

第四條 法第二條第一項第八號ノ規定ニ依ル貯蓄ノ方法ト

シテ事務所、營業所、工場、事業場又ハ之ニ準ズベキモノ
ノニ勤務スル者ノ勤務先ヘ預ケ金ヲ指定ス
事務所、營業所、工場、事業場又ハ之ニ準ズベキモノニ
於ケル國民貯蓄組合ガ前項ノ預ケ金ノ斡旋ヲ爲サントス
ルトキハ組合長地方長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ當該勤務先ノ名稱、事
業主、事業ノ種目及勤務者數並ニ當該組合ノ組合員數、
貯蓄金額等ヲ記載シタル申請書ニ當該勤務先ガ會社ノ場
合ニ在リテハ最終ノ貸借對照表及損益計算書ヲ添附シテ
地方長官ニ提出スベシ

第五條 國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル貯蓄ハ組合長各組合員
ノ名義ヲ以テ之ヲ爲サシムベシ

前項ノ貯蓄ニ關スル通帳又ハ證書ハ各組合員ヲシテ之ヲ
保管セシムベシ但シ法令又ハ組合規約ニ別段ノ定アルト
キハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ斡旋ニ依リ買入レタル有價證券ハ郵便官署若ハ
日本勸業銀行ニ保管ヲ委託シ又ハ登錄ヲ爲シタル場合ヲ
除クノ外組合員ヲシテ之ヲ保管セシムベシ但シ法令ニ別
段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 組合長地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ前條第一
項ノ規定ニ拘ラズ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合ノ代表
者ノ名義ヲ以テ貯蓄ヲ爲スコトヲ得

前項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ當該名義人ノ住所、職
業及氏名並ニ組合員數、貯蓄金額、貯蓄ノ方法等ヲ記載
シタル申請書ニ組合規約ヲ添附シ地方長官ニ提出スベシ
第一項ノ名義人ヲ變更セントスルトキハ組合長地方長官
ノ認可ヲ受クベシ但シ組合規約ニ於テ特定ノ資格ヲ有ス
ル者ヲ組合ノ代表者ト定メ之ヲ名義人ト爲シタル場合ハ
之ノ限ニ在ラズ

國民貯蓄組合ハ第一項ノ貯蓄ニ付別ニ帳簿ヲ備ヘ各組合
員毎ノ計算ヲ明ニスベシ

第七條 組合ノ斡旋ニ依ル貯蓄ニ關スル通帳又ハ證書ノ名
義ニハ國民貯蓄組合ノ組合員又ハ代表者タルコトヲ表示
スベシ

第八條 法第三條第一項ノ規定ニ依ル組合規約ニハ左ノ事
項ヲ記載スベシ

- 一 名稱及事務所ノ所在地
- 二 組合員タル資格ニ關スル規定
- 三 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 四 組合長其ノ他組合ノ代表者ノ選任及解任ニ關スル規

其他 國民貯蓄組合法施行規則

定

五 貯蓄ノ方法及業務ノ執行ニ關スル規定

第六 貯蓄計畫ニ關スル規定

第九條 國民貯蓄組合ハ其ノ名稱中ニ國民貯蓄組合ナル文
字ヲ用フベシ

第十條 國民貯蓄組合ニハ之ヲ管理シ代表スル組合長ヲ置
クコトヲ要ス

國民貯蓄組合ハ組合長選任ノ日ヨリ二週間以内ニ之ヲ地
方長官ニ届出ツベシ組合長ノ解任ニ付亦同ジ

第十一條 國民貯蓄組合ハ組合員ノ貯蓄ノ斡旋及之ニ附隨
スル業務以外ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ

第十二條 組合規約ハ國民貯蓄組合ノ組合員タラントスル
者ノ同意ヲ得テ之ヲ定ムベシ

組合規約ハ國民貯蓄組合ノ組合員總數四分ノ三以上ノ同
意ヲ得テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十三條 國民貯蓄組合ヲ組織シタルトキハ組合長組合規
約成立ノ日ヨリ二週間以内ニ組合規約ニ設立ノ年月日、
組合員數、組合員ニシテ世帯主タルモノノ數、組合ノ斡
旋ヲ爲ス貯蓄ノ見込金額等ヲ記載シタル書類ヲ添附シ地
方長官ニ提出スベシ

國民貯蓄組合組合規約ヲ變更シタルトキハ組合長組合規

其他 國民貯蓄組合法施行規則

約變更ノ日ヨリ二週間以内ニ其ノ内容ヲ記載シタル届出書ヲ地方長官ニ提出スベシ

第十四條 國民貯蓄組合ハ其ノ幹旋ヲ爲サントスル貯蓄ニ付毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年間ノ貯蓄増加目標額ヲ定メ其ノ達成ニ必要ナル貯蓄計畫ヲ樹立スベシ

第十五條 國民貯蓄組合ノ組合長ハ組合員名簿及其ノ幹旋ニ依ル各組合員毎ノ貯蓄現在高ヲ記載シタル組合貯蓄臺帳ヲ作成シ之ヲ事務所ニ備付クベシ

第十六條 國民貯蓄組合ノ組合長ハ六月、九月、十二月及翌年三月ノ各月末現在ニ依リ組合員數及貯蓄金額等ヲ記載シタル國民貯蓄組合現況報告書ヲ各翌月十五日迄ニ地方長官ニ提出スベシ

第十七條 國民貯蓄組合ヲ解散シタルトキハ組合長解散ノ日ヨリ二週間以内ニ解散ノ年月日、解散ノ事由及各組合員ノ貯蓄ノ處理方法等ヲ記載シタル解散届ヲ地方長官ニ提出スベシ

(學校ヲ含ム以下同ジ) 又ハ工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ管理スル工場事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ當該官衙ノ長其ノ他陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ指定スル者又ハ當該工場事業場ヲ管理スル官衙ノ長若ハ其ノ代理官ノ證明書ニ組合規約ヲ添附スルヲ以テ足ルモノトス

第十九條 法第四條第一項ノ規定ニ依リ利子又ハ利益ニ付甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ノ免除ヲ受クベキ銀行預金又ハ合同運用信託ハ左ニ掲グルモノナルコトヲ要ス

一 契約期間二年以上ノ定期預金(契約ノ更新ニ依リ二年以上ノ期間繼續スベキコトヲ約シタル定期預金ヲ含ム以下同ジ)

二 拂戻ニ付期限ヲ定ムル預金契約ノ期間二年以上ニシテ最終ノ預ケ入ノ時ヨリ拂戻ノ期限ニ至ル期間一年以上ナルコトヲ約シタル法第九條ノ規定ニ依ル据置貯金

三 信託期間三年以上ノ合同運用信託

第二十條 法第四條第一項ノ規定ニ依リ利子ニ付甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ノ免除ヲ受クベキ國債ハ左ニ掲グルモノナルコトヲ要ス

其他 國民貯蓄組合法施行規則

提出スベシ

第十八條 法第四條ノ規定ニ依リ利子又ハ利益ニ付甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ノ免除ヲ受クル預金若ハ國債又ハ合同運用信託ハ第十九條、第二十條又ハ第二十二條ニ規定スルモノニシテ左ノ要件ヲ備フルモノナルコトヲ要ス

一 組合員數常時二十人以上(法第一條第一號ニ掲グル者ヲ以テ組織スル組合ニ在リテハ世帯主タル組合員數常時五人以上、同條第二號ノ官公署、學校、事務所、營業所、工場、事業場又ハ之ニ準ズベキモノニシテ勤務者數常時二十人以下ナルモノニ於ケル組合ニ在リテハ組合員數常時十人以上トス)ヲ有スル國民貯蓄組合ノ幹旋ニ依ルモノナルコト

二 第十五條ノ組合貯蓄臺帳ニ記載セラルベキモノナルコト

前項第一號ノ組合ハ毎年一回同號ニ該當スルモノナルコトヲ證スル市町村長(市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區長、町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノ以下同ジ)ノ證明書ニ組合規約及組合員名簿ヲ添附シ預金若ハ國債又ハ合同運用信託ノ利子又ハ利益ノ支拂者ニ提出スルコトヲ要ス但シ陸海軍ノ官衙

三分半利付國債ニシテ二年以上ノ期間證券ノ交付又ハ賣却ノ請求ヲ爲サザルコトヲ約シタルモノ

二 國民貯蓄組合ヲ通ジテ登錄ヲ爲シタル三分半利付國債ニシテ二年以上ノ期間除却ノ請求又ハ讓渡ヲ爲サザルコトヲ約シタルモノ

第二十一條 法第四條第二項ノ其ノ他ノ預金ハ商業組合、工業組合、貿易組合、漁業協同組合又ハ自動車運送事業組合ニ對スル貯金トス

第二十二條 法第四條第二項ノ規定ニ依リ利子ニ付甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ノ免除ヲ受クベキ銀行貯蓄預金、産業組合貯金又ハ前條ノ貯金ハ左ニ掲グルモノナルコトヲ要ス

一 契約期間二年以上ノ定期預金

二 拂戻ニ付期限ヲ定ムル預金契約ノ期間二年以上ニシテ最終ノ預ケ入ノ時ヨリ拂戻ノ期限ニ至ル期間一年以上ナルコトヲ約シタル据置貯金

第二十三條 法第四條第一項及第二項ノ元本額ハ支拂ヲ受クベキ預金ノ利子金額又ハ合同運用信託ノ利益金額ヲ年額ニ換算シタルモノヲ當該預金又ハ合同運用信託ノ年利率又ハ年利率ニ相當スル利率若ハ收益交付率ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

第二十四條 同一人ガ同一ノ支拂者ニ對シ二口以上ノ第十九條各號ノ銀行預金又ハ合同運用信託ヲ有スルトキハ法第四條第一項ノ元本額ハ此等ノ預金又ハ合同運用信託ヲ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス同一人ガ同一ノ支拂者ニ對シ二口以上ノ第二十二條各號ノ預金ヲ有スル場合ニ於ケル法第四條第二項ノ元本額ノ計算ニ付亦同ジ

第二十五條 前條ノ規定ハ同一人ガ同一ノ郵便貯金通帳ヲ以テ保管ノ委託ヲ爲シタル二以上ノ第二十條第一號ノ國債ヲ有スル場合ニ於ケル法第四條第一項ノ額面金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス二以上ノ第二十條第二號ノ國債ヲ有スル場合ニ付亦同ジ

第二十六條 同一人ガ同一ノ支拂者ニ對シ第十九條第一號ノ銀行預金ト第二十二條第二號ノ銀行貯蓄預金トヲ有スルトキハ法第四條第一項ノ元本額ハ此等ノ預金ヲ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス但シ其ノ金額ガ五千圓以下ナルトキハ第十九條第一號ノ銀行預金ノ元本額ノミニ依リ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ法第四條第二項ノ元本額ハ第二十二條第二號ノ銀行貯蓄預金ノ元本額ノミニ依リ之ノ計算ス

第二十七條 法第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニ付甲種ノ配當利子所得

ニ對スル分類所得稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ當該預金又ハ信託ノ契約ニ際シ當該預金又ハ合同運用信託ガ組合貯蓄臺帳ニ記載セラルベキモノナルコトヲ證スル組合長ノ證明書ヲ支拂者ニ提出スベシ

前項ノ規定ハ法第四條第一項ノ規定ニ依リ國債ノ利子ニ付甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ノ免除ヲ受ケントスル者ガ二年以上ノ期間當該國債ノ交付、賣却若ハ除却ノ請求又ハ讓渡ヲ爲サザルコトヲ約スル場合ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 國民貯蓄組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ預金又ハ合同運用信託ヲ爲サントスル場合ニ於テ法第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニ付甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ當該預金又ハ信託ノ契約ニ際シ各組合員別ノ明細書ヲ支拂者ニ提出スベシ

前項ノ規定ハ組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ國債ノ保管ヲ委託シ又ハ登錄ノ請求ヲ爲サントスル場合ニ付之ヲ準用ス

第二十九條 第十八條第一項及第十九條第三號ノ規定ニ該當スル合同運用信託ヲ爲シタル者前二條ニ規定スル證明書及明細書ヲ支拂者ニ提出シタルトキハ提出ノ日以後ニ於テ支拂期ノ到來スル利益ニ付法第四條第一項ノ規定ニ

依リ甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ヲ免除ス但シ提出ノ日ヨリ信託終了期日ニ至ル期間三年以上ナル場合ニ限ル

第十八條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ國民貯蓄組合ヲ通ジテ郵便官署ニ保管ヲ委託シ又ハ登錄ヲ爲シタル三分半利付國債ニ付二年以上ノ期間其ノ交付、賣却若ハ除却ノ請求又ハ讓渡ヲ爲サザルコトヲ約スル書面並ニ前二條ニ規定スル證明書及明細書ヲ支拂者ニ提出シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第三十條 法第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニ付甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ノ免除ヲ受ケタル者其ノ契約期間（第十九條第一號ノ繼續期間ヲ含ム）又ハ信託期間ノ滿了前ニ於テ全部又ハ一部ノ元本ノ拂戻ヲ受ケルトキハ當該元本ヨリ生ジタル利子又ハ利益ニ付免除ヲ受ケタル分類所得稅額ニ相當スル金額ヲ其ノ拂戻ノ際支拂者ニ於テ徴收スベシ

前項ノ場合ニ於テ拂戻ヲ受クル元本ニ付拂戻ノ際未ダ支拂ヲ爲サザル利子又ハ利益アルトキハ其ノ利子又ハ利益ニ付テハ甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ノ免除ハ之ヲ爲サズ

前二項ノ規定ハ法第四條第一項ノ規定ニ依リ國債ノ利子ニ付甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ノ免除ヲ受ケタル者ガ第二十條第一號又ハ第二號ノ期間滿了前ニ當該國債ノ交付、賣却若ハ除却ノ請求又ハ讓渡ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

第三十一條 國民貯蓄組合法第五條ノ規定ニ依リ補助金又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ガ收支計算ヲ明ニスベシ

第三十二條 大藏大臣法第六條ノ規定ニ依リ國民貯蓄組合ノ組織ヲ命ズル場合ニ於テハ組合ヲ組織スベキ者ノ範圍及組織スベキ期限ヲ指定シタル命令書ヲ組合員タルベキ者ニ送付ス

第三十三條 法第七條ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ爲ス當該官吏ハ其ノ身分ヲ示ス別記様式ニ依リ證票ヲ携帯スベシ

第三十四條 國民貯蓄組合ノ幹旋ニ依ル合同運用信託ニ限リ信託業法施行細則第八條ノ規定ニ依ル制限ハ之ヲ三百圓未滿トス

第三十五條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行法第九條ノ規定ニ依リ貯蓄銀行法第一條第一項第一號又ハ第三號ニ掲グル業務ヲ營マントスルトキハ業務ノ種類及方法ヲ記載シタル扉

其他 國民貯蓄組合法施行規則

出書ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

貯蓄銀行法施行細則第二條及第三條ノ規定ハ前項ノ届出書ニ付之ヲ準用ス

第三十六條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行前條ノ業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セントスルトキハ其ノ内容及事由ヲ記載シタル届出書ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

第三十七條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行法第九條ノ規定ニ依リ預金ヲ受入レタルトキハ別ニ帳簿ヲ備ヘ其ノ元利ノ受拂ニ關スル事項ヲ記載スベシ

第三十八條 貯蓄銀行法第九條第三項及貯蓄銀行法施行細則第五條乃至第八條ノ規定ハ法第十條第一項ノ規定ニ依リ國債ノ供託ニ付之ヲ準用ス

第三十九條 銀行法施行細則第二十九條ノ規定ハ第三十五條、第三十六條並ニ前條ノ規定ニ於テ準用スル貯蓄銀行法施行細則第七條及第八條ノ規定ニ依リ貯蓄銀行ニ非ザル銀行ノ大藏大臣ニ提出スベキ書類ニ付之ヲ準用ス

第四十條 國民貯蓄組合ノ提出スベキ書類ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ各其ノ定ムル所ニ依リノ外之ヲ二通作成シ當該組合ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル市町村長ヲ經テ地方長官ニ提出スベシ

一 陸海軍ノ官衙ニ於ケル組合ニ在リテハ之ヲ二通作成

シ大藏大臣ニ提出スベシ

二 工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ管理スル工場事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ之ヲ二通作成シ大藏大臣ニ提出スベシ但シ第十三條、第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ提出スベキ書類ニ付テハ之ヲ三通トス

三 工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ於ケル組合ニ在リテハ前號但書ノ書類ハ之ヲ三通(東京府ニ在リテハ四通)作成シ地方長官ニ提出スベシ但シ勤務者數常時千人以上ノ工場ニ於ケル組合ニ在リテハ夫々一通ヲ加フルモノトス

四 資本金千萬圓以上ノ會社ノ事務所營業所ニシテ其ノ役員及職員ノ數常時百人以上ノモノニ於ケル組合ニ在リテハ第三號但書ノ書類ハ之ヲ三通作成シ地方長官ニ提出スベシ

第四十一條 第十條第二項及第十二條ノ規定ハ陸海軍ノ官衙ニ於ケル國民貯蓄組合ニ之ヲ適用セズ

本令ニ地方長官トアルハ陸海軍ノ官衙又ハ工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ管理スル工場事業場ニ於ケル國民貯蓄組合ニ在リテハ之ヲ大藏大臣トス

附 則

三一 國民更生金庫法

昭和十六年三月六日法律第四十二號

第一章 總 則

第一條 國民更生金庫ハ時局ノ要請ニ應ジ轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ資産及負債ノ整理ヲ促進シ其ノ更生ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條 國民更生金庫ハ法人トス
國民更生金庫ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク
國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第三條 國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ銀行其ノ他命令ノ定ムル法人ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシムルコトヲ得

第四條 國民更生金庫ノ資本金ハ二千萬圓トス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第五條 政府ハ千九百萬圓ヲ國民更生金庫ニ出資スベシ
前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

其他 國民更生金庫法

第四十二條 本令ハ昭和十六年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十八條乃至第三十條及第四十五條ノ規定ハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條 第四條第二項及第三項、第五條並ニ第六條ノ規定ハ本令施行ノ日ヨリ三月ヲ限リ法附則第二項ノ規定ニ於テ看做シタル國民貯蓄組合ニ之ヲ適用セズ

第四十四條 前條ノ國民貯蓄組合ノ組合長ハ本令施行後三月以内ニ組合規約ヲ地方長官ニ提出スベシ

第四十五條 第二十九條ノ規定ハ本令施行前ニ於テ第四十三條ノ國民貯蓄組合ヲ通ジテ第十八條第一項及第十九條第三號ニ掲グル合同運用信託ヲ爲シタル者第二十七條及第二十八條ニ規定スル證明書及明細書ヲ支拂者ニ提出シタル場合ニ付之ヲ準用ス本令施行前ニ於テ三分半利付國債ノ保管ヲ郵便官署ニ委託シ又ハ登録ヲ爲シタル者方第四十三條ノ國民貯蓄組合ヲ通ジテ當該國債ニ付二年以上ノ期間其ノ交付、賣却若ハ除却ノ請求又ハ讓渡ヲ爲サザルコトヲ約シ第二十七條及第二十八條ニ規定スル證明書及明細書ヲ支拂者ニ提出シタル場合亦同ジ
(別記様式 略)

第六條 國民更生金庫ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所ノ所在地
- 四 資本金額及資産ニ關スル事項
- 五 役員ニ關スル事項
- 六 業務及其ノ執行ニ關スル事項
- 七 更生債券ノ發行ニ關スル事項
- 八 會計ニ關スル事項
- 九 公告ノ方法

定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條 國民更生金庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲ス

コトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第八條 國民更生金庫ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ國民更生金庫ノ事業ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ內務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 國民更生金庫ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 國民更生金庫ニ非ザル者ハ國民更生金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第二章 役員

第十一條 國民更生金庫ニ理事長一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十二條 理事長ハ國民更生金庫ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ國民更生金庫ヲ代表シ、理事長ヲ輔佐シテ國民更生金庫ノ業務ヲ掌理シ、理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ、理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

第十三條 國民更生金庫ノ業務ヲ監査ス

第十四條 理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ズ

第十五條 理事長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ從タル事務所ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得

第十六條 理事長及理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 國民更生金庫ニ評議員若干人ヲ置キ主務大臣之ヲ命ズ

評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス

第三章 業務

第十七條 國民更生金庫ハ左ノ業務ヲ行フ

- 一 轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル資産ノ管理又ハ處分
- 二 轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル資金ノ融通
- 三 轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル債務ノ引受又ハ保證
- 四 前各號ノ業務ニ附帶スル事業

國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ニ掲グル業務以外ノ業務ヲ行フコトヲ得

本法ニ規定スルモノノ外國民更生金庫ノ業務ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 國民更生金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一 國債、地方債又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券

其 他 國民更生金庫法

券ノ取得

二 大藏省預金部ヘノ預金又ハ郵便貯金

三 銀行ヘノ預金又ハ信託會社ヘノ金錢信託

第四章 更生債券

第十九條 國民更生金庫ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ更生債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十條 更生債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

更生債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十一條 國民更生金庫ハ更生債券借換ノ爲一時第十九條ノ制限ニ依ラズ更生債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ更生債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月以内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊更生債券ヲ償還スベシ

第二十二條 政府ハ更生債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

第二十三條 更生債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ發行スルコトヲ得

第二十四條 國民更生金庫ニ於テ更生債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十五條 更生債券ノ消滅時効ハ元本ニ在リテハ十五年、利息ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第二十六條 所得税法及有價證券移轉税法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ更生債券ニ之ヲ準用ス

第二十七條 本章ニ規定スルモノノ外更生債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 會計

第二十八條 國民更生金庫ノ事業年度ハ四月ヨリ翌年三月迄トス

第二十九條 國民更生金庫ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財産目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス
出資者及債權者ハ業務時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第六章 監督及補助

第三十條 主務大臣ハ國民更生金庫ノ業務ヲ監督ス

第三十一條 國民更生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十二條 國民更生金庫ハ業務開始ノ際業務ノ方法ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第一項ノ損失ヲ決定スル基準ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十八條 前條第一項ノ損失及其ノ額ハ國民更生金庫損失審査會之ヲ決定ス

國民更生金庫損失審査會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 罰 則

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ國民更生金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

三 第十八條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

四 第十九條又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ違反シ更生債券ノ發行ヲ爲シ又ハ償還ヲ爲サザルトキ

五 主務大臣ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

六 國民更生金庫監理官ノ検査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル報告ヲ爲サザルトキ

第四十條 左ノ場合ニ於テハ國民更生金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス
一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲

第三十三條 主務大臣ハ國民更生金庫ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 主務大臣ハ國民更生金庫監理官ヲ置キ國民更生金庫ノ業務ヲ監視セシム

第三十五條 國民更生金庫監理官ハ何時ニテモ國民更生金庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

國民更生金庫監理官ハ必要有リト認ムルトキハ何時ニテモ國民更生金庫ニ命ジテ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

國民更生金庫監理官ハ國民更生金庫ノ諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十六條 役員ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行為ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第三十七條 政府ハ國民更生金庫ニ對シ第十七條ニ規定スル業務ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ契約ハ之ニ基キ交付スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 第二十九條ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置カザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

第四十一條 第十條ノ規定ニ違反シ國民更生金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

附 則

第四十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和十六年勅令第七百三十號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

第四十三條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ國民更生金庫ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十四條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府以外ノ出資者ノ出資ノ申込書ト共ニ之ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第四十五條 出資ノ拂込完了シタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ事務ヲ國民更生金庫理事長ニ引繼グベシ
理事長前項ノ事務ノ引繼ヲ受ケタルトキハ理事長、理事及監事ノ全員ハ設立ノ登記ヲ爲スベシ

國民更生金庫ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第四十六條 本法施行ノ際ニ國民更生金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フル者ハ本法施行後六月以内ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第十條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グル者ニ適用セズ

第四十七條 國民更生金庫ハ財團法人國民更生金庫ノ權利ヲ讓受ケ又ハ其ノ義務ヲ引受ケントスル場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ讓受又ハ引受ハ財團法人國民更生金庫ノ解散ノ日ニ於ケル財産目錄ニ記載シタル價額ニ依ルコトヲ得
國民更生金庫ガ前項ノ價額ニ依リ第一項ノ讓受又ハ引受ヲ爲シタルニ因リ受ケタル損失ハ之ヲ第三十七條第一項ノ損失ト看做ス

第四十八條 登録税法中左ノ通改正ス

第十九條第七號中「庶民金庫」ノ上ニ「國民更生金庫、」ヲ、「庶民金庫法」ノ上ニ「國民更生金庫法、」ヲ加フ

同條第十七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十七ノ二 國民更生金庫カ國民更生金庫法第十七條ニ規定スル業務ノ爲ニスル權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記又ハ登録

同條第十八號中「庶民金庫」ノ上ニ「國民更生金庫、」ヲ加フ

第四十九條 印紙税法中左ノ通改正ス

第五條第五號ノ二ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五ノ三 國民更生金庫ノ業務ニ關スル證書帳簿及更生債券

第五十條 政府出資特別會計法中左ノ通改正ス

第五條ニ左ノ一項ヲ加フ

公債ノ交付ニ依リ出資ヲ爲ス爲必要アルトキハ政府ハ前項ノ規定ニ依ルノ外本會計ノ負擔ニ於テ公債ヲ發行スルコトヲ得

三二 國民更生金庫法施行規則

昭和十六年六月三十日大藏省令第三十四號

第一條 國民更生金庫ハ國民更生金庫法第三條ノ規定ニ依リ信託會社、無盡會社、產業組合中央金庫、商工組合中央金庫、產業組合法第一條第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引若ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合、商業組合、商業組合聯合會、工業組合、工業組合聯合會、貿易組合、貿易組合聯合會、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ヲシテ其ノ業務ノ一部ヲ代理セシムルコトヲ得

第二條 國民更生金庫銀行又ハ前條ニ掲グル法人ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシメントスルトキハ其ノ商號又ハ名稱、住所及代理業務ヲ行フベキ本支店又ハ事務所ノ所在地並ニ代理セシムベキ業務ノ範圍ヲ具シ大藏大臣ニ認可ノ申請ヲ爲スベシ

第三條 國民更生金庫ノ業務ノ一部ヲ代理シタル銀行又ハ第一條ニ掲グル法人ハ其ノ代理業務ニ關シ別ニ帳簿ヲ設ケ經理ヲ爲スベシ

第四條 國民更生金庫ノ理事長、理事及監事ノ報酬又ハ手當ノ額ヲ決定セントスルトキハ大藏大臣ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第五條 國民更生金庫ハ每事業年度經過後定款ノ定ムル所ニ依リ貸借對照表ヲ公告スベシ

第六條 左ノ場合ニ於テハ國民更生金庫ハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ヅベシ
一 業務ノ執行其ノ他ニ關スル規程ヲ定メ又ハ之ヲ改廢シタルトキ

二 國民更生金庫法及國民更生金庫法施行令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲シタルトキ

附 則

本令ハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

其他 國民更生金庫法施行令

三三 國民更生金庫法施行令

昭和十六年六月二十八日勅令第七百三十三號

第一章 業務

第一條 國民更生金庫ノ國民更生金庫法第十七條第一項ノ業務ハ地方長官ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ轉業又ハ廢業ヲ爲スモノト認ムル商工業業者等（以下轉廢業者ト稱ス）ノ爲ニ之ヲ行フ

一時局ニ伴フ經濟統制ノ爲ニスル生産、配給、輸出又ハ輸入ノ禁止又ハ制限
二 時局ニ伴フ經濟統制ノ爲ニスル生産、配給、輸出又ハ輸入ノ機構ノ整理

三 國際關係ノ變化ニ基ク輸出又ハ輸入ノ減少
四 前各號ノ事由ニ準ズル事由

其 他 國民更生金庫法施行令

第二條 國民更生金庫ガ轉廢業者ノ爲管理又ハ處分スベキ資産ハ當該轉廢業者ガ業務ノ用ニ供シ若ハ業務ニ關シ取得シタルモノ又ハ管理若ハ處分上之ト分離スルヲ適當トセザルモノニ限ル

第三條 國民更生金庫ノ轉廢業者ノ爲ニスル資産ノ管理又ハ其ノ資産ニ付所有權其ノ他ノ權利ノ移轉ヲ受ケテ之ヲ行フコトヲ得

第四條 國民更生金庫ガ轉廢業者ノ爲資産ノ處分ヲ引受ケタル場合ニ於テハ當該資産ヲ處分シタル時其ノ處分價額ニ相當スル金額ヲ處分ノ委託者ニ交付ス但シ地方長官ノ轉廢業者資産評價地方委員會ニ諮問シ決定スル價額(以下引受價額ト稱ス)ニ滿タザル價額ヲ以テ當該資産ヲ處分シタルトキ及ビ當該資産ヲ處分シ得ザルトキハ引受價額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第五條 國民更生金庫法第十七條第一項第二號ノ資金ノ融通ハ轉廢業者ノ爲資産ノ處分ヲ引受ケタル場合ニ限リ當該資産ノ引受價額ヲ限度トシテ當該轉廢業者ノ爲之ヲ爲スコトヲ得

第六條 國民更生金庫法第十七條第一項第三號ノ債務ノ引受又ハ保證ハ轉廢業者ノ爲資産ノ處分ヲ引受ケタル場合ニ限リ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル額ヲ限度トシテ當該轉

廢業者ノ爲之ヲ爲スコトヲ得

第二章 更生債券

第七條 更生債券ノ募集ニ應ゼントスル者ハ更生債券申込證ニ通ニ其ノ引受クベキ更生債券ノ數及住所ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

更生債券申込證ハ理事長之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 國民更生金庫ノ名稱
 - 二 更生債券ノ總額
 - 三 各更生債券ノ金額
 - 四 更生債券ノ利率
 - 五 更生債券償還ノ方法及期限
 - 六 利息支拂ノ方法及期限
 - 七 更生債券發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
 - 八 國民更生金庫ノ資本金額及拂込資本金額
 - 九 舊更生債券借換ノ爲國民更生金庫法第十九條ノ制限ニ依ラス更生債券ヲ發行スルトキハ其ノ旨
 - 十 前ニ更生債券ヲ發行シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額
- 更生債券發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ應募者ハ更生債券申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス

第八條 前條ノ規定ハ契約ニ依リ更生債券ノ總額ヲ引受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ更生債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ自ラ更生債券ノ一部ヲ引受ケル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦同ジ

第九條 更生債券ノ應募總額ガ更生債券申込證ニ記載シタル更生債券ノ總額ニ達セザルトキト雖モ更生債券ヲ成立セシムル旨ヲ更生債券申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ更生債券ノ總額トス

第十條 更生債券ノ募集ガ完了シタルトキハ理事長ハ遲滞ナク各更生債券ニ付其ノ全額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第十一條 更生債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ自己ノ名ヲ以テ國民更生金庫ノ爲ニ第七條第二項及前條ニ定ムル行爲ヲ爲スコトヲ得

更生債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社二以上アルトキハ前項ノ行爲ハ共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 賣出ノ方法ニ依リ更生債券ヲ發行セントスルトキハ理事長ハ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

- 一 賣出期間
- 二 更生債券賣出ノ價額
- 三 第七條第二項第一號乃至第六號及第八號乃至第十號

其 他 國民更生金庫法施行令

ニ掲グル事項

四 第十三條ニ規定スル事項

第十三條 賣出期間内ニ賣上ゲタル更生債券ノ總額ガ前條ノ規定ニ依リ公告シタル更生債券ノ總額ニ達セザルトキハ其ノ賣上總額ヲ以テ更生債券ノ總額トス

第十四條 更生債券ハ全額ノ拂込アリタル後ニ非ザレバ之ガ證券ノ發行ヲ爲スコトヲ得ズ

第十五條 更生債券ニハ第七條第二項第一號乃至第六號ニ掲グル事項及證券番號ヲ記載シ理事長之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

賣出ノ方法ニ依リ發行スル更生債券ニハ第七條第二項第二號ニ掲グル事項ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十六條 理事長ハ主タル事務所ニ更生債券原簿ヲ備置クコトヲ要ス國民更生金庫ノ出資者及債權者ハ業務時間内何時ニテモ更生債券原簿ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十七條 更生債券原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 更生債券ノ數及番號
 - 二 更生債券ノ證券發行ノ年月日
 - 三 第七條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル事項
- 更生債券ヲ記名ト爲シタルトキハ前項ニ掲グル事項ノ外

其ノ更生債券ノ所有者ノ氏名及住所並ニ取得ノ年月日ヲ
更生債券原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第十八條 記名更生債券ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ更
生債券原簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ證券ニ記載スルニ非ザ
レバ之ヲ以テ國民更生金庫其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコ
トヲ得ズ

記名更生債券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ質權者
ノ氏名及住所ヲ更生債券原簿ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ
以テ國民更生金庫其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十九條 更生債券應募者ニ對スル通知又ハ催告ハ更生債
券申込證ニ記載シタル其ノ者ノ住所ニ、其ノ者ガ別ニ其
ノ住所ヲ國民更生金庫ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛
ツルヲ以テ足ル未ダ更生債券ノ證券ノ發行ヲ爲スニ至ラ
ザル場合ニ於テ更生債券權利者ニ對スル通知又ハ催告ニ
付亦同ジ

記名更生債券ノ所有者ニ對スル通知又ハ催告ハ更生債券
原簿ニ記載シタル其ノ者ノ住所ニ、其ノ者ガ別ニ住所ヲ
國民更生金庫ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛ツルヲ以
テ足ル

前二項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スベカリシ時ニ到
達シタルモノト看做ス

第二十二條 國民更生金庫ノ成立後從タル事務所ヲ設ケタ
ルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間以内ニ從
タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ從タル事務所ノ
所在地ニ於テハ三週間以内ニ前條第二項ニ掲グル事項ヲ
登記シ他ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其
ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

主タル事務所又ハ從タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル登記
所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ從タル事務所ヲ設ケタルトキ
ハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足
ル

第二十三條 國民更生金庫ガ主タル事務所ヲ移轉シタルト
キハ二週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

國民更生金庫ガ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在
地ニ於テハ三週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於
テハ四週間以内ニ第二十一條第二項ニ掲グル事項ヲ登記
スルコトヲ要ス但シ同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ從
タル事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ
以テ足ル

第二十四條 第二十一條第二項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生
ジタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從
タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間、以内ニ變更ノ登記

其他 國民更生金庫法施行令

無記名更生債券ノ所有者ニ對スル通知又ハ催告ハ公告ノ
方法ニ依ルコトヲ得

第二十條 無記名更生債券ヲ償還スル場合ニ於テ欠缺セル
利札アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但
シ既に支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ト引換ニ控除金額ノ
支拂ヲ請求スルコトヲ得

第三章 登記

第二十一條 國民更生金庫ノ設立ノ登記ハ理事長カ設立委
員ヨリ設立ニ關スル事務ノ引繼ヲ受ケタル日ヨリ二週間
以内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
設立ノ登記ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所
- 四 資本金額及拂込資本金額
- 五 理事長、理事及監事ノ氏名及住所
- 六 公告ノ方法

國民更生金庫ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後一週間以内ニ從
タル事務所ノ所在地ニ於テ前項ニ掲グル事項ヲ登記スル
コトヲ要ス

ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條 國民更生金庫法第十四條ノ代理人ヲ選任シタ
ルトキハ二週間以内ニ之ヲ置キタル事務所ノ所在地ニ於
テ代理人ノ氏名、住所及代理人ヲ置キタル事務所並ニ代
理人ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ其ノ制限ヲ登記ス
ルコトヲ要ス登記シタル事項ノ變更及代理人ノ代理權ノ
消滅ニ付亦同ジ

第二十六條 更生債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第十條ノ拂
込アリタルトキハ又第十二條ノ賣出期間滿了シタルトキ
ハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所
ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ更生債券ノ登記ヲ爲スコ
トヲ要ス

前項ノ登記ニハ第七條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル
事項ヲ掲グルコトヲ要ス

第二十七條 登記スベキ事項ニシテ主務大臣ノ認可ヲ要ス
ルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起
算ス

第二十八條 登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ
公告スルコトヲ要ス

第二十九條 國民更生金庫ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在

地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

各登記所ニ國民更生金庫登記簿ヲ備フ

第三十條 設立ノ登記ヲ除クノ外本令ニ依ル登記ハ理事長ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第三十一條 設立登記ノ申請書ニハ定款、出資ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並ニ理事長、理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十二條 國民更生金庫法第十四條ノ代理人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ代理人ノ選任ヲ證スル書面及代理人ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ其ノ制限ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十三條 更生債券ノ登記ノ申請書ニハ更生債券ノ引受ヲ證スル書面、更生債券申込證及各更生債券ニ付第十條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面又ハ第十二條ノ賣出期間内ニ於テ賣上ゲタル更生債券ノ總額ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十四條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他第二十一條第二項ニ掲グル事項ノ變更ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十五條 前條ノ規定ハ第二十五條ノ規定ニ依リ登記シ

ズシテ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ業トスル者(以下之ヲ證券引受業者ト稱ス)有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第三條 金融機關又ハ證券引受業者前條ノ貸付又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ニ關シ本法ノ目的ニ從ヒ政府ノ適當ト認ムル方法ニ依リ自治的ニ調整ヲ爲スモノナルトキハ之ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得

第四條 命令ノ定ムル會社ノ設立ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ會社ノ資本増加、合併又ハ目的變更ニシテ命令ノ定ムルモノニ付亦同ジ

命令ノ定ムル會社左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受クベシ

一 第二回以後ノ株金ノ拂込ヲ爲サシメントスルトキ
二 他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメズシテ社債ヲ募集セントスルトキ

第四條ノ二 命令ノ定ムル限度ヲ超ユル事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスル者ハ之ニ付政府ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ノ定ムル者及左ノ各號ノ一ニ該當スル資金ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 金融機關ヨリノ借入金

タル事項ノ變更及國民更生金庫法第十四條ノ代理人ノ代理權ノ消滅並ニ更生債券ニ關スル登記事項ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三十六條 非訟事件手續法第四百二十二條乃至第五百一十一條ノ六及第五百五十四條乃至第五百五十七條ノ規定ハ本令ニ依リ登記ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ國民更生金庫法施行ノ日ヨリ施行ス

三四 臨時資金調整法

昭和十二年九月十日法律第八十六號
改正昭和十四年四月法律第八十六號
昭和十五年三月法律第七十號
昭和十六年三月法律第十八號

第一條 本法ハ支那事變ニ關聯シ物資及資金ノ需給ノ適合ニ資スル爲國內資金ノ使用ヲ調整スルヲ目的トス

第二條 銀行、信託會社、保險會社、產業組合中央金庫、商工組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會(以下金融機關ト總稱ス)ハ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ニ關スル資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ金融機關ニ非

二 他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメタル社債ノ收入金

三 本法ニ依リ設立又ハ資本増加ニ付認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ第一回拂込株金又ハ出資金

四 本法ニ依リ拂込又ハ募集ニ付許可又ハ認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ拂込株金又ハ社債收入金

第五條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條、第四條又ハ前條ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシム

前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス
第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ從事スル日本銀行職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第六條 日本興業銀行ハ二十億圓ヲ限リ日本興業銀行法第十二條ノ規定ニ依リ制限ヲ超エテ債券ヲ發行スルコトヲ得

日本興業銀行ハ其ノ債券借換ノ爲債券ヲ發行スル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
日本興業銀行法第十六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ
政府ハ日本興業銀行ノ發行スル債券ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ額面金額二十億圓ヲ限リ其ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

第七條 金資金ハ金資金特別會計法第四條ノ規定ニ依ルノ外之ヲ興業債券ニ運用スルコトヲ得

第八條 命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲メ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第九條 命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲メ商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ擔保附社債信託法ニ依ル物上擔保ヲ附スルコトヲ要ス

第十條 政府ハ第八條ノ規定ニ依リ資本ヲ増加シタル會社又ハ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ募集シタル會社ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 資金使用ノ調整ニ重要ナル事項ヲ調査審議スル爲メ臨時資金調整委員會ヲ置ク

第十四條ノ四 報國債券ハ發行ノ翌年ヨリ十年内ニ之ヲ償還スベシ

報國債券ニハ毎年一回以上抽籤ヲ以テ割増金ヲ附スルコトヲ得其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定ム

第十四條第三項ノ規定ハ報國債券ニ之ヲ準用ス

第十四條ノ五 報國債券ノ所有者ガ長期ニ亙リ郵便官署又ハ日本勸業銀行ニ其ノ債券ノ保管ヲ委託シタル場合ニ於テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ當該債券ニ割増金ヲ附スルコトヲ得

第十五條 復興貯蓄債券法第三條ノ規定ハ貯蓄債券ニ、同法第六條、第七條第一項及第八條並ニ日本勸業銀行法第三十五條ノ二、第三十五條ノ三、第四十條及第四十二條ノ規定ハ貯蓄債券及報國債券ニ之ヲ準用ス

第十六條 政府ハ資金ノ狀況ヲ調査スル爲メ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ掲グル事項ニ關シ關係者ヨリ報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

一 資金ノ需給及移動ニ關スル事項
二 有價證券ニ關スル事項

臨時資金調整委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 第二條、第四條、第四條ノ二、第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ニ關スル處分ニシテ重要ナルモノニ付テハ臨時資金審査委員會ノ議ヲ經ベシ

第十三條 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金十億圓ニ達スル迄貯蓄債券ヲ發行セシムルコトヲ得

第十四條 貯蓄債券ハ無記名トシ券面金額ヲ二十圓以下トス

貯蓄債券ヲ償還スル場合ニハ賣出價格ノ三百倍以内ノ割増金ヲ附與スルコトヲ得其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定ム

前項ノ割増金ハ主務大臣ノ定ムル價格ニ依リ國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得

第十四條ノ二 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金五億圓ニ達スル迄報國債券ヲ發行セシムルコトヲ得

報國債券ハ無記名トシ券面金額ヲ十圓以下トス

第十四條ノ三 報國債券ハ無利子トシ券面金額ヲ以テ之ヲ賣出スモノトス

三 國際收支ニ關スル事項

四 事業ノ資金計畫ニ關スル事項

五 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル事項

第十六條ノ二 政府ハ第四條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ認可若ハ許可ニ付シタル條件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲シタル者
二 第四條第二項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ株金拂込ノ催告又ハ社債ノ募集ヲ爲シタル者
三 第四條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ認可若ハ許可ニ付シタル條件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其他 臨時資金調整法施行令

- 一 第十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者
- 二 第十六條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者
- 三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スベキ許可又ハ認可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

第十九條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十條 當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和十二年九月勅令第四百九十二號ヲ以テ第十一條ノ規定ヲ同年同月十五日ヨリ、昭和十二年九月勅令第五百二十六號ヲ以テ其ノ他ノ規定ヲ同年同月二十七日ヨリ

施行)

本法ハ第十四條及第十四條ノ三乃至第十五條ヲ除キ支那事變終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

附 則 (昭和十四年法律第八十六號)
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十五年法律第七十號)
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十六年法律第十八號)
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三五 臨時資金調整法施行令

昭和十二年九月二十五日勅令第五百七號
改正昭和十三年八月勅令第五百九十號
昭和十四年四月勅令第二百二十四號

第一條 臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口五萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ貸付總額五萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亘ル資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

前項ニ五萬圓以上トアルハ左ニ掲グル事業設備ニシテ主

務大臣ノ定ムルモノノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル資金ノ貸付ニ付テハ三萬圓以上トス

- 一 化粧品、化粧用具、喫煙用具、身邊用細貨類、毛皮製品、羽毛製品若ハ羽毛ヲ用ヒタル製品、皮革製品、玩具、室内遊戲具、樂器、樂器部分品若ハ附屬品、室内裝飾用品、照明器具、家具、致醉飲料、清涼飲料、調味料、菓子又ハ飴ノ製造用ノ設備
- 二 映畫製作用ノ設備
- 三 物品販賣用ノ設備
- 四 理容店用、浴場用、旅館用、料理店又ハ貸席用ノ設備
- 五 興行用ノ設備
- 六 社交用、娛樂用又ハ遊興用ノ設備

第二條 臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關又ハ證券引受業者額面總額五萬圓以上ノ有價證券

(國債、地方債及臨時資金調整法施行地内ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ除ク以下同ジ)ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第三條 前二條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

- 一 行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ借入ルル資金ノ貸付

其他 臨時資金調整法施行令

ヲ爲ストキ

- 二 行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ發行スル有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ストキ
- 三 臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

行政官廳前項ノ認可又ハ許可ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前二條ノ主務大臣ニ協議スベシ

第四條 臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ハ資本金(出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ)二十萬圓以上ノ會社トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 特別ノ法令ニ依リ設立セラルル會社
- 二 臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免許ヲ受クベキ會社
- 三 目的トスル事業ノ全部ニ付行政官廳ノ許可又ハ免許ヲ受クベキ會社

行政官廳前項第二號又ハ第三號ニ掲グル會社ニ付認可、許可又ハ免許ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

其他 臨時資金調整法施行令

八〇

第五條 臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ノ資本増加、合併又ハ目的變更ハ左ニ掲グルモノトス但シ行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

一 資本金二十萬圓以上ノ會社ノ資本増加、合併又ハ目的變更

二 資本増加又ハ合併ニ因リ資本金二十萬圓以上ノ會社ト爲ルベキ場合ニ於ケル資本増加又ハ合併

行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第六條 臨時資金調整法第四條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケベキ會社ハ資本金二十萬圓以上ノ會社トス但シ同項ニ掲グル事項ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ當該事項ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第六條ノ二 臨時資金調整法第四條ノ二ノ規定ニ依リ主務

大臣ノ許可ヲ受ケベキ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ限度ハ五萬圓トス但シ第一條第二項ニ掲グル事業設備ニシテ主務大臣ノ定ムルモノニ付テハ其ノ限度ヲ三萬圓トス

第六條ノ三 臨時資金調整法第四條ノ二但書ノ規定ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付許可ヲ受ケルコトヲ要セザル者ハ左ノ各號ニ掲グル者トス

一 北海道、府縣、府縣組合、市町村、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、市町村學校組合、町村學校組合及學區

二 當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタル者又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲ス者

三 第四條第一項各號ノ一ニ該當スル會社又ハ第五條第一項但書ニ該當スル資本増加ヲ爲シタル會社ニシテ第一回拂込株金又ハ出資金ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スモノ

四 第六條第一項但書ニ該當スル會社ニシテ第二回以後ノ拂込株金又ハ社債收入金ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スモノ

行政官廳前項第二號ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サ

トスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ大藏大臣及商工大臣ニ協議スベシ

第七條 臨時資金調整法第二條、第四條又ハ第四條ノ二ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルニ付必要ナル事項ハ大藏大臣商工大臣及農林大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第八條 臨時資金調整法第六條ノ規定ニ依ル保證ヲ爲スニ付必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第九條 左ニ掲グル事業ヲ營ム會社ハ大藏大臣及商工大臣ノ認可ヲ受ケ臨時資金調整法第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ株金全額拂込前ト雖モ資本ヲ増加シ又ハ商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得

一 航空機製造事業

二 金屬工機械製造事業

三 兵器及兵器部分品製造事業

四 鋼船製造事業

五 製鐵事業

六 產金事業

七 石炭鑛業

八 石油鑛業、石油精製業及石油輸入業

第十條 臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲ス

其 則 臨時資金調整法施行令

場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯スベシ

第十一條 第一條及第二條ニ於テ主務大臣トアルハ銀行、信託會社及證券引受業者ニ付テハ大藏大臣、保險會社ニ付テハ商工大臣、商工組合中央金庫ニ付テハ大藏大臣及商工大臣、產業組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ニ付テハ大藏大臣及農林大臣トシ第四條第一項、第五條第一項及第六條第一項ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣及商工大臣トシ第六條ノ二ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣、農林大臣及商工大臣トス

附 則

本令ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十三年勅令第五百九十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十四年勅令第二百二十四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三六 臨時資金調整法施行細則

昭和十二年九月二十五日大藏農林商工省令
改正昭和十二年十月大藏農林商工省令
昭和十三年八月大藏農林商工省令
昭和十四年四月大藏農林商工省令

第一條 臨時資金調整法第三條ノ規定ニ依リ同法第二條ノ規定ヲ適用セザル金融機關又ハ證券引受業者ハ主務大臣之ヲ定ム

主務大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ金融機關又ハ證券引受業者ニ對シ事項ヲ指定シ臨時資金調整法第二條ノ許可ヲ受クベキコトヲ命ズルコトアルベシ

第二條 金融機關臨時資金調整法施行令第一條ノ規定ニ依リ貸付ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱
- 三 貸付ノ種類、時期及金額（數口ニ亘ルトキハ貸付總額並ニ各口ノ貸付ノ種類、時期及金額）
- 四 貸付ノ利率償還期限其ノ他ノ條件
- 五 借主ガ貸付金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張

又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
一 借主ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
二 借主ガ會社ナルトキハ最終ノ貸借對照表及損益計算書

第三條 金融機關又ハ證券引受業者臨時資金調整法施行令

第二條ノ規定ニ依リ有價證券ノ應募ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
- 三 應募スル有價證券ノ種類、數量及價額
- 前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
- 一 有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
- 二 社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第四條 金融機關又ハ證券引受業者臨時資金調整法施行令第二條ノ規定ニ依リ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ

提出スベシ

- 一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
- 三 引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額
- 四 引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル條件
- 五 有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件
- 六 有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途
- 七 資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
一 有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
二 有價證券發行者ノ最終ノ貸借對照表及損益計算書
三 社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第五條 臨時資金調整法施行令第四條ノ會社ノ設立ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ發起人又ハ社員タルベキ者ハ定款ヲ作成シタル後左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ住所及氏名
- 二 會社ノ住所、商號又ハ名稱及資本金額
- 三 會社ノ目的タル事業ノ大要
- 四 會社ノ設立ヲ必要トスル事由
- 五 會社ノ事業設備ノ計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法
- 六 第一回ノ拂込ノ時期及金額

前項ノ認可申請書ニハ定款並ニ事業計畫明細書及事業收支目論見書ヲ添附スベシ
會社ノ創立總會ニ於テ前項ノ定款ヲ變更シタルトキ又ハ創立總會ノ終結ガ會社設立ノ認可ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シタル後ナルトキハ發起人ハ創立總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準ジ認可申請書ヲ提出スベシ

第六條 臨時資金調整法施行令第五條ノ資本増加ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
一 會社ノ住所及商號又ハ名稱
二 會社ノ現在ノ資本金額
三 資本増加ノ金額並ニ第一回ノ拂込ノ時期及金額
四 資本増加ノ方法

其他 臨時資金調整法施行細則

- 五 資本増加ヲ必要トスル事由
- 六 資本増加ニ依リ調達スル資金ノ使途
- 七 資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
 一 資本増加ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

- 二 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
- 三 資本増加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書新株ノ募集ニ關スル事項ノ報告ヲ爲スベキ株主總會ノ終結ガ資本増加ノ認可ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シタル後ナルトキハ會社ハ其ノ株主總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準ジ認可申請書ヲ提出スベシ

第七條 臨時資金調整法施行令第五條ノ合併ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ連名ニテ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 合併スル會社ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 合併スル會社ノ目的並ニ資本金額及拂込資本金額
- 三 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ

住所及商號又ハ名稱

- 四 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ目的並ニ資本金額及拂込資本金額
- 五 合併ノ時期及方法
- 六 合併ヲ必要トスル事由
- 七 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ事業ノ大要

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
 一 合併ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

- 二 合併契約書ノ謄本
- 三 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ定款並ニ事業計畫明細書及事業收支目論見書
- 四 合併スル會社ノ定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

第五條第三項ノ規定ハ合併ニ因リ會社ヲ設立スル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 臨時資金調整法施行令第五條ノ目的變更ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 會社ノ住所及商號又ハ名稱
 - 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額
 - 三 會社ノ現在ノ目的及變更後ノ目的
 - 四 目的變更ヲ必要トスル事由
 - 五 目的變更後ニ於ケル會社ノ事業ノ大要
- 前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
 一 目的變更ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
 三 目的變更ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書
第九條 臨時資金調整法施行令第六條ノ會社第二回以後ノ株金ノ拂込ノ催告ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 會社ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額
- 三 株金ノ拂込ノ時期及金額
- 四 株金ノ拂込ヲ爲サシムルヲ必要トスル事由
- 五 株金ノ拂込ニ依リ調達スル資金ノ使途
- 六 資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大

其他 臨時資金調整法施行細則

要並ニ資金ノ調達方法

- 前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
 一 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
- 二 株金ノ拂込ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十條 臨時資金調整法施行令第六條ノ會社社債ノ募集ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 會社ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額
- 三 社債ノ發行ノ時期、總額及條件
- 四 社債ノ募集ヲ必要トスル事由
- 五 社債ノ募集ニ依リ調達スル資金ノ使途
- 六 資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
 一 社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
 二 社債申込證案及募集趣意書案

其他 臨時資金調整法施行細則

- 三 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
- 四 社債ノ募集ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十一條 臨時資金調整法施行令第六條ノ二ノ規定ニ依リ

- 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスルモノハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
- 一 申請者ノ住所及氏名、商號又ハ名稱
- 二 會社ニ在リテハ其ノ資本金額及拂込資本金額
- 三 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法
- 四 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ必要トスル事由

- 前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
- 一 會社ニ在リテハ定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書、會社以外ノ法人ニ在リテハ定款、寄附行為又ハ之ニ準ズベキモノ並ニ事業及資産負債ノ概要ヲ知ルニ足ル書類、個人ニ在リテハ現ニ營ム事業ノ概要ヲ知ルニ足ル書類（人格ナキ團體ノ爲ニスルモノナルトキハ其ノ團體ノ規約並ニ事業及資産負債ノ概要ヲ知ルニ足ル書類）
- 二 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ伴フ事業計畫明細書

書及事業收支目論見書

相互會社以外ノ會社ニシテ資本金二十萬圓未滿ノモノ、會社以外ノ法人若ハ個人ノ事業設備ノ新設、擴張若ハ改良又ハ相互會社以外ノ會社ニシテ資本金二十萬圓以上ノモノ若ハ相互會社ノ臨時資金調整法施行令第一條第二項ニ掲グル五萬圓以下ノ事業設備ノ新設、擴張若ハ改良ニシテ昭和十四年勅令第二百二十四號施行ノ際現ニ其ノ新設、擴張又ハ改良ニ著手セルモノニ付テハ同令ノ施行後一月内ニ當該新設、擴張又ハ改良ガ完了スル見込ナキ場合ニ限り前二項ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ提出スベキモノトス

第十二條 臨時資金調整法施行令第九條ニ掲グル事業ヲ營

- ム會社株金全額拂込前ノ資本増加ヲ爲サントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ
- 一 會社ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 會社ノ現在ノ資本金額及拂込資本金額
- 三 資本増加ノ金額並ニ第一回ノ拂込ノ時期及金額
- 四 資本増加ノ方法
- 五 株金全額拂込前ノ資本増加ヲ必要トスル事由
- 六 資本増加ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法

備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法

- 前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
- 一 資本増加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
- 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本
- 三 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
- 四 資本増加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第六條第三項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 臨時資金調整法施行令第九條ニ掲グル事業ヲ營

ム會社商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集セントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 會社ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額
- 三 社債ノ發行ノ時期、總額及條件
- 四 商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユル社債ノ募集ヲ必要トスル事由
- 五 社債ノ募集ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業

其他 臨時資金調整法施行細則

設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法

前項ノ場合ニ於テ擔保附社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルモノナルトキハ認可申請書ニ前項各號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示
- 二 社債ノ利率ノ最高限度
- 三 第一項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
- 一 社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
- 二 會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本
- 三 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額ニ關スル登記簿ノ抄本
- 四 信託證書案
- 五 社債ニ附スル擔保物件ノ目錄
- 六 前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最終ノ財産目錄ノ科目別ニ記載シタル書類
- 七 定款並ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
- 八 社債ノ募集ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十四條

金融機關又ハ證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ都度報告書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口五萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
- 二 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル貸付總額五萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亘ル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ

- 三 額面總額五萬圓以上ノ有價證券（國債、地方債及臨時資金調整法施行地内ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ除ク以下同ジ）ノ應募ヲ爲シ其ノ割當ヲ受ケタルトキ
- 四 額面總額五萬圓以上ノ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ

第十五條

金融機關又ハ證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ一月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ報告書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ但シ前條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口三萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ
- 二 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルル

ト認ムル貸付總額三萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亘ル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ

- 三 額面總額三萬圓以上ノ有價證券ノ應募ヲ爲シ其ノ割當ヲ受ケタルトキ
- 四 額面總額三萬圓以上ノ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ

第十六條

前二條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ提出スベキ報告書ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ作成スベシ

- 一 資金ノ貸付ニ關スル報告書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
 - イ 借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱
 - ロ 借主ノ事業ノ種類
 - ハ 貸付ノ年月日
 - ニ 貸付ノ種類及金額
 - ホ 貸付ノ利率、償還期限其ノ他ノ條件
 - ヘ 貸付金ノ使途
- 二 有價證券ノ應募ニ關スル報告書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
 - イ 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
 - ロ 有價證券發行者ノ事業ノ種類
 - ハ 應募割當ノ年月日

第十七條ノ二 臨時資金調整法施行令第一條第二項又ハ第六條ノ二但書ノ規定ニ依リ三萬圓以上ノ資金ノ貸付又ハ三萬圓ヲ超ユル新設、擴張若ハ改良ニ付主務大臣ノ許可ヲ受クベキ事業設備ハ別表ニ定ムル所ニ依ル

- ニ 割當ヲ受ケタル有價證券ノ種類、數量及價額
- ホ 割當ヲ受ケタル有價證券ノ拂込ノ時期
- 三 有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル報告書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
 - イ 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
 - ロ 有價證券發行者ノ事業ノ種類
 - ハ 引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ノ締結ノ年月日
 - ニ 引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額
 - ホ 引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル條件
 - ヘ 有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件
 - ト 有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途

第十八條 第一條乃至第四條、第十四條及第十五條ニ於テ主務大臣トアルハ銀行、信託會社及證券引受業者ニ付テハ大藏大臣、保險會社ニ付テハ商工大臣、商工組合中央金庫ニ付テハ大藏大臣及商工大臣、産業組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ニ付テハ大藏大臣及農林大臣トシ第五條乃至第十條、第十二條及第十三條ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣及商工大臣トシ第十三條ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣、農林大臣及商工大臣トス

附 則 (昭和十二年大藏農林商工省令)

本令ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十二年大藏農林商工省令)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條第四項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ本令公布ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ提出スベシ

附 則 (昭和十三年大藏農林商工省令)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條

主務大臣必要アリト認ムルトキハ本令ニ依リ許可若ハ認可ノ申請書又ハ報告書ヲ提出スベキ者ニ對シ其ノ副本ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

主務大臣必要アリト認ムルトキハ本令ニ依リ提出スベキ申請書、之ニ添附スベキ書類又ハ報告書ニ關シ別段ノ指示ヲ爲スコトヲ得

主務大臣ハ本令ニ定ムルモノノ外關係者ニ對シ臨時資金調整法ニ依ル許可又ハ認可ニ關シ必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

其他 預金部普通地方資金融通規則

第十條第四項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ本令公布ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ提出スベシ

附 則 (昭和十四年大藏農林商工省令)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條第三項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ本令公布ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ提出スベシ

(別表 略)

三七 預金部普通地方資金融通

規則

昭和七年十二月十六日大藏省令第三十號
 改正昭和九年九月九日大藏省令第三十號
 昭和十年五月五日大藏省令第三十號
 昭和十一年八月八日大藏省令第二十八號
 昭和十一年十月十日大藏省令第三十四號
 昭和十三年三月三日大藏省令第三十一號
 昭和十五年四月四日大藏省令第三十號
 昭和十六年二月二日大藏省令第二十二號

第一章 總 則

第一條 預金部普通地方資金ノ融通ハ別段ノ定アル場合ヲ

除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ルモノトス

第二條 預金部普通地方資金ハ之ヲ左ノ十四種トス

一 公共團體普通事業資金

二 社會事業資金

三 土地區劃整理組合事業資金

四 耕地整理組合事業資金

五 産業組合事業資金

六 森林組合事業資金

七 漁業組合事業資金

八 畜産組合事業資金

九 牧野組合事業資金

十 工業組合事業資金

十一 貿易組合事業資金

十二 商業組合事業資金

十三 自動車運送事業組合事業資金

十四 酒造組合事業資金

第二章 融通先

第三條 本資金ハ左ノ各號ノ者ニ限り之ヲ融通スルコトヲ

得

一 公共團體普通事業資金ニ在リテハ

イ 北海道地方費(以下道ト稱ス)、府縣、市町村、市

町村組合及町村組合

ロ 水利組合(水利組合聯合會ヲ含ム以下同ジ)及北海道土功組合

八 畜産組合事業資金ニ在リテハ

イ 畜産組合

ロ 畜産組合聯合會

九 牧野組合事業資金ニ在リテハ

イ 牧野組合

十 工業組合事業資金ニ在リテハ

イ 工業組合

ロ 工業組合聯合會

十一 貿易組合事業資金ニ在リテハ

イ 貿易組合

ロ 貿易組合聯合會

十二 商業組合事業資金ニ在リテハ

イ 商業組合

ロ 商業組合聯合會

十三 自動車運送事業組合事業資金ニ在リテハ

イ 自動車運送事業組合

ロ 自動車運送事業組合聯合會

十四 酒造組合事業資金ニ在リテハ

イ 酒造組合

ロ 酒造組合聯合會

第四條 本資金ノ融通ヲ受クル者ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備

其他 預金部普通地方資金融通規則

二 社會事業資金ニ在リテハ

イ 道、府縣、市町村、市町村組合及町村組合

ロ 住宅組合

ハ 産業組合

ニ 營利ヲ目的トセザル法人

三 土地區劃整理組合事業資金ニ在リテハ

イ 土地區劃整理組合

ロ 土地區劃整理組合聯合會

四 耕地整理組合事業資金ニ在リテハ

イ 耕地整理組合(耕地整理共同施行者ヲ含ム以下同ジ)

ロ 耕地整理組合聯合會

五 産業組合事業資金ニ在リテハ

イ 産業組合

ロ 産業組合聯合會

六 森林組合事業資金ニ在リテハ

イ 森林組合

ロ 森林組合聯合會

七 漁業組合事業資金ニ在リテハ

イ 漁業組合

ロ 漁業組合聯合會

其他 預金部普通地方資金融通規則

スルコトヲ要ス

- 一 財務ノ整理良好ナルコト
 - 二 事業ノ計畫及償還ノ見込確實ナルコト
- 産業組合、森林組合、漁業組合、畜産組合、牧野組合、工業組合、貿易組合、商業組合、自動車運送事業組合、酒造組合及其ノ聯合會ニ在リテハ前項ニ依ルノ外其ノ設立後三年ヲ經過シタルコトヲ要ス但シ其ノ基礎鞏固ナリト認メラルルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 資金ノ用途

第五條 本資金ハ左ノ各號ノ用途ニ對シ之ヲ融通スルモノトス

- 一 公共團體普通事業資金ニ在リテハ
 - イ 灌溉及排水事業費
 - ロ 開墾、干拓及埋立事業費
 - ハ 耕地整理事業費
 - ニ 卸賣市場費
 - ホ 産業指導施設費
 - ヘ 産業共同施設費
 - ト 災害豫防費
 - チ 病院、隔離病舎及療養所建設費
 - リ 衛生試験所及細菌検査所建設費

ヌ 上水道及下水道費

- ル 墓地、汚物取扱所、火葬場及塵芥處分場費
- ヲ 屠場費
- ワ 道路、橋梁及渡船場費
- カ 河川及港灣費
- ヨ 飛行場建設費
- タ 學校、幼稚園及教員住宅建設費
- レ 圖書館及公會堂建設費
- ソ 動物園、植物園及水族館建設費
- ツ 公園及廣場建設費
- ネ 運動場及水泳場建設費
- ナ 電氣及瓦斯事業費
- ラ 軌道及自動車事業費
- ム 其ノ他ノ事業費
- ウ 前記各事業ニ關スル負擔金、寄附金又ハ助成金
- 二 社會事業資金ニ在リテハ
 - イ 住宅ノ建設費
 - ロ 公益質屋費
 - ハ 公益市場費
 - ニ 簡易宿泊所費
 - ホ 託兒所費

ヘ 其ノ他ノ社會事業費

ト 前記各事業ニ關スル寄附金又ハ助成金

- 三 土地區劃整理組合事業資金、耕地整理組合事業資金、産業組合事業資金、森林組合事業資金、漁業組合事業資金、畜産組合事業資金、牧野組合事業資金、工業組合事業資金、貿易組合事業資金、商業組合事業資金、自動車運送事業組合事業資金及酒造組合事業資金ニ在リテハ
- イ 當該組合又ハ同聯合會ノ事業費

第四章 資金ノ借入申込

第六條

地方公共團體又ハ水利組合本資金ノ借入ヲ爲サントスルトキハ借入ヲ要スル年度ノ前年度三月三十一日迄ニ預金部資金借入申込書(第一號様式)ヲ第二條第一號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及内務大臣ニ、第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及厚生大臣ニ提出スベシ

東京市、京都市、大阪市、横濱市、神戸市及名古屋市(以下六大都市ト稱ス)以外ノ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ノ提出スル前項ノ預金部資金借入申込書ニシテ大藏大臣ニ提出スルモノニ在リテハ預金部資金局支局ヲ經由シ、内務大臣又ハ厚生大臣ニ提出スルモノニ在リテハ地方長官ヲ經由スベシ

其他 預金部普通地方資金融通規則

第七條 削除

第八條

地方公共團體及水利組合以外ノ者本資金ノ借入ヲ爲サントスルトキハ借入ヲ要スル年度ノ前年度三月三十一日迄ニ預金部資金借入申込書(第一號様式)ヲ第二條第一號及第三號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及内務大臣ニ、第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及厚生大臣ニ、第四號乃至第九號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ、第十號乃至第十二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及商工大臣ニ、第十三號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及鐵道大臣ニ、第十四號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣ニ提出スベシ

前項ノ預金部資金借入金申込書ニシテ大藏大臣ニ提出スルモノニ在リテハ預金部資金局支局ヲ經由シ、内務大臣、厚生大臣、農林大臣、商工大臣又ハ鐵道大臣ニ提出スルモノニ在リテハ地方長官ヲ經由スベシ

第九條

第六條及前條ノ期限ヲ經過シタル後第五條ノ用途ニ該當スル事業ニ關シ必要避クベカラザル事由ノ爲本資金ノ借入ヲ爲サントスル者ニ在リテハ第六條及前條ノ規定ニ拘ラズ其ノ都度借入申込ヲ爲スコトヲ得

第十條 削除

第五章 資金ノ融通

第一節 總則

其他 預金部普通地方資金融通規則

第十一條 地方公共團體及水利組合ニ對スル資金ノ融通ハ

直接預金部資金局ニ於テ之ガ取扱ヲ爲スモノトス
地方公共團體及水利組合以外ノ者ニ對シテハ日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫ヲ經由シテ資金ノ融通ヲ爲スモノトス但シ第二條第二號ノ資金ニ在リテハ此ノ外向道、府縣轉貸ノ方法ニ依リ融通ヲ爲スコトアルベシ

第十二條 地方公共團體及水利組合ニ對スル預金部資金ノ

融通ハ當該地方債證券若ハ水利組合債證券ノ引受又ハ貸付ノ形式ニ依ルモノトス

日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫ニ對スル預金部資金ノ融通ハ債券引受ノ形式ニ依ルモノトス但シ三年以内ノモノニ限り貸付ノ形式ニ依ルコトアルベシ

第十三條 前條ノ規定ニ依ル地方債證券、水利組合債證券、

債券又ハ貸付金ノ償還期限ハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ二十年以内トス但シ資金融通ノ目的タル事業ノ種類其ノ他ノ事由ニ依リ特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ三十年以内ト爲スコトアルベシ

第十四條 日本勸業銀行及農工銀行ノ預金部資金ノ貸付ハ

現金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ預金部資金交付申請書(第三號様式)ニ起債決議書寫、起債許可書寫及償還年次表ヲ添ヘ道、府縣又ハ六大都市ニ在リテハ預金部資金局ニ、六大都市以外ノ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ニ在リテハ預金部資金局支局ニ之ヲ提出スベシ資金ノ交付ヲ受クベキ期日ハ預金部資金交付申請書發送ノ日ヨリ二十日以上ノ餘日ヲ存スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アルトキハ餘日ノ短縮ヲ認ムルコトアルベシ

第十七條 地方公共團體又ハ水利組合日本銀行(本店、支

店又ハ代理店ヲ含ム以下同ジ)ヨリ現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ地方債證券、水利組合債證券(第四號様式)又ハ借用證書(第五號様式)ヲ日本銀行當該店ニ提出スベシ

前項ニ依リ地方公共團體又ハ水利組合ガ日本銀行代理店

第十八條 道、府縣ガ轉貸ノ爲交付ヲ受ケタル預金部資金

ノ貸付ニ付テハ第二十條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第三節 地方公共團體及水利組合以外ノ者ニ對スル資金ノ融通

第十九條 地方公共團體及水利組合以外ノ者ニ對シ預金部

其他 預金部普通地方資金融通規則

定期償還又ハ年賦償還、北海道拓殖銀行及産業組合中央金庫ノ預金部資金ノ貸付ハ定期償還、年賦償還又ハ手形割引、日本興業銀行ノ預金部資金ノ貸付ハ定期償還又ハ手形割引、商工組合中央金庫ノ預金部資金ノ貸付ハ定期償還、年賦償還、月賦償還又ハ手形割引ノ方法ニ依ルモノトス

前項ノ定期償還貸付ノ償還期間ハ五年以内、年賦償還貸付ノ償還期限ハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ二十年以内、月賦償還貸付ノ償還期限ハ二年以内ノ据置期間ヲ併セ五年以内トス但シ年賦償還貸付ノ償還期限ニ付テハ資金融通ノ目的タル事業ノ種類其ノ他ノ事由ニ依リ特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テハ五年以内ノ据置期間ヲ併セ三十年以内ト爲スコトアルベシ

第十五條 前四條ノ外預金部資金ノ融通利率其ノ他ノ融通

第二節 地方公共團體及水利組合ニ對スル資金ノ融通

第十六條 地方公共團體又ハ水利組合第六條及第九條ノ規

定ニ依ル預金部資金ノ借入申込ニ對シ資金割當ノ通知ヲ受ケタル場合又ハ道、府縣第十一條第二項但書ノ規定ニ依リ轉貸資金ニ付資金割當ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ

資金ノ割當アリタルトキハ日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫ハ割當額ノ範圍内ニ於テ融通スルヲ適當ト認ムル金額ニ付債券引受申請書(第六號様式)又ハ預金部資金貸付申請書(第七號様式)ヲ預金部資金局ニ提出スベシ但シ資金ノ交付ヲ受クベキ期日ハ債券引受申請書又ハ預金部資金貸付申請書發送ノ日ヨリ十日以上ノ餘日ヲ存スルコトヲ要ス

日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫前項ノ申請ニ依リ日本銀行本店ヨリ現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ債券又ハ借用證書(第五號様式)ヲ日本銀行本店ニ提出スベシ

第二十條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日

本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫前條ノ規定ニ依リ貸付資金ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ貸付ヲ爲スベシ

第二十一條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、

日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫預金部資金ノ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ債務者トノ間ニ締結スル貸借契約ニ借入金ノ預金部資金ナルコト並ニ

其他 預金部普通地方資金融通規則

借入金使用ノ目的ヲ明示シ且左ノ事項ヲ定ムベシ

一 債務者ガ其ノ借入金ヲ資金供給ノ目的以外ニ使用シタルトキ又ハ借入後長期ニ互リ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用セザルトキハ之ヲ返還スルコト

二 預金部資金局ハ債務者ニ就キ隨時調査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徴スルコトアルベキコト

第二十二條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、

日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫ニ於テ其ノ交付ヲ受ケタル預金部資金中不用トナリタルモノアルトキ又ハ本資金ニ依ル貸付金ノ返済高ガ大藏省預金部ニ對スル償還豫定高ヲ超過シタルトキハ最近ノ元利金支拂期日ニ於テ該不用額又ハ超過額ニ相當スル金額ヲ償還スベシ但シ債券發行ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ券面額ニ滿チザル端數ハ之ヲ次期ノ計算ニ繰越スコトヲ得

第二十三條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、

日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫ニ於テ預金部資金ノ貸付ヲ爲シタルトキハ一口毎ニ區別シテ毎月之ヲ報告スベシ

前項ノ報告書ハ第二條第一號及第三號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、内務大臣及地方長官ニ、第二號ノ資金ニ

關スルモノハ大藏大臣、厚生大臣及地方長官ニ、第四號

乃至第九號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、農林大臣及地方長官ニ、第十號乃至第十二號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、商工大臣及地方長官ニ、第十三號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、鐵道大臣及地方長官ニ、第十四號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣及地方長官ニ提出スベシ

第六章 償還及利息拂

第二十四條 道、府縣、六大都市、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫

又ハ商工組合中央金庫其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ノ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ爲サントスルトキハ日本銀行本店ニ對シ預金部資金元利金拂込内譯書(第八號様式)ヲ添ヘテ送金シ預金部資金局ニ之ニ關スル預金部資金元利金支拂計算書(第九號様式)ヲ送付スベシ

第二十五條 六大都市以外ノ市町村、市町村組合、町村組

合及水利組合其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ノ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ爲サントスルトキハ預金部資金元利金拂込内譯書(第八號様式)ニ通テ作成シ其ノ一通ヲ添ヘテ當該融通金ノ交付ヲ取扱ヒタル日本銀行ノ店ニ送金シ他ノ一通ハ之ヲ預金部資金局支局ニ提出スベシ

第二十六條 地方公共團體又ハ水利組合其ノ融通ヲ受ケタル

預金部資金ノ繰上償還ヲ爲サントスルトキハ預金部資金繰上償還申請書(別紙第九號ノ二様式)ヲ道、府縣又ハ六大都市ニ在リテハ預金部資金局ニ、六大都市以外ノ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ニ在リテハ預金部資金局支局ニ提出シ之ガ承認ヲ受クベシ

前項ノ繰上償還期日ハ最近ノ元利金支拂期日トス但シ特別ノ事情アル場合又ハ全額繰上償還ノ場合ニ於テハ豫メ期日ヲ定メ承認ヲ受クベシ

六大都市以外ノ市町村、市町村組合、町村組合及水利組合預金部資金繰上償還ノ承認ヲ受ケタルトキハ變更償還年次表ニ送付書ヲ添ヘ第十七條第一項ノ日本銀行當該店ニ送付スベシ

第七章 雜 則

第二十七條 日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、

日本興業銀行、産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫ハ其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ニ付別ニ帳簿ヲ設ケ整理スベシ

第二十八條 道、府縣、六大都市、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行、産業組合中央金庫

又ハ商工組合中央金庫ハ毎年十二月三十一日現在ヲ以テ

其他 預金部普通地方資金融通規則

預金部資金ノ使用狀況報告書(第十號様式)又ハ貸付狀況

報告書(第十一號様式)ヲ調製シ翌年二月末日迄ニ預金部資金局ニ提出スベシ

六大都市以外ノ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ハ前項ノ報告書各二通ヲ調製シ翌年一月三十一日迄ニ預金部資金局支局ニ之ヲ提出スベシ

第二十九條 第六條、第八條及第九條ノ規定ニ依リ預金部

資金局支局ヲ經由シテ提出スベキ書類並ニ第十六條、第二十五條、第二十六條及第二十八條ノ規定ニ依リ預金部資金局支局ニ提出スベキ書類ハ預金部資金局支局ノ出張所ヲ經由スルコトヲ要ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和九年大藏省令第三十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十年大藏省令第十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十一年大藏省令第二十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十一年大藏省令第三十四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

其他 預金部普通地方資金融通規則

附 則 (昭和十三年大藏省令第十一號)

本令ハ公布ノ日之ヲ施行ス

附 則 (昭和十五年大藏省令第三十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十六年大藏省令第二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ預金部普通地方資金融通規則第六條ノ規定ニ依リ道、府縣、市町村、市町村組合及町村組合ノ昭和十五年三月三十一日迄ニ農林大臣ニ提出シタル預金部資金借入申込書ハ之ヲ内務大臣ニ提出シタルモノト看做ス

第一號様式

預金部資金借入申込書

- 一、資金年度及何年度何資金
 - 一、資金ノ用途 何事業(何々ノ爲轉貸)
 - 一、償還方法 年賦(定期、月賦)
 - 一、期 限 何年何月迄ニ償還(定期償還ノ場合ハ何年何月償還)
 - 一、經由機關名 何々(地方公共團體及水利組合ハ本項ノ記入ヲ要セズ)
- 右ニ依リ預金部資金借用致度此段及申込候也
- 年月日
- 借入申込者 氏 名

大藏大臣
内務大臣
農林大臣
商工大臣
鐵道大臣
厚生大臣

氏 名宛

註 本申込書ハ名宛毎ニ各別ニ調製スルコト

第二號様式 削除

第三號様式

預金部資金交付申請書

- 一、資金年度及何年度何資金
 - 一、資金ノ用途 何事業(何々ノ爲轉貸)
 - 一、利 率 年何分何厘
 - 一、資金ノ交付ヲ受クベキ年月日 何年何月何日
 - 一、資金ノ交付ヲ受クベキ店名 日本銀行何店
 - 一、据置期限 何年何月何日
 - 一、償還期限 何年何月何日
 - 一、引換提供スベキ證券(借用證書)ノ記番號
 - 一、證券ノ種類 何萬圓券何枚 何千圓券何枚
- 及 取 何枚
- 右御交付相成度別紙起債決議書寫、起債許可書寫及償還年次表相添へ此段及申請候也

道而資金御交付ノ上ハ本資金ニ關シ預金部資金局ヨリ隨時調査ヲ受ケ又ハ報告ヲ徵セラルルモ何等異議無之ハ勿論本資金ハ速ニ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用致スベク萬一右目的以外ニ之ヲ使用シ又ハ借入後長期ニ互リ使用セザルガ如キコトアル場合ハ直ニ繰上償還ヲ命ゼラルルモ異存無之候

年月日

資金交付申請者 氏 名

預金部資金局長(預金部資金局何支局長) 宛

註 資金ノ交付ヲ受クベキ日本銀行ノ店ハ

償還年次表(定期償還ノ方法ニ依ルトキハ本表ノ添附ヲ要セズ)

年 度	元利支拂期日		未償還元金	償 還		子 要	合 計
	何 年 何 月 何 日	何 年 何 月 何 日		元 圓	金 圓		
何 年 度	何 月 何 日	何 月 何 日					
、	、	、					
、	、	、					
、	、	、					
合 計							

別 紙

- (イ) 借受人ガ道、府縣及六大都市ナルトキハ日本銀行本店トスルコト
- (ロ) 借受人ガ六大都市以外ノ市町村、市町村組合、町村組合及水利組合ナルトキハ所在地日本銀行本店又ハ國庫事務取扱代理店トシ其ノ地ニ該當ノ店ナキトキハ最寄ノ日本銀行本店又ハ國庫事務取扱代理店トスルコト但シ既ニ大藏省預金部ヨリ直接預金部資金ノ融通ヲ受ケ居レル場合ハ當該資金ノ取扱店トスルコト

第四號様式

No.	所有者 大藏大臣
券證債圓何	(合組利水村町市縣府道)
回第	北海 道 廳 長 官 何 府 縣 知 事 何 市 町 村 長 官 何 水 利 組 合 管 理 者
年 月 日 發 行	
規程ニ遵據スルモノトス	
第一、此ノ(道府縣市町村水利組合)債ハ發行ノ日ヨリ昭和何年何月何日迄據置共ノ後昭和何年何月何日迄ニ之ヲ償還ス	
第二、此ノ(道府縣市町村水利組合)債ノ利子ノ割合ハ一年百分ノ何トス	
第三、此ノ(道府縣市町村水利組合)債ノ利子ハ何月何日及何月何日ニ於テ其ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ發行又ハ償還ノ場合ニ於ケル一期ニ滿チザル端數利子ハ發行ノ際ニ於テハ現金拂込ノ翌日ヨリ償還ノ際ニ於テハ支拂當日迄日割計算ニ依ルモノトス	
第四、此ノ(道府縣市町村水利組合)債券面記載事項以外ノ取扱ハ總テ(道府縣市町村水利組合)債募集及償還方法ノ規程ニ遵據スルモノトス	

(註)

- 證券ノ券面種類ハ百圓、貳百圓、五百圓、七千圓、壹千圓、貳千圓、五千圓、七千圓、壹萬圓、貳萬圓、五萬圓トシ元金償還ノ都合ニ依リ適宜種類ヲ撰擇シテ發行スルコト
- 證券ハ縱四寸四分、横九寸一分(西尺)
- 證券ハ普通活版ニ附シ別ニ色刷等ヲ爲スニ及バザルモ活字ノ大サハ六號トスルコト
- 證券ニハ利札ヲ附セザルコト

第五號様式 第 號



借用證書

一金 何 圓也

右金額ヲ本日大藏省預金部ヨリ左記條件ヲ以テ借用仕候就而借入條件ヲ堅ク遵守ノ上元利金ハ期日ニ相違無支拂可致候也

追而本資金ニ關シ預金部資金局ヨリ隨時調査ヲ受ケ又ハ報告ヲ徵セラルルモ何等異議無之ハ勿論本資金ハ速ニ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用致スベク萬一右目的以外ニ之ヲ使用シ又ハ借入後長期ニ互リ使用セザルガ如キコトアル場合ハ直ニ繰上償還ヲ命ゼラルルモ異存無之候尙本借用證書ハ預金部資金局ノ請求アル場合ニ於テハ何時ニテモ何々債證券(何々債券)ニ引換可申候

- 記
- 一、資金ノ用途 何事業(何々ノ爲轉貸)
 - 一、利率 年何分何厘
 - 一、元利金支拂方法 (註參照)
 - 一、元利金支拂ノ場 日本銀行何店
 - 一、所 年月日

其他 預金部普通地方資金融通規則

借受人氏 名

大藏大臣氏 名宛

註

- 一、元利金支拂方法及時期ノ項ニハ
- (イ) 年賦償還ノ方法ニ依ルモノニ付テハ「別紙償還年次表」ノ通り償還スルモノトス(但シ本資金ニ依ル貸付金返済高ガ前記償還高ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額モ同時ニ償還シ又本資金ノ据置期間中ニ於テ本資金ニ依ル貸付金ノ一部又ハ全部ノ返済アリタルトキハ最近ノ元利支拂期ニ於テ該返済額相當ノ償還ヲ爲スモノトス)借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿チザル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フモノトスト記載スルコト但シ括弧内ハ轉貸スベキ資金ヲ借入レタル者ニ限り記載スルコト
- (ロ) 定期償還ノ方法ニ依ルモノニ付テハ「何年何月何日元金全額ヲ償還ス(但シ本資金ニ依ル貸付金ガ期限前ニ一部又ハ全部ノ返済アリタルトキハ最近ノ利子支拂期ニ於テ之ガ相當額ヲ償還スルモノトス)利子ハ毎年何月何日及何月何日ニ於テ各其

其他 預金部普通地方資金融通規則

ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿チザル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フモノトス」ト記載スルコト但シ括弧内ハ轉貸スベキ資金ヲ借入レタル者ニ限り記載スルコト

- 二、元利金支拂場所ノ項ノ何店ハ本資金ノ貸付ヲ取扱ヒタル日本銀行ノ店名ヲ記載スルコト
- 三、收入印紙ノ貼付ハ公共團體以外ノ借受人ニ限ルコト

第六號様式

債券引受申請書

- 一、資金年度及資金名 何年度何々資金
- 一、債券發行高 何圓
- 一、債券ノ記號又ハ同別 何號又ハ第何回
- 一、各債券ノ金額 何萬圓及何千圓
- 一、債券ノ總枚數 何萬圓券何枚、何千圓券何枚（記名利札付トス）
- 一、利子歩合 年何分何厘
- 一、發行價格 額面百圓ニ付百圓
- 一、申込期日 何年何月何日

- 一、拂込及發行期日 何年何月何日
- 一、据置期限 何年何月何日（一時ニ償還スルモノニ付テハ本項ノ記入ヲ要セズ）
- 一、償還期間 何年何月何日ヨリ向フ何年以内（一時ニ償還スルモノニ付テハ本項ノ記入ヲ要セズ）
- 一、償還方法 何年何月第一回ノ償還抽籤ヲ執行シ以後毎年二回（何月、何月）抽籤ヲ爲シ毎回元金何萬圓以上ヲ其ノ翌月ニ償還シ何年何月何日殘額全部ヲ償還ス但シ本資金ニ依ル貸付金返済高ガ前記償還高ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額モ同時ニ償還シ又本債券ノ据置期間中ニ於テ本資金ニ依ル貸付金ノ全部又ハ一部ノ返済アリタルトキハ最近ノ元利支拂期ニ於テ該返済額相當額ノ償還ヲ爲スモノトス
- 一、元金及利子支拂期 何年何月何日、何月何日ノ二回利

一、元金及利子支拂期

ノ超過額モ同時ニ返済スルモノトス

右ハ預金部資金ヲ以テ御引受相成度此段申請候也

年 月 日 申請者 氏 名宛 名印

第七號様式

預金部資金貸付申請書

- 一、資金年度及資金名 何年度何資金
- 一、金額 何圓
- 一、利率 年何分何厘
- 一、借入期日 何年何月何日
- 一、償還方法 何年何月何日 何圓

但シ本資金ニ依ル貸付金返済高ガ前期償還高ヲ超過シタルトキハ其

其他 預金部普通地方資金融通規則

右預金部資金ヲ以テ御貸付相成度此段申請候也

年 月 日 貸付申請者 氏 名宛 名印

一、利子支拂期

ノ超過額モ同時ニ返済スルモノトス

第八號様式

其他 預金部普通地方資金融通規則

年 月 日

預金部資金局支局長
日本銀行本店(支店又ハ代理店) 宛

借受人 氏

名印

預金部資金元利金拂込内譯書(何月何日何日分)

計	何々債證券(何々債券)發行年月日又ハ借入年月日	同別又ハ記號	拂込額	債還券面別枚數	摘要
			圓		
			圓		
			圓		
			圓		

元利金合計 何 圓 何 錢

註

- 一、本内譯書ハ名宛人毎ニ調製シ且元利金支拂期日ノ異ナル毎ニ又證券ト借入金トノ區分ニ依リ各別紙ト爲シ發行又ハ借入年月日順ニ記入スルコト
- 二、摘要欄ニハ拂込月日、償還債券番號其ノ他參考事項ヲ記入スルコト
- 三、借受人ガ六大都市以外ノ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ナル場合ハ氏名ノ肩書ニ道府縣郡名ヲ記載スルコト

第九號様式

年 月 日

預金部資金局長 氏 名宛

借受人 氏

名印

預金部資金元利金支拂計算書(何月何日何日分)

計	資金名 何々債證券(何々債券)發行年月日又ハ借入年月日	同別又ハ記號	何々債證券發行額又ハ當初額	現在額	利率	期間	支拂所要額		支拂額	償還券面別枚數	摘要
							利子	元金			
			圓	圓			圓	圓	圓		
			圓	圓			圓	圓	圓		
			圓	圓			圓	圓	圓		
			圓	圓			圓	圓	圓		

註

- 一、本計算書ハ元利金支拂期日ノ異ナル毎ニ又證券ト借入金トノ區分ニ依リ各別紙ト爲シ發行又ハ借入年月日順ニ記入スルコト
 - 二、摘要欄ニハ拂込月日、償還債券番號其ノ他參考事項ヲ記入スルコト
- 第九號ノ二様式

預金部資金局長(預金部資金局支局長) 氏 名宛

借受人 氏

名印

預金部資金線上償還申請書

預金部資金左記ノ通線上償還致度候ニ付御承認相成度變更償還年次表相添ヘ此段及申請候也

其他 預金部普通地方資金融通規則

其他 預金部普通地方資金融通實施取扱規程

預金部資金局長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ニ通知スベシ但シ預金部資金局長ノ出張所ノ設アル區域ニ於テハ同出張所ヲ經由シテ之ヲ通知スベシ

第二章 地方公共團體及水利組合以外ノ者

第七條 預金部資金局長融通規則第八條第二項及第九條ノ規定ニ依ル預金部資金借入申込書ノ提出ヲ受ケタルトキハ特ニ本資金ヲ必要トスルモノニ付其ノ年度内ニ融通スルヲ適當ト認ムル金額ヲ記載シタル書類ヲ添附シ融通規則第八條第二項ノ規定ニ依ルモノハ毎年五月三十一日迄ニ、同第九條ノ規定ニ依ルモノハ其ノ申込ヲ受ケタルトキヨリ一箇月内ニ之ヲ大藏大臣ニ進達スベシ

第八條 地方長官融通規則第八條第二項及第九條ノ規定ニ依ル預金部資金借入申込書ノ提出ヲ受ケタルトキハ特ニ本資金ヲ必要トスルモノニ付其ノ年度内ニ融通スルヲ適當ト認ムル金額ヲ記載シタル書類ヲ添附シ融通規則第八條第二項ノ規定ニ依ルモノハ毎年五月三十一日迄ニ、同第九條ノ規定ニ依ルモノハ其ノ申込ヲ受ケタルトキヨリ一箇月内ニ之ヲ融通規則第二條第一號及第三號ノ資金ニ在リテハ内務大臣ニ、同第二條第二號ノ資金ニ在リテハ厚生大臣ニ、同第二條第四號乃至第九號ノ資金ニ在リテハ農林大臣ニ、同第二條第十號乃至第十二號ノ資金ニ在リテハ商工大臣ニ進達スベシ

ルコトヲ通知スルモノトス

附則

本規程ハ昭和七年十二月十六日ヨリ之ヲ施行ス
預金部普通地方資金貸付規程ハ之ヲ廢止ス
預金部普通地方資金貸付規程ニ依リテ爲シタル割當其ノ他ノ行爲ハ本規程ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

附則 (昭和十五年藏預第十八號)

本規程ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
地方長官昭和十五年三月三十一日迄ニ受理シタル預金部資金借入申込書ノ進達ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル但シ從前ノ預金部普通地方資金融通規則實施取扱規程第三條ノ規定ニ依リ農林大臣ニ進達スベキ書類ハ之ヲ内務大臣ニ進達スベシ

三九 簡易生命保險積立金貸付規則

大正八年八月十九日逕信省令第七十四號
改正大正九年十月逕信省令第五百五號
大正九年十二月逕信省令第二百二十四號
大正十五年六月逕信省令第二十一號
昭和十三年一月厚生省令第二號

第一條 簡易生命保險特別會計法ニ依ル積立金ハ簡易生命保險積立金運用規則第二條ノ規定ニ基キ公共團體又ハ營

其他 簡易生命保險積立金貸付規則

一一二

ハ農林大臣ニ、同第二條第十號乃至第十二號ノ資金ニ在リテハ商工大臣ニ進達スベシ

第九條 融通規則第二條第一號乃至第十二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣ハ内務大臣、農林大臣、商工大臣又ハ厚生大臣ト協議ノ上其ノ割當額ヲ決定スルモノトス其ノ割當額ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第十條 前條第一項ノ規定ニ依リ割當額ノ決定アリタルトキハ大藏大臣ハ之ヲ預金部資金局長ニ、大藏大臣及内務大臣、農林大臣、商工大臣又ハ厚生大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スルモノトス

地方長官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該借入申込者ニ通知スベシ
前條第二項ノ規定ニ依リ割當額ノ決定アリタルトキハ大藏大臣之ヲ預金部資金局長及地方長官ニ通知スルモノトス

預金部資金局長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該申込者ニ通知スベシ但シ預金部資金局長ノ出張所ノ設アル區域ニ於テハ同出張所ヲ經由シテ之ヲ通知スベシ
大藏大臣ハ銀行其ノ他ノ經由機關ニ本資金ノ割當アリタ

利ヲ目的トセサル法人若ハ組合ニ對シ本規則ノ定ムル所ニ依リ貸付ヲ爲ス

第二條 積立金ノ貸付ハ年賦償還貸付、半年賦償還貸付及定期償還貸付トス

第三條 年賦償還貸付及半年賦償還貸付ニ在リテハ元金ト利息トヲ併セテ之ヲ計算シ毎期同一ノ金額ヲ償還セシム

貸付金ノ年賦及半年賦償還ニ付テハ五年内ノ据置期間ヲ設クルコトヲ得但シ其ノ期間内ノ利息ハ此ノ限ニ在ラス
年賦償還貸付及半年賦償還貸付ノ貸付期間ハ前項ノ据置期間ヲ除キ二十五年内トス

第四條 定期償還貸付ニ在リテハ一回又ハ數回ニ元金ヲ償還セシム

定期償還貸付ノ貸付期間ハ五年内トス

第五條 年賦償還貸付及半年賦償還貸付ニシテ据置期間ヲ設ケタルモノニ在リテハ契約ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間中ニ於テ貸付後一年内ヲ限り貸付金ノ分割交付ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ定期償還貸付ニ付之ヲ準用ス

第六條 地方自治團體ニ非サル者ニ積立金ノ貸付ヲ爲ス場合ニハ借主ヲシテ擔保ヲ提供シ又ハ保證人ヲ立テシムルコトアルヘシ

第七條 積立金ヲ借入レムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタ

一一三

其他 日本勸業銀行法抄

ル簡易生命保險積立金借入申込書正副二通ニ記名調印ノ
上保險院 其ノ主タル事務所ノ所在地カ簡易保險支
局ノ管轄地域内ニ在ルトキハ當該支局
由シテ之ヲ厚生大臣ニ提出スヘシ

一金額

二目的

三償還方法

四完済期限

五借主ノ主タル事務所

貸付金ノ受領時期ニ在リテハ其ノ分割金額トモ
前項ノ借入申込書ニ附記スヘシ

第八條 前條ノ借入申込書ニハ借入ノ目的タル事業ノ計
畫、豫算、費用調達方法、債務償還資源及借主ノ當該年
度ノ歳入歳出豫算、最近年度ノ決算ノ大要ヲ記載シタル
書類並其ノ區別ニ依ル書類各二通ヲ添付スヘシ

一 地方自治團體ニ在リテハ起債決議書及組合規約アル
モノハ其ノ規約ノ謄本

二 公共組合ニ在リテハ定款又ハ規約、起債決議書及最
近年事業報告書ノ謄本

三 前各號以外ノ法人又ハ組合ニ在リテハ定款又ハ規約
及最近年度事業報告書ノ謄本、貸借対照表及財産目錄
起債ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スルモノハ許可書ノ謄本

受ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス
但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 日本勸業銀行ハ農工債券、北海道拓殖債券、
産業債券又ハ朝鮮殖産銀行ノ發行スル債券ヲ引受クルコ
トヲ得

第三十條 日本勸業銀行ハ農工債券、北海道拓殖債券、産
業債券又ハ朝鮮殖産銀行ノ發行スル債券ヲ引受ケムトス
ル場合ニ於テ農工銀行、北海道拓殖銀行、産業組合中央
金庫又ハ朝鮮殖産銀行ノ業務及財産ノ實況ヲ調査スルコ
トヲ得

第三十二條 日本勸業銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外前條ノ預
リ金又ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

三 産業組合、蠶絲共同施設組合、工業組合、漁業組合
若ハ其ノ聯合會又ハ特別ノ法令ニ依リ設立セラレ農林若
ハ水産ニ關スル事業ヲ營ム法人ニシテ大藏大臣ノ認可ヲ
受ケタルモノニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲ス
コト

第三十四條 日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込ア
リタルトキハ拂込金額ノ十五倍ヲ限リ勸業債券ヲ發行ス
ルコトヲ得但シ割賦償還貸付金總高、定期償還貸付金總
高並其ノ引受ケタル農工債券、北海道拓殖債券、産業債
券及朝鮮殖産銀行ノ發行シタル債券現在高ヲ超過スルコ
ト

其他 農工銀行法抄

ヲ添付スヘシ但シ許可申請中ノモノニ在リテハ許可セラ
レタルトキ速ニ之ヲ保險院 其ノ主タル事務所ノ所在カ
内ニ在ルトキハ當 簡易保險支局ノ管轄地域
該支局及保險院ニ送附スヘシ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十三年厚生省令第二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四〇 日本勸業銀行法抄

明治二十九年四月二十日法律第八十二號
改正(中略)
昭和十六年三月法律第三十九號

第十五條第三項 産業組合、蠶絲共同施設組合、工業組合、
漁業組合、森林組合、畜産組合、住宅組合又ハ其ノ聯合
會ニハ抵當ヲ徵セスシテ定期償還貸付若ハ割賦償還貸付
ヲ爲スコトヲ得

第十五條ノ二 日本勸業銀行ハ割増金附勸業債券ノ發行ニ
依リテ得タル資金ハ田、畑、鹽田、山林、牧場若ハ養魚
池ヲ抵當トシ又ハ之ヲ抵當トスル債權(抵當證券ヲ含ム)
ヲ質トスル貸付、漁業權又ハ漁船ヲ抵當トスル貸付、前
條第一項乃至第四項ノ貸付及農工債券又ハ産業債券ノ引

トヲ得ス
第三十六條 日本勸業銀行ハ少クトモ割賦償還貸付金並其
ノ引受ケタル農工債券、北海道拓殖債券、産業債券及朝
鮮殖産銀行ノ發行シタル債券ノ償還高ニ應シ毎年二回以
上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スヘシ

第三十九條 日本勸業銀行ハ割賦償還貸付金ノ償還延滞シ
テ豫期ノ金額ニ達セサルトキ及其ノ引受ケタル農工債
券、北海道拓殖債券、産業債券又ハ朝鮮殖産銀行ノ發行
シタル債券ニシテ之ヲ發行シタル農工銀行、北海道拓殖
銀行、産業組合中央金庫又ハ朝鮮殖産銀行解散ノ爲ニ全
額ノ償還ヲ得ルコト能ハサルトキハ第三十六條ノ償還ト
同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額又ハ償還ヲ得サル農工
債券、北海道拓殖債券、産業債券又ハ朝鮮殖産銀行ノ發
行シタル債券面金額ニ相當スル勸業債券ヲ償還スヘシ

四一 農工銀行法抄

明治二十九年四月二十日法律第八十三號
改正(中略)
昭和十六年三月法律第四十號

第六條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 五十箇年以内ニ於テ割賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ
抵當トシテ貸付ヲ爲スコト

其他 北海道拓殖銀行法抄 貯蓄銀行法抄

一一六

二 拂込資本金及積立金總高ノ二倍ニ相當スル金額ヲ限
リ不動産ヲ抵當トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲
スコト但シ山林ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ
二十箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第七條ノ五 産業組合、蠶絲共同施設組合、工業組合、漁
業組合、森林組合、畜産組合、住宅組合又ハ其ノ聯合會
ニハ無抵當ニテ第六條第一號又ハ第二號ノ貸付ヲ爲スコ
トヲ得

第二十三條 農工銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外前條ノ預リ金
又ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

三 産業組合、蠶絲共同施設組合、工業組合、漁業組合
又ハ其ノ聯合會ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ
爲スコト

四二 北海道拓殖銀行法抄

明治三十二年三月二十二日法律第七十六號
改正(中略)

第八條第四項 産業組合、蠶絲共同施設組合、工業組合、
漁業組合、森林組合、畜産組合、住宅組合又ハ其ノ聯合
會ニハ割賦若ハ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲ス
コトヲ得

四三 貯蓄銀行法抄

大正十年四月十四日法律第七十四號
改正(中略)
昭和十五年三月法律第三十三號

第五條 貯蓄銀行ハ第一條第一項ノ業務ノ外左ニ掲クル業
務ヲ併セ營ムコトヲ得

四 公共團體又ハ産業組合ノ金錢出納事務ノ取扱
五 公共團體又ハ産業組合ヨリノ要求拂預リ金

(參照)

第一條 左ニ掲クル業務ヲ營ム者ハ之ヲ貯蓄銀行トス

一 複利ノ方法ニ依リ預金ヲ受入ルルコト

二 一回十圓未満ノ金額ヲ預金トシテ受入ルルコト

三 豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ
於テ數回ニ預金ヲ受入ルルコト

四 期限ヲ定メテ一定金額ノ給付ヲ爲スコトヲ約シ定
期ニ又一定ノ期間内ニ於テ數回ニ金錢ヲ受入ルルコ
ト

貯蓄銀行ニ非サルモノハ前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス
但シ貯蓄銀行ニ非サル銀行カ預金取引ヲ有スル者ヨリ
其ノ者トノ取引ノ結果生シタル十圓未満ノ金額ヲ其ノ

四五 郵便貯金規則抄

明治三十八年五月六日逓信省令第三十六號
(改正中略)
昭和十六年六月逓信省令第五十八號

第二條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ限リ二冊以上ノ通帳ヲ所
持スルコトヲ得

一 公共團體、社寺、學校、産業組合又ハ營利ヲ目的ト
セサル法人若ハ團體ニシテ目的ノ異ナル貯金ヲ爲スト
キ

二 規約貯金ノ預ケ人ニシテ異ナル組合ニ加入スルトキ

三 据置貯金ノ預ケ人ニシテ据置期間異ナル貯金ヲ爲ス
トキ

三ノ二 月掛貯金ノ預ケ人ニシテ据置期間又ハ預ケ入金
額ノ異ナル貯金ヲ爲ストキ

三ノ三 集金貯金又ハ集團貯金ヲ爲ストキ

四 共同貯金ノ總代人ニシテ目的ノ異ナル貯金ヲ爲スト
キ

五 通常貯金、規約貯金、据置貯金、月掛貯金、集金貯
金、集團貯金中二種以上ノ貯金ヲ爲ストキ

六 通常貯金、規約貯金、据置貯金若ハ月掛貯金若ハ集

預金ニ受入レ又ハ小切手ニ依ル支拂ヲ爲スヘキ預金取
引ヲ有スル者ヨリ十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入ル
ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

四四 郵便貯金法抄

明治三十八年二月十六日法律第二十三號
改正(中略)
昭和十六年二月法律第十號

第四條 左ニ掲クル預入金ニ付テハ前條第一項第二號ノ制
限ヲ適用セス

一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人
若ハ團體ノ預入金

二 命令ノ規定ニ依ル共同貯金ノ預入金

三 産業組合又ハ産業組合中央金庫ノ預入金

四 振替計算ノ爲ニスル預入金

(參照)

第三條 一人ノ郵便貯金制限額ハ左ノ如シ

一 一度ノ預入額 五十錢以上

二 貯金總額 三千圓以下

一度ノ預入額ノ端數ハ錢位ヲ限トス

其他 郵便貯金法抄 郵便貯金規則抄

一一七

其他

郵便振替貯金ノ加入ニ基本預金ノ拂込ヲ要セサルモノノ指定

- 金貯金若ハ集團貯金ノ預ケ人カ共同貯金ノ總代人トナルトキ又ハ共同貯金ノ總代人カ通常貯金、規約貯金、据置貯金若ハ月掛貯金ヲ爲ストキ
- 七 退職積立金及退職手當法ニ依ル積立金（以下積立金ト稱ス）トシテ貯金ヲナストキ
- 八 前號ノ貯金ト共ニ積立金ニ非サル貯金ヲナストキ

四六 郵便振替貯金ノ加入ニ基本預金ノ拂込ヲ要セサルモノノ指定

昭和六年三月十日逕信省告示第百四十五號
 改正(中略)
 昭和十六年一月逕信省告示第百三十四號

本月十六日以降郵便振替貯金規則第十四條但書ニ依リ郵便振替貯金ノ加入ニ基本預金ノ拂込ヲ要セサルモノノ左ノ如シ昭和六年六月逕信省告示第千二百九十六號ハ本月十五日限り之ヲ廢止ス

- 一 公共團體、社寺、官公立學校、官公立圖書館又ハ營利ヲ目的トセサル法人
- 一 執達吏、公證人役場
- 一 官公立病院

- 一 逕信省現業員ノ共濟組合
- 一 鐵道省現業員ノ共濟組合
- 一 印刷局現業員ノ共濟組合
- 一 專賣局現業員ノ共濟組合
- 一 國有林野現業員ノ共濟組合
- 一 內務省土木現業員ノ共濟組合
- 一 陸軍共濟組合
- 一 海軍共濟組合
- 一 各地聯隊區將校團、陸軍主計團
- 一 警察共濟組合
- 一 刑務共濟組合
- 一 政府職員共濟組合
- 一 產業組合、產業組合聯合會、產業組合中央會
- 一 帝國在郷軍人會

四七 會計規則抄

大正十一年一月七日勅令第一號
 改正(中略)
 昭和八年十二月勅令第百三十三號

第四百十四條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第四節 隨意契約

- 一 契約ノ性質又ハ目的カ競争ヲ許ササルトキ
- 二 急迫ノ際競争ニ付スルノ暇ナキトキ
- 三 政府ノ行爲ヲ秘密ニスルノ必要アルトキ
- 四 五千圓ヲ超エサル工事業若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ三千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ
- 五 賃借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
- 六 豫定賃貸料年額又ハ總額五百圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ
- 七 豫定代價千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
- 八 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額二千圓ヲ超エサルトキ
- 九 勞力ノ供給ヲ請負ハシムルトキ
- 十 運送又ハ保管ヲ爲サシムルトキ
- 十一 官廳相互間ニ於テ契約ヲ爲ストキ
- 十二 農工場、學校、試驗所、監獄其ノ他之ニ準スヘキモノノ生産又ハ製造ニ係ル物品ノ賣拂ヲ爲ストキ
- 十三 法律勅令ノ規定ニ依リ財産ノ讓與又ハ無償貸付ヲ爲シ得ル者ニ其ノ財産ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
- 十四 非常災害アリタル場合ニ於テ罹災者ニ政府ノ生産ニ係ル建築材料ノ賣拂ヲ爲ストキ

其他 會計規則抄

- 十五 外國ニ於テ契約ヲ爲ストキ
- 十六 道府縣市町村其ノ他ノ公法人、公益法人、產業組合又ハ慈善ノ爲ニ設立シタル教育所ヨリ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ
- 十七 移住地域内ニ於ケル土木工事業若ハ移住民ノ共同請負ニ付スルトキ、
- 十八 學術又ハ技藝ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
- 十九 産業又ハ拓殖事業ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂若ハ貸付ヲ爲ストキ又ハ生産者ヨリ直接ニ其ノ生産若ハ製造ニ係ル物品ノ買入ヲ爲ストキ
- 二十 公共用、公用又ハ公益事業ニ供スル爲必要ナル物件ヲ直接ニ公共團體又ハ起業者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
- 二十一 土地、建物、林野又ハ其ノ產物ヲ之ニ特別ノ緣故アル者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
- 二十二 事業經營上特ニ必要ナル物品ノ買入ヲ爲シ若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ土地建物ノ買入ヲ爲ストキ
- 二十三 法律勅令ノ規定ニ依リ問屋業者ニ販賣ヲ委託スルトキ又ハ之ヲシテ販賣ヲ爲サシムルトキ
- 前項第十九號乃至第二十三號ノ場合ニ於テハ所管大臣豫

其他 市制町村制施行規則抄

メ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス
前項ノ協議ヲ遂ケタルトキハ大藏大臣直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

四八 市制町村制施行規則抄

大正十五年六月二十四日內務省令第十九號
改正(中略)
昭和十五年四月內務省令第十二號

第六十四條 市町村ハ收入役ヲシテ其ノ保管ニ屬スル市町村歲計現金ヲ郵便官署又ハ銀行若ハ信用組合ニ預入セシムルコトヲ得
前項ノ銀行及信用組合ニ付テハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

(三) 其他

四九 製絲業法

昭和七年九月七日法律第二十九號
改正昭和八年三月法律第三十一號
昭和十一年五月法律第十一號

第一條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除クノ外器械生絲ノ製造ヲ業トスル者ヲ謂フ
器械生絲ノ製造工場ヲ有スル産業組合及産業組合聯合會ハ命令ヲ以テ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ適用ニ付テハ之ヲ製絲業者ト看做ス
第二條 製絲業者タラントスル者ハ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ
前項ノ免許ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第三條 主務大臣ハ製絲業者ニ對シ製絲業ノ統制上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
第四條 製絲業者免許ヲ受ケタル日ヨリ二年以内ニ事業ヲ開始セザルトキハ主務大臣ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得
製絲業者引續キ二年以上其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ爲サ

其他 製絲業法

ザルトキハ主務大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ制限スルコトヲ得

第五條 製絲業者ノ所爲ニシテ本法ニ基キテ發スル命令若ハ處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ制限シ若ハ停止スルコトヲ得

第六條 主務大臣又ハ地方長官取締上必要アリト認ムルトキハ製絲業者ニ對シ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏ヲシテ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ若ハ帳簿物件ヲ検査セシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帯スベシ

第七條 第二條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
- 二 第四條第二項ノ規定ニ依ル制限又ハ第五條ノ規定ニ依ル制限若ハ停止ノ處分ニ違反シタル者
- 三 正當ノ理由ナクシテ第六條ノ規定ニ依ル臨檢検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ虚偽ノ陳述

ヲ爲シタル者

第九條 製絲業者正當ノ理由ナクシテ第六條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 製絲業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

第十一條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ製絲業者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和七年十月勅令第三百十一號ヲ以テ同年十月二十日)

ヨリ施行)

本法施行ノ際現ニ製絲業者タル者又ハ其ノ承繼人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

附 則 (昭和八年法律第三十一號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和八年七月勅令第九十四號ヲ以テ同年七月二十日ヨリ施行)

登録税法第十九條第七號中「産業組合中央會」ノ下ニ「生絲共同施設組合」ヲ、「産業組合法」ノ下ニ「製絲業法」ヲ加フ

日本勸業銀行法第十五條第三項及第三十二條第一項第三號、農工銀行法第七條ノ五及第二十三條第三號並ニ北海道拓殖銀行法第八條第四項中「産業組合」ノ下ニ「生絲共同施設組合」ヲ加フ

附 則 (昭和十一年法律第十一號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和十一年九月一日ヨリ施行)

製絲業法第一條第二項中「第二條乃至第十一條及附則第二項ノ規定」ヲ「本法」ニ改メ同條第三項及同法第十三條乃至第二十七條ヲ削ル

登録税法第十九條第七號中「生絲共同施設組合」ヲ「蠶絲共同施設組合」ニ、「製絲業法」ヲ「蠶絲業法」ニ改ム

日本勸業銀行法第十五條第三項及第三十二條第一項第三號、農工銀行法第七條ノ五及第二十三號並ニ北海道拓殖銀行法第八條第四項中「生絲共同施設組合」ヲ「蠶絲共同施設組合」ニ改ム

設組合ニ改ム

本法施行ノ際現ニ存スル生絲共同施設組合ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ蠶絲共同施設組合ト看做ス

五〇 製絲業法施行規則

昭和七年十月十五日農林省令第三十二號
改正昭和八年七月農林省令第十四號

昭和十一年八月農林省令第二十四號
昭和十一年十二月農林省令第三十六號
昭和十三年二月農林省令第三十七號
昭和十四年十二月農林省令第七十號
昭和十五年六月農林省令第四十五號

第一條 製絲業法第一條ノ器械生絲トハ繰棒ノ廻轉及繰棒湯ノ給熱又ハ繰棒ノ廻轉若ハ繰棒湯ノ給熱ヲ器械的操作ニ依リ行フ繰棒機ニ依リ單繭ヨリ製造スル生絲ヲ謂フ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ製絲業法第一條第一項ノ製絲業者ヨリ之ヲ除外ス

一 利用組合ノ有スル製絲工場ヲ利用シテノミ生絲ノ製造ヲ業トスル者

二 他ノ者ニ委託シテノミ生絲ノ製造ヲ業トスル者

第三條 製絲業法第二條ノ免許ハ製絲工場毎ニ之ヲ爲スモノトス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ製絲業ノ免許ヲ得ズ

其他 製絲業法施行規則

許ヲ爲サズ

一 揚返又ハ束裝以後ノ工程ノミヲ行フ場合ヲ除クノ外製絲工場ニ百五十釜以上ノ繰棒機ヲ備ヘザルトキ

二 免許申請者ガ製絲業ノ免許ヲ取消サレ又ハ事業ノ制限ヲ受ケタル後一年ヲ經過セザル者ナルトキ

三 免許申請者ガ製絲業法第五條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ受ケ事業休止中ノ者ナルトキ

四 免許申請者ガ製絲業法第七條乃至第九條ノ規定ニ依リ處罰ヲ受ケタル後一年ヲ經過セザル者ナルトキ

五 前各號ノ外農林大臣ニ於テ不適當ト認ムルトキ前項第一號ノ規定ハ自家用生絲ノ製造ノミヲ行フ製絲工場ニ付テハ之ヲ適用セズ

農林大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ産業組合又ハ産業組合聯合會ノ製絲工場ニシテ百五十釜未満百釜以上ノ繰棒機ヲ備フルモノニ付製絲業ノ免許ヲ爲スコトアルベシ

第五條 製絲業ノ免許申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附ス

ベシ

一 事業計畫書

二 設備要領書

三 免許ヲ受ケントスル者法人ナルトキハ定款、登記簿

其他 製絲業法施行規則

ノ謄本、財産目録及貸借対照表

四 二人以上共同シテ免許ヲ受ケントスルトキハ事業ニ
關スル各共同者ノ出資額及權利義務ノ關係ヲ記載シタ
ル書類

五 製絲業以外ノ事業ヲ兼營スル場合ニ於テハ其ノ兼營
事業ノ大要ヲ記載シタル書類

二人以上共同シテ免許ヲ受ケントスルトキハ内一人ヲ代
表者ト定メ其ノ氏名又ハ名稱ヲ免許申請書ニ記載スベシ
第一項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ
命ズルコトアルベシ

第六條 繰絲ノ工程ヲ行フ製絲工場ノ事業計畫書ニハ左ニ

掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 製絲工場ノ所在場所
- 二 揚返又ハ束裝以後ノ工程ヲ行ハザル場合ニ於テハ之
ヲ行フ製絲工場ノ名稱及所在場所
- 三 一年間ノ原料消費見込數量
- 四 一年間ノ目的織度別生絲製造見込數量
- 五 従業員ノ種類及員數
- 六 起業費ノ收支概算
- 七 事業ノ收支概算
- 八 事業開始ノ豫定年月日

揚返又ハ束裝以後ノ工程ノミヲ行フ製絲工場ノ事業計畫
書ニハ前項第一號及第五號乃至第八號ニ掲グル事項ノ外
左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 一年間ノ生絲取扱見込數量

二 取扱生絲ニ付繰絲ノ工程ヲ行フ工場ノ名稱、所在場
所及一年間ノ目的織度別生絲製造見込數量

第七條 設備要領書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 建物ノ種類及面積並ニ構造ノ概要

二 繰絲機ノ名稱、釜數及緒數

三 揚返機ノ窓數

四 煮繭機ノ名稱、煮繭能力及臺數

五 生絲ノ整理及検査ニ關スル設備ノ種類、名稱及員數

六 繭ノ乾燥及貯藏ニ關スル設備ノ名稱、能力及員數

前項ノ設備要領書ニハ敷地内ノ建物及設備ノ配置圖並ニ
敷地附近ノ概況圖ヲ添附スベシ

第八條 製絲業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣
ノ認可ヲ受クベシ

一 揚返又ハ束裝以後ノ工程ヲ行ハザル製絲工場ニ於テ
新ニ揚返又ハ束裝以後ノ工程ヲ行ハントスルトキ

二 繰絲機又ハ揚返機ノ増設、改設又ハ廢棄ヲ行ハント
スルトキ

四 製絲業者タル法人ノ代表者又ハ第五條第二項ノ代表
者ニ變更アリタルトキ

五 製絲業者製絲工場ノ名稱ヲ定メタルトキ又ハ之ヲ變
更シタルトキ

六 製絲業者引續キ十五日以上其ノ事業ノ全部若ハ一部
ヲ休止シ又ハ休止シタル事業ヲ再ビ開始シタルトキ

七 製絲業者其ノ事業ヲ廢止シタルトキ

八 製絲工場ノ全部又ハ一部滅失シタルトキ

九 製絲業者タル法人其ノ組織ヲ變更シタルトキ

十 製絲業者製絲工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理
人ヲ置キタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキ

十一 製絲業者製絲業以外ノ事業ヲ新ニ兼營シタルトキ
又ハ兼營事業ヲ廢止シタルトキ

十二 第八條ノ認可ヲ受ケタル事業ヲ開始シ又ハ工事ヲ
完了シタルトキ

十三 製絲工場ニ付所有權ノ移轉アリタルトキ

十四 相續又ハ合併ニ因リ製絲業ヲ承繼シタルトキ

十五 他ノ者ヨリ生絲製造(揚返又ハ束裝以後ノ工程ノ
ミヲ行フ場合ヲ除ク)ノ委託ヲ受ケタルトキ

前項第九號ノ場合ニ於テハ組織變更アリタルコトヲ證ス
ル書類、定款、財産目録及貸借対照表ヲ、第十四號ノ場

合ニ於テハ製絲業者ハ遲滞ナク農
林大臣ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

一 製絲業者其ノ氏名若ハ名稱又ハ住所若ハ事務所ヲ變
更シタルトキ

二 製絲業者タル法人其ノ定款ヲ變更シタルトキ

三 製絲業者其ノ事業ヲ開始シタルトキ

其他 製絲業法施行規則

其他 製絲業法施行規則

前項ノ認可申請書ニハ設備要領書並ニ事業ノ擴張又ハ繰
絲機若ハ揚返機ノ増設、改設若ハ廢棄ニ伴フ起業費ノ收
支概算及事業ノ收支概算ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ
前條ノ規定ハ前項ノ設備要領書ニ之ヲ準用ス

第九條 左ニ掲グル場合ニ於テハ製絲業ノ免許ハ其ノ效力
ヲ失フ但シ第一號ノ場合ニ於テ其ノ相續人又ハ合併後存
續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ引續キ其
ノ事業ヲ行フトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 製絲業者死亡シ又ハ解散シタルトキ

二 免許ヲ受ケタル製絲工場ニ付事業ノ廢止アリタルト
キ

三 免許ヲ受ケタル製絲工場滅失シタルトキ

第十條 製絲業者ハ毎年七月三十一日迄ニ前年六月一日ヨ
リ當年五月三十一日迄ノ一年間ノ事業概況書ヲ農林大臣
ニ提出スベシ

第十一條 左ニ掲グル場合ニ於テハ製絲業者ハ遲滞ナク農
林大臣ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

一 製絲業者其ノ氏名若ハ名稱又ハ住所若ハ事務所ヲ變
更シタルトキ

二 製絲業者タル法人其ノ定款ヲ變更シタルトキ

三 製絲業者其ノ事業ヲ開始シタルトキ

其他 製絲業法施行規則

其他 製絲業法施行規則

合ニ於テハ相續又ハ合併アリタルコトヲ證スル書類並ニ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ニ在リテハ定款、財産目録及貸借對照表ヲ、第十五號ノ場合ニ於テハ委託契約書ノ謄本及從業員ノ種類別現在數ヲ記載シタル書類ヲ具シ其ノ届出ヲ爲スベシ

第十一條ノ二 農林大臣製絲業法第三條ノ規定ニ依リ製絲業者ニ對シ蠶絲業ニ關スル團體ノ行フ製絲業ノ統制ニ關スル施設ニ從フベキコトヲ命ズル場合ニ於テハ豫メ其ノ從フベキ事項及從フベキ者ノ資格其ノ他必要ナル事項ヲ指定シ之ヲ告示ス

第十二條 製絲業法第六條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

第十三條乃至第二十六條 削除

第二十七條 本則ノ適用ニ關シ多條繰絲機（十以上ノ緒ヲ備フル繰絲機ヲ謂フ）ノ釜數ノ計算ニ付テハ釜數ヲ計算スベキ多條繰絲機ヲ通ジ總緒數ヲ十ヲ以テ除シタル數ヲ以テ其ノ釜數トス

第二十八條 製絲業法又ハ本則ノ規定ニ依リ農林大臣ニ提出スベキ書類ハ製絲工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ

第二十九條 製絲業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓

臣ニ届出ツベシ

一 最近二年間ニ於ケル事業ノ概況

二 前條第三號ニ該當スル者ニ在リテハ製絲工場ノ建設工事ニ著手シタル年月日、其ノ工事進捗ノ程度及事業開始ノ豫定年月日

第五條ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ届出ニ添附スベキ事業計畫書ニハ繰絲ノ工程ヲ行フ製絲工場ニ在リテハ第六條第一項第一號乃至第五號ニ掲グル事項ヲ、揚返又ハ束裝以後ノ工程ノミヲ行フ製絲工場ニ在リテハ同條同項第一號及第五號並ニ同條第二項各號ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
第七條ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依リ届出ニ添附スベキ設備要領書ニ之ヲ準用ス

第三十四條 左ニ掲グル場合ニ於テハ農林大臣ハ第四條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ製絲業ノ免許ヲ爲スコトアル

一 本令施行前一年内ニ滅失シタル製絲工場ヲ有シタル者又ハ其ノ包括承繼人同一場所ニ於ケル同等以上ノ規模ノ製絲工場ニ付本令施行ノ日ヨリ一年内ニ製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ

二 本令施行ノ際貸付中ナリシ製絲工場ノ返還ヲ受ケ製

其他 製絲業法施行規則

以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
二 免許又ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキ

第三十條 製絲業者本則ノ規定ニ依リ届出若ハ事業概況書ノ提出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シ若ハ事業概況書ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

第三十一條 本令ハ製絲業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和七年十月二十日ヨリ施行）

第三十二條 製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做サル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者及其ノ包括承繼人トス

- 一 製絲業法施行ノ際現ニ製絲業ヲ行フ目的ヲ以テ製絲工場ヲ有スル者
- 二 製絲業法施行ノ際現ニ製絲工場ヲ有スル産業組合及産業組合聯合會
- 三 製絲業法施行ノ際現ニ製絲工場ノ建設工事ヲ實施シツツアル者

第三十三條 前條ノ規定ニ該當スル者ハ製絲業法施行ノ日ヨリ二月内ニ製絲工場毎ニ左ニ掲グル事項ヲ具シ農林大

絲業ヲ行ハントスル者其ノ製絲工場ニ付製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ

三 製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做サル者若ハ昭和十三年農林省令第三號附則第二項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者又ハ本條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者當該製絲工場滅失シタル爲同一場所ニ於ケル同等以上ノ規模ノ製絲工場ニ付滅失シタル日ヨリ一年内ニ製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ

四 製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做サル者若ハ昭和十三年農林省令第三號附則第二項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者又ハ本條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者天災又ハ公益上ノ必要ニ因リ當該製絲工場ニ於テ事業ヲ繼續スルコト能ハザル爲他ノ場所ニ於ケル同等以上ノ規模ノ製絲工場ニ付製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ但シ事業廢止ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

五 製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做サル者若ハ昭和十三年農林省令第三號附則第二項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者

其他 製絲業法施行規則

又ハ本條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニシテ共同ノ施設ニ依リ製絲業ノ一部ヲ行フモノ共同事業遂行ノ必要上製絲工場ノ移轉ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該製絲工場ト同等以上ノ規模ノ製絲工場ニ付製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ

六 製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做サル者若ハ昭和十三年農林省令第三號附則第二項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者又ハ本條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者共同シテ製絲業ヲ行ハントスル場合ニ於テ其ノ合同シタル製絲工場ニ付製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ

前項ノ免許申請書ニハ第五條乃至第七條ノ規定ニ依ル書類ノ外左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
一 前項第一號又ハ第三號ノ場合ニ在リテハ滅失ノ時期及原因並ニ滅失シタル製絲工場ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書類
二 前項第二號ノ場合ニ在リテハ本令施行ノ際貸付中ナリシコトヲ證スル書類
三 前項第四號ノ場合ニ在リテハ當該製絲工場ニ於テ事業ヲ繼續スルコト能ハザル事由及事業廢止ノ時期並ニ其ノ製絲工場ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書類

四 前項第五號ノ場合ニ在リテハ製絲工場ノ移轉ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書類
五 前項第六號ノ場合ニ在リテハ製絲工場ノ合同ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書類

附 則 (昭和十一年農林省令第二十號)

本令ハ昭和十一年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(昭和十一年九月一日ヨリ施行)

本令施行ノ際現ニ他ノ者ヨリ生絲製造ノ委託ヲ受ケ其ノ事業ヲ行フ者ハ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ第十一條第一項第十五號ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スベシ

附 則 (昭和十三年農林省令第三號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布ノ際現ニ繰棒ノ廻轉又ハ繰絲湯ノ給熱ノ何レカ一ノミヲ器械的操作ニ依リ行フ繰絲機ニ依ル器械生絲ノ製造ヲ業トスル者引續キ其ノ事業ヲ行ハントスルトキハ本令施行ノ日ヨリ三月以内ニ製絲業ノ免許ヲ申請スベシ
前項ノ規定ニ依リ申請ヲ爲シタル者ハ其ノ處分ヲ受ケ其引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得
農林大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ第二項ニ掲グル者ニ對シ第四條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ製絲業ノ免許ヲ爲スコトアルベシ

附 則 (昭和十五年農林省令第四十五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式 略)

五 蠶絲業組合法抄

昭和六年三月二十八日法律第二十四號
改正昭和七年九月法律第三十號
昭和十一年五月法律第十號

第一章 蠶絲業組合

第一節 總 則

第一條 蠶絲業組合ハ左ノ六種トス

- 一 養蠶業組合
- 二 蠶種業組合
- 三 産業組合製絲組合
- 四 製絲業組合
- 五 生絲問屋業組合
- 六 生絲輸出業組合

第二條 蠶絲業組合ハ蠶絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 蠶絲業組合ハ法人トス

第四條 蠶絲業組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ズ

其他 蠶絲業組合法抄

第七條 蠶絲業組合ノ名稱中ニハ其ノ種類ニ從ヒ養蠶業組合、蠶種業組合、産業組合製絲組合、製絲業組合、生絲問屋業組合又ハ生絲輸出業組合ナル文字ヲ用フベシ

蠶絲業組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲グル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第二節 養蠶業組合

第十六條 養蠶業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 蠶品種ノ統一ニ關スル施設
- 二 養蠶業ノ指導獎勵ニ關スル施設
- 三 繭ノ検査ニ關スル施設
- 四 繭ノ取引方法ノ改善ニ關スル施設
- 五 蠶病ノ豫防ニ關スル施設
- 六 養蠶業ニ關スル研究及調査
- 七 養蠶業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
- 八 前各號ニ掲グルモノノ外養蠶業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第十七條 養蠶業組合ノ地區ハ郡市ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ其ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

前項ノ區域ニ増減アリタルトキハ其ノ區域ヲ地區トスル養蠶業組合ノ地區モ亦之ニ應ジテ増減アリタルモノトス

第十八條 養蠶業組合ハ其ノ地區内ニ於ケル左ニ掲グル者

ヲ以テ其ノ組合員トス

一 養蠶實行組合

二 養蠶實行組合ノ組合員ニ非ザル養蠶者ニシテ命令ヲ以テ規定スルモノ

第十九條 養蠶實行組合ハ一定ノ地區内ノ養蠶者ヲ以テ之ヲ組織シ養蠶業ニ關シ組合員ノ共同ノ利益増進ヲ圖ルヲ以テ目的トス

養蠶實行組合ハ法人トス

養蠶實行組合ノ地區ハ部落其ノ他之ニ準ズル區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

第二十條 養蠶實行組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 組合員ノ養蠶業ニ必要ナル物ノ共同購入、共同設備ノ設置其ノ他組合員ノ養蠶業ニ關スル共同施設
- 二 組合員ノ生産シタル繭ノ處理ニ關スル施設
- 三 組合員ノ養蠶業ノ統制ニ關スル施設
- 四 組合員ノ養蠶業ニ關スル共済及備荒施設
- 五 組合員ノ養蠶業ニ關スル指導、研究及調査
- 六 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

第二十一條 養蠶實行組合ハ其ノ名稱中ニ養蠶實行組合ナル文字ヲ用フベシ

養蠶實行組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲グル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第二十二條 養蠶實行組合ヲ設立セントスルトキハ其ノ地區内ノ養蠶者七人以上設立者ト爲リ規約ヲ作成シ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

規約ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ設立者之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 地區
- 四 事務所ノ所在地
- 五 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 六 事業及其ノ執行ニ關スル規定
- 七 役員ニ關スル規定
- 八 組合費其ノ他會計及資産ニ關スル規定
- 九 損失分擔ニ關スル規定
- 十 組合ガ公告ヲ爲ス方法
- 十一 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第二十三條 養蠶實行組合ハ設立ノ其ノ日ヨリ二週間以内

ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

一 前條第二項第一號乃至第四號及第十一號ニ掲グル事項

二 設立認可ノ年月日

三 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ二週間以内ニ其ノ登記ヲ爲スベシ

第二十四條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ其ノ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第二十五條 養蠶實行組合ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録税ヲ課セズ

第二十五條ノ二 組合員タル資格ヲ有スル者養蠶實行組合ニ加入セントスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入

ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ズ

第二十五條ノ三 養蠶實行組合ノ分合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條ノ四 養蠶實行組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 規約ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議

三 組合ノ合併

四 組合ノ分割

五 組合員ガ七人未滿ニ減ジタルトキ

六 組合ノ破産

七 行政官廳ノ處分

第二十六條 民法第三十八條、第四十四條第一項、第四十七條、第四十八條、第五十條、第五十一條、第五十二條

第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條乃至第六十六條、第六十九條、第七十條及第七十二條乃至第八十二條、非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條、第三十七條ノ二、第一百七十七條、第一百九十九條乃至第二百二條、第三百三十六條乃至第三百三十八條、第四百二十二條、第四百四十三條、第四百四十七條乃至第四百五十條ノ二、第五百一十一條乃至第五百五十一條ノ四、第五百五十一條ノ六乃至第五百五十七條及第七十五條乃至第七十七條並ニ産業

組合法第二十五條、第三十四條ノ二、第三十五條、第四十八條ノ二、第六十條第一項(清算ニ關スル規定ヲ除ク)、第六十條ノ二、第六十一條(清算ニ關スル規定ヲ除ク)及第六十五條(合併ニ關スル規定ヲ除ク)ノ規定ハ養蠶實行組合ニ之ヲ準用ス但シ民法第四十八條及第七十七條中一週間トアルハ之ヲ二週間トス

〔參照〕 民法

第三十八條 社團法人ノ定款ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限り之ヲ變更スルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
定款ノ變更ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其効力ヲ生セス

第四十四條 法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第四十七條 第四十五條第一項及ヒ前條ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第四十八條 法人カ主タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ三週間内ニ第四十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲シ其他ノ事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間内ニ第四十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十條 法人ノ住所ハ其主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第五十一條 法人ハ設立ノ時及ヒ毎年初ノ三ヶ月内ニ財

コトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主務官廳ニ

報告スルコト

四 前號ノ報告ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ總會ヲ召集スルコト

第六十條 社團法人ノ理事ハ少クとも毎年一回社員ノ通

常總會ヲ開クコトヲ要ス
第六十一條 社團法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ召集スルコトヲ得

總社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ召集スルコトヲ要ス但此定款ハ定款ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得
第六十二條 總會ノ召集ハ少クとも五日前ニ其會議ノ目的タル事項ヲ示シ定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條 社團法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其他ノ役員ニ委任シタルモノヲ除ク外總會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ

第六十四條 總會ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノミ決議ヲ爲スコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第六十五條 各社員ノ表決權ハ平等ナルモノトス
其他 蠶絲業組合法抄

産目錄ヲ作り常ニ之ヲ事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス但特ニ事業年度ヲ設クルモノハ設立ノ時及ヒ其年度ノ終ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス

社團法人ハ社員名簿ヲ備ヘ置キ社員ノ變更アル毎ニ之ヲ訂正スルコトヲ要ス

第五十二條第二項 理事數人アル場合ニ於テ定款又ハ寄附行爲ニ別段ノ定ナキトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第五十三條 理事ハ總會ヲ以テ法人ノ事務ニ付キ法人ヲ代表ス但定款ノ規定又ハ寄附行爲ノ趣旨ニ違反スルコトヲ得又又社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ニ從フコトヲ要ス
第五十四條 理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十五條 理事ハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサルトキニ限り特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

第五十九條 監事ノ職務左ノ如シ

- 一 法人ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト
- 二 理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト
- 三 財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ廉アル

總會ニ出席セサル社員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出スコトヲ得

前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第六十六條 社團法人ト或社員トノ關係ニ付キ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ其社員ハ表決權ヲ有セス

第六十七條 社團法人ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ承諾アルニ非サレハ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七十條 法人カ其債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ理事若クハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ理事ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第七十二條 解散シタル法人ノ財産ハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ指定シタル人ニ歸屬ス

定款又ハ寄附行爲ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セス又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定メサリシトキハ理事ハ主務官廳ノ許可ヲ得テ其法人ノ目的ニ類似セル目的ノ爲メニ其財産ヲ處分スルコトヲ得但社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リテ處分セラレサル財産ハ國庫ニ歸屬ス

第七十三條 解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ其清算ノ結了ニ至ルマテ尙ホ存續スルモノト看做ス

第七十四條 法人カ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外理事其清算人ト爲ル但定款若クハ寄附行爲ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

第七十五條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十六條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十七條 清算人ハ破産ノ場合ヲ除ク外解散後主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、其他ノ事務所ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ其氏名、住所及解散ノ原因、年日ノ登記ヲ爲シ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

務完済ノ後未タ歸屬權利者ニ引渡ササル財産ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 清算中ニ法人ノ財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲シテ其旨ヲ公告スルコトヲ要ス
清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終ハリタルモノトス
本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得

第八十二條 法人ノ解散及ヒ清算ハ裁判所ノ監督ニ屬ス
裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

非訟事件手續法
第三十五條第二項 法人ノ解散及ヒ清算ノ監督ハ其主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十六條 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條ノ二 第二百二十九條ノ三及ヒ第二百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ法人ノ清算人又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲スヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準

清算中ニ就職シタル清算人ハ就職後主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、其他ノ事務所ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ其氏名、住所ノ登記ヲ爲シ且ツ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第七十八條 清算人ノ職務左ノ如シ
一 現務ノ結了
二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
三 殘餘財産ノ引渡

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 清算人ハ其就職ノ日ヨリ二个月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ公告ニハ債權者カ期間内ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ハ清算ヨリ除外セラルヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但清算人ハ知レタル債權者ヲ除外スルコトヲ得ス

清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スルコトヲ要ス

第八十條 前條ノ期間後ニ申出テタル債權者ハ法人ノ債

用ス

第十七條 法人ノ登記ニ付テハ法人ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第十九條 各登記所ニ法人登記簿及ヒ夫婦財產契約登記簿ヲ備フ

第二十條 法人設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ定款、理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ主務官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス
第二十一條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、理事ノ缺ケタル場合ニ於テハ假理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ理事又ハ假理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ其許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル理事又ハ假理事カ同一登記所ニ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第二十二條 法人ノ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

其他 蠶絲業組合法抄

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及ヒ理事カ清算人
タラサル場合ニ於テハ清算人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添
附スルコトヲ要ス

第三百三十六條 合名會社及ヒ合資會社ノ清算ニ關スル事
件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

株式會社、株式合資會社及ヒ有限會社ノ清算ニ關スル
事件ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス銀行
又ハ無盡業若クハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算ノ監督
亦同シ

第三百三十七條 清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ
不服ヲ申立ツルコトヲ得ス裁判所カ銀行又ハ無盡業若
ハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算ノ監督ニ付キ爲シタル
命令ニ對シ亦同シ

第三百三十八條 左ニ掲ケタル者ハ清算人トシテ之ヲ選任
スルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治產者及ヒ準禁治產者
- 三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
- 四 裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人
- 五 破產者

第四百十二條 登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閱覽ヲ許シ又
ハ手數料ヲ納付スルトキハ之ニ其謄本若クハ抄本ヲ交

署名、捺印スヘシ

- 一 申請人ノ氏名、住所、會社カ申請人ナルトキハ其
商號及ヒ本店又ハ支店
- 二 代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名、住所
- 三 登記ノ目的及ヒ事由
- 四 年月日
- 五 登記所ノ表示

第五百十條 本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲ爲スヘ
キ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル
者アルトキハ其他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得
連署ヲ爲スコト能ハサル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要
ス

第五百十條ノ二 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請
スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ
添附スルコトヲ要ス

第五百十一條 登記所ハ登記ノ申請カ商法、有限會社法
又ハ本章ノ規定ニ適セサルトキハ理由ヲ附シタル決定
ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲
スコトヲ得

前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ
送達スルコトヲ要ス

第五百十一條ノ二 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記カ

其他 蠶絲業組合法抄

付スヘシ

登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ疏明シテ申請ヲ爲シタル
者ニハ其關係アル部分ニ限り登記簿ノ附屬書類ノ閱覽
ヲ許スヘシ

郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ請フトキハ
登記所ハ之ヲ送付スヘシ

第四百十三條 登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキ
コト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ

第四百十七條 登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅
ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申
請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十八條 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤
又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其
更正ヲ申請スルコトヲ得

第四百十八條ノ二 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記カ
商法、有限會社法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラ
サルモノナルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其
抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百十九條 登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ
要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其代理人之ニ

商法、有限會社法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラ
サルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記ヲ爲シタル
者ニ對シ一個月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議
ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘシ
登記ヲ爲シタル者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前
項ノ通知ニ代ヘ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公
告スヘシ

登記所ハ右ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲
載セシムルコトヲ得

第五百十一條ノ三 異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ
理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ
前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ
執行停止ノ效力ヲ有ス

第五百十一條ノ四 異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下
スル裁判カ確定シタルトキハ登記所ハ職權ヲ以テ登記
ヲ抹消スヘシ

第五百十一條ノ六 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記ニ
錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク登
記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ但其錯誤又ハ遺漏
カ登記所ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス
前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ遲滞ナク地方裁判所

長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ

第五十四條 商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第五十五條 司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一ノ登記所ニ委任スルコトヲ得

第五十六條 登記簿ノ調製其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第五十七條 不動産登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十條、第二十二條、第二十四條及ヒ第五十九條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス

第七十五條 清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄トス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第七十六條 清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其選任並ニ商法第二百二十三條第一項第二號及ヒ第三號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十七條 商法第二百二十三條第一項ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ

シ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ養蠶業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル設立ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ

- 一 收支豫算
- 二 經費ノ分賦收入方法
- 三 命令ヲ以テ規定スル統制ニ關スル施設
- 四 事業報告及收支決算
- 五 借入金
- 六 基本財産ノ造成、管理及處分
- 七 定款ノ變更
- 八 役員ノ選任及解任
- 九 第六十五條ノ議員ノ選任及解任
- 十 第六十三條第一項ノ同意

前項第一號乃至第三號、第五號、第七號及第八號ニ掲グル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十四條 總會ハ組合長之ヲ招集ス

議員ハ總議員ノ三分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總會ノ招

要ス

第二十七條 養蠶業組合ヲ設立セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區内ノ第十八條第一號及第二號ニ掲グル者ノ各ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ役員ヲ選任シ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決シ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ但シ其ノ地區内ノ養蠶者ノ過半數ガ養蠶實行組合ノ組合員タル場合ニ於テハ設立ノ同意ハ養蠶實行組合ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ足ル

前項ノ創立總會ノ決議ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 養蠶業組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第二十九條 養蠶業組合成立シタルトキハ其ノ地區内ノ組合員タル資格ヲ有スルモノハ總會ヲ其ノ組合員トス

第三十條 養蠶業組合ノ地區内ニ於テ養蠶業ニ關スル事業ヲ行フ法人ニシテ命令ヲ以テ規定スルモノハ行政官廳ノ認可ヲ受ケテ養蠶業組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ養蠶業組合ノ組合員ト爲リタルモノハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ組合ヲ脱退スルコトヲ得ズ

第三十一條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ區域ヲ指定

集ヲ請求スルコトヲ得

組合長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間以内ニ總會ヲ招集セザルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第三十二條 第三十三條第一項第三號、第七號及第八號ニ掲グル事項ハ總會ニ於テ議員ノ半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

第三十五條 總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十六條 第三十三條第一項第三號、第七號及第八號ニ掲グル事項ハ總會ニ於テ議員ノ半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

第三十七條 總會ノ議決ヲ經ベキ事項ニシテ輕微ナルモノニ付テハ定款ノ定ムル所ニ依リ書面ヲ以テ議員ノ意見ヲ徵シ總會ノ議決ニ代フルコトヲ得

第三十八條 養蠶業組合ニ組合長一人ヲ置ク

養蠶業組合ハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ

其他 蠶絲業組合法抄

役員ヲ置クコトヲ得

前二項ノ役員ハ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨グズ

第三十九條 組合長ハ養蠶業組合ヲ代表シ組合ノ事務ヲ總理ス

第四十條 總會ノ議決ヲ經ベキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルモノハ組合長定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ專決處分スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ組合長ハ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムベシ

第三節 蠶種業組合

第四十四條ノ二 蠶種業組合ニ總會ヲ置ク

總會ハ總組合員ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十四條ノ三 蠶種業組合ハ命令及定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ選舉シタル總代ヲ以テ組織スル總代會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得
總會ニ關スル規定ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外總代會ニ之ヲ準用ス

第四節 産業組合製絲組合及製絲業組合

第四十六條 産業組合製絲組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 原料繭及其ノ受入方法ノ統一ニ關スル施設
- 二 生絲ニ關スル規格ノ統一ニ關スル施設
- 三 産業組合製絲ノ指導獎勵ニ關スル施設
- 四 生絲ノ検査ニ關スル施設
- 五 産業組合製絲ニ關スル研究及調査
- 六 産業組合製絲ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
- 七 前各號ニ掲グルモノノ外産業組合製絲ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第四十七條 製絲業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 生絲ニ關スル規格ノ統一ニ關スル施設
- 二 製絲業ノ指導獎勵ニ關スル施設
- 三 生絲ノ検査ニ關スル施設
- 四 製絲業ニ從事スル者ノ福利増進ニ關スル施設
- 五 製絲業ニ關スル研究及調査
- 六 製絲業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
- 七 前各項ニ掲グルモノノ外製絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第四十八條 産業組合製絲組合及製絲業組合ノ地區ハ道府縣ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

第十七條第二項ノ規定ハ前項ノ區域ニ増減アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條 産業組合製絲組合ハ其ノ地區内ニ於テ製絲ヲ爲シ又ハ製絲工場ヲ有スル産業組合及産業組合聯合會ヲ以テ其ノ組合員トス

第五十條 製絲業組合ハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除クノ外其ノ地區内ニ於テ生絲ノ製造ヲ業トスル者ヲ以テ其ノ組合員トス

第五十一條 第二十七條乃至第二十九條、第三十一條、第三十三條乃至第四十條及第四十四條ノ二ノ規定ハ産業組合製絲組合及製絲業組合ニ之ヲ準用ス
第三十條及第四十四條ノ三ノ規定ハ製絲業組合ニ之ヲ準用ス

第二章 蠶絲業組合聯合會

第五十七條 蠶絲業組合聯合會ハ左ノ七種トス

- 一 道府縣養蠶業組合聯合會
- 二 全國養蠶業組合聯合會
- 三 全國蠶種業組合聯合會
- 四 全國産業組合製絲組合聯合會
- 五 全國製絲業組合聯合會
- 六 全國生絲問屋業組合聯合會

其他 蠶絲業組合法抄

七 全國生絲輸出業組合聯合會

第五十八條 蠶絲業組合聯合會ハ蠶絲業組合又ハ道府縣養蠶業組合聯合會ノ聯絡ヲ圖リ其ノ共同ノ目的ヲ達成スルテ以テ目的トス

第五十九條 蠶絲業組合聯合會ハ法人トス

第三章 日本中央蠶絲會

第六十九條 日本中央蠶絲會ハ蠶絲業組合聯合會及蠶絲業組合ノ聯絡並ニ蠶絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第七十條 日本中央蠶絲會ハ法人トス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之定ム

(昭和六年七月勅令第七十四號ヲ以テ同年七月十五日ヨリ施行)

重要物産同業組合法ニ依リ道府縣ヲ地區トシ設置シタル蠶絲業者ノ同業組合ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ之ヲ本法ニ依ル蠶絲業組合ト看做ス

日本中央蠶絲會成立シタルトキハ其成立ノ日ヨリ一年以内ニ蠶絲業同業組合中央會ハ解散ヲ爲スコトヲ要ス

附 則 (昭和十一年法律第十號)

其他 米穀自治管理法抄

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和十一年十一月勅令第三百八十九號ヲ以テ同年十一月十日ヨリ施行)

本法施行ノ際現ニ存スル養蠶實行組合ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス但シ第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル迄ハ仍從前ノ規定ニ依ル

前項ノ組合ハ本法施行ノ日ヨリ二年以内ニ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケベシ

第二項ノ組合ハ前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ二週間以内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ其ノ認可ノ年月日、監事ノ氏名及住所並ニ第二十二條第二項第三號及第十一號ニ掲グル事項ノ登記ヲ爲スベシ

第二項ノ組合ニシテ第三項ノ期間内ニ同項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケザルモノハ其ノ期間滿了ノ日ニ於テ解散ス

本法施行ノ際現ニ存スル養蠶業組合ハ本法施行ノ日ヨリ二年ヲ限り其ノ構成者、總會及役員ニ關シ第十八條、第三十二條第二項第三項、第三十四條第二項第四項、第三十六條、第三十七條及第三十八條第三項ノ改正規定ニ依ラズ仍從前ノ規定ニ依ル但シ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ組合同項但書ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルトキハ其

ノ地區内ニ於ケル第十八條第二號ニ掲グル者ハ當然其ノ組合員ト爲ル
第六項ノ組合ニシテ同項ノ期間内ニ同項但書ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケザルモノハ其ノ期間滿了ノ日ニ於テ解散ス

五二 米穀自治管理法抄

昭和十一年五月二十八日法律第二十二號
改正昭和十六年三月法律第三十五號

第一條 本法ハ内地、朝鮮及臺灣ヲ通ズル過剩米穀ヲ統制スル爲内地、朝鮮及臺灣ニ於テ米穀ノ自治管理ヲ行ハシムルコトヲ目的トス

第二條 米穀生産者、土地ニ付權利ヲ有スル者ニシテ米穀ヲ小作料トシテ受ケタルモノ(略)ハ米穀統制組合ヲ設立スルコトヲ得

第三條 米穀統制組合ハ法人トシ第一條ノ自治管理ヲ行フヲ以テ目的トス

第四條 米穀統制組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ニ限り之ヲ行フモノトス

一 第四十三條(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ組合ニ於テ統制スベキ米穀ノ數量ヲ組合員ニ對シ割當ツルコト

第二十九條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ團體員ニ非ズシテ其ノ區域内ニ於テ米穀統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ團體員ニ準ジ第四條第一項ニ掲グル事業ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第四條第一項ニ掲グル事業ヲ行フ團體ハ前項ニ規定スル者ヨリ團體員ノ例ニ準ジ使用料及手数料ヲ徴收スルコトヲ得

第三十條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ガ第四十三條ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲ス場合ニ於テハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

米穀統制組合ノ事業ヲ行フ場合ニ於ケル前項ノ團體ノ監督及總會又ハ總代會ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第三十一條 米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ團體相互ノ聯絡ヲ圖リ米穀ノ自治管理ヲ行フ目的ヲ以テ地方米穀統制組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第三十二條 地方米穀統制組合聯合會ハ法人トス

第三十三條 地方米穀統制組合聯合會ノ地區ハ内地ニ在リテハ道府縣(略)ノ區域ニ依ル

其他 米穀自治管理法抄

二 組合ニ於テ統制スベキ米穀ヲ貯藏スルコト

三 前號ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニ付組合員ニ資金ノ融通又ハ其ノ斡旋ヲ爲スコト

四 第四十九條、第五十條(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)又ハ第五十七條ノ規定ニ依リ米穀ノ賣渡ヲ爲スコト

五 貯藏米穀ノ倉庫證券ヲ發行スルコト

六 第二號ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニシテ貯藏ヲ解除シタルモノノ委託ヲ受ケ販賣又ハ保管シ其ノ他米穀ノ自治管理ニ附帶シ必要ナル行爲ヲ爲スコト

前項第五號ノ倉庫證券及其ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 米穀統制組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區内ノ第二條ニ掲グル者ヲ以テ其ノ組合員トス

第二十八條 米穀ヲ取扱フ販賣組合(以下米穀販賣組合ト稱ス)ノ存スル市町村ニ於テ特別ノ事情アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀統制組合ノ事業ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ米穀販賣組合ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ米穀販賣組合ナキ市町村ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ農會ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ米穀統制組合ノ事業ヲ行フコトヲ得

第三十七條 第四條第一項(略)ノ規定ハ地方米穀統制組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第三十八條 勅令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ道府縣ヲ區域トスル米穀ヲ取扱フ販賣組合聯合會(以下道府縣米穀販賣組合會ト稱ス)ハ地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フコトヲ得

第三十九條 地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會ハ其ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合及所屬組合ニ非ズシテ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ所屬組合ニ準ジ第三十七條ニ於テ準用スル第四條第一項ニ掲グル事業ヲ行フコトヲ得

第四十條 地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會第四十三條ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲ス場合ニ於テハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第三十條第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第四十一條 政府ハ每年内地、朝鮮及臺灣ヲ通ジ米穀需給推算ヲ行ヒ米穀ノ供給過剩ナリト認ムルトキハ其ノ過剩

數量ノ範圍内ニ於テ定ムル一定數量ノ米穀ヲ内地、朝鮮及臺灣ニ於テ統制セシムルコトヲ得

前項ノ米穀需給推算ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム第一項ノ一定數量ノ内地、朝鮮及臺灣ニ對スル割當ノ割合ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ内地、朝鮮及臺灣ノ米穀管外移出數量ノ増加趨勢ノ外ニ米穀管外移出數量、米穀收穫ノ豊凶等ヲモ參酌シテ之ヲ定ム

第四十三條 政府ハ第四十一條ノ規定ニ依リ内地、朝鮮及臺灣ニ付定マリタル數量ヲ各内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル地方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會ニ對シ割當テ其ノ米穀ニ付統制ヲ命ジ、地方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會ハ其ノ割當テラレタル數量ヲ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ割當ツルコトヲ要ス

米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ其ノ割當テラレタル數量ヲ團體員及第二十九條ニ規定スル者ニ對シ割當ツルコトヲ要ス

第四十四條 地方米穀統制組合聯合會若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體前條ノ規定ニ依ル割當ヲ爲サザル場合ニ於テハ政府ハ之ニ代リ割

當ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 前二條ノ割當ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ其ノ割當テラレタル數量ノ米穀ヲ貯藏スルコトヲ要ス但シ其ノ貯藏ヲ解除シタルモノ及第四十九條又ハ第五十條ノ規定ニ依リ政府ノ買入ヲ爲シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十七條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ團體員ハ第四十三條又ハ第四十四條ノ規定ニ依リ割當テラレタル數量ノ米穀ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ寄託スルコトヲ要ス第二十九條及第三十條ニ規定スル者ニ付亦同ジ

第四十八條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ第二項ノ場合及勅令ノ定ムル場合ヲ除クノ外第四十六條ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニ付其ノ貯藏ノ解除ヲ爲スコトヲ得ズ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第四十六條ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニ付其ノ貯藏ノ解除ヲ命ズルコトヲ得

第四十九條 政府ハ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體

ガ貯藏スベキ米穀中貯藏能力其ノ他ノ事情ニ依リ貯藏困難ナリト認ムルモノニ付當該團體ヨリ賣渡ノ申込アリタル場合ニ於テハ買入ヲ爲ス

前項ノ買入價格ハ内地ニ在リテハ米穀統制法第二條ノ最低價格(略)トス

第五十條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ガ第四十六條ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニシテ當該米穀年度ヲ越ユルモノ其ノ貯藏ヲ解除セラレザルモノニ付買入ヲ爲ス

前項ノ買入價格ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十五條 勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ハ第四十一條ノ統制ヲ爲スモ米穀ノ供給過剩ニシテ米價ガ米穀統制法ニ基キテ發スル命令ニ定ムル標準最低價格ヲ下ラントスル虞アリト認ムルトキハ一定數量ノ米穀ヲ内地、朝鮮及臺灣ニ於テ統制セシムルコトヲ得

第五十六條 前條ノ場合ニ於テハ政府ハ各内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル地方米穀統制組合聯合會若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ前條ノ一定數量ヲ割當テ其ノ米穀ニ付統制ヲ命ズ

第四十三條乃至第四十八條及第五十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ統制ヲ命ゼラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 政府ハ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)ガ前條ノ規定ニ依リ貯藏スベキ米穀中貯藏能力其ノ他ノ事情ニ依リ貯藏困難ナリト認ムルモノニ付當該團體ヨリ賣渡ノ申込アリタル場合ニ於テハ買入ヲ爲ス
前項ノ買入價格ハ内地米ニ在リテハ米穀統制法第二條ノ最低價格(略)トス

第五十九條 地方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ役員命令ノ定ムル第四十三條ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ爲サザルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス
米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)ノ役員命令ノ定ムル第四十三條ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ爲サザルトキ亦同ジ

第六十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第六十一條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)第四十六條ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ違反シタルトキハ其ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ組合又ハ團體第四十八條第一項ノ規定(第五十六

條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ違反シタルトキ亦前項ニ同ジ

第六十二條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體、地方米穀統制組合聯合會若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)ノ役員(略)總代(略)組合員(略)本法ニ依ル割當又ハ貯藏ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第六十三條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六十四條 第四十九條、第五十條(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)及第五十七條ノ規定ニ依ル米穀ノ買入ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ米穀需給調節特別會計ニ屬セシム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和十一年九月勅令第三百二十四號ヲ以テ同年九月二十日ヨリ施行)

第四十一條 第一項ニ規定スル一定數量ノ内地、朝鮮及臺灣ニ對スル割當ノ割合ハ當分ノ内同條第三項ノ規定ニ拘ラズ内地百分ノ三十五、朝鮮百分ノ四十三、臺灣百分ノ二十二トス但シ政府ハ内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル米穀收穫ノ豊凶等ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ妨ゲズ

附 則 (昭和十六年法律第三十五號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

五三 米穀自治管理法施行令抄

昭和十一年九月十六日勅令第三百二十五號

第一條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)米穀自治管理法第四條第一項第五號ノ倉庫證券(自治管理倉庫證券)ヲ發行セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第二條 前條ノ認可ヲ受ケタル米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)ハ寄託者ノ請求ニ依リ寄託物ノ自治管理倉庫證券ヲ交付スルコトヲ要ス
商法第三百八十三條ノ二第二項及第三百八十三條ノ三ノ

其他 米穀自治管理法施行令抄

規定ハ自治管理倉庫證券ニ之ヲ準用ス

(參照) 商 法

第六百二十七條 第二項 倉荷證券ニハ預證券ニ關スル規定ヲ準用ス

第六百二十八條 倉荷證券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ質權者ノ承諾アルトキハ寄託者ハ債權ノ辨濟期前ト雖モ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ倉庫營業者ハ返還シタル寄託物ノ種類、品質及ヒ數量ヲ倉荷證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

(備 考) 現行商法ニ依ル以下同ジ

第三條 自治管理倉庫證券ニハ左ノ事項及番號ヲ記載シ發行行之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

- 一 自治管理倉庫證券ナル文字
- 二 寄託ヲ受ケル米穀ノ種類、銘柄、等級、數量、並ニ其ノ荷造ノ種類、個數及記號
- 三 寄託者ノ氏名又ハ名稱
- 四 保管ノ場所
- 五 第二十一條ノ規定ニ依リ受寄物ヲ再保管セシメタルトキハ再保管者ノ氏名又ハ名稱
- 六 保管料ヲ徵收スルトキハ其ノ保管料

其他 米穀自治管理法施行令抄

七 受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ其ノ保險金額、保險期間及保險者ノ商號

八 證券ノ作成地及作成ノ年月日

第四條 自治管理倉庫證券ハ記名式ナルコトヲ要ス

自治管理倉庫證券ノ所持人ハ證券ノ發行者ノ承諾アルニ非ザレバ之ヲ讓渡又ハ質入スルコトヲ得ズ

前項ノ承諾ヲ爲シタル發行者ハ證券ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第五條 商法第三百七十五條第一項、第三百七十六條及第三百八十一條乃至第三百八十三條ノ規定ハ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)ガ自治管理倉庫證券ヲ發行シタル場合ニ之ヲ準用ス

(參照) 商 法

第六百十六條 寄託者又ハ預證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢若クハ其見本ノ摘出ヲ求メ又ハ其保存ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第六百十七條 倉庫營業者ハ自己又ハ其使用人カ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其滅失又ハ毀損ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

庫營業者ハ之ヲ預證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第六百十二條 競賣代金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ全部ヲ辨済スルコト能ハサリシトキハ倉庫營業者ハ其支拂ヒタル金額ヲ質入證券ニ記載シテ其證券ヲ返還シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六百二十五條 第五百八十八條ノ規定ハ倉庫營業者ニ之ヲ準用ス
第五百八十八條 運送人ノ責任ハ荷受人カ留保ヲ爲サスシテ運送品ヲ受取り且運送貨其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但運送品ニ直チニ發見スルコト能ハサル毀損又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ荷受人カ引渡ノ日ヨリ二週間内ニ運送人ニ對シテ其通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第六百二十六條 寄託物ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル倉庫營業者ノ責任ハ出庫ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
前項ノ期間ハ寄託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ倉庫營業者カ預證券ノ所持人、若シ其所持人カ知レサルトキ

其他 米穀自治管理法施行令抄

第六百二十四條 第五百二十四條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス
此場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ競賣代金ノ上ニ存在ス

第六百一十一條及ヒ第六百一十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百二十四條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
損敗シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ之ヲ競賣スルコトヲ得

第六百一十一條 倉庫營業者ハ競賣代金ノ中ヨリ競賣ニ關スル費用、受寄物ニ課スヘキ租稅、保管料其他保管ニ關スル費用及ヒ立替金ヲ控除シタル後其殘額ヲ質入證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス
競賣代金ノ中ヨリ前項ニ掲ケタル費用、租稅、保管料、立替金及ヒ質入證券所持人ノ債權額、利息、拒絶證書作成ノ費用ヲ控除シタル後餘剩アルトキハ倉

ハ寄託者ニ對シテ其滅失ノ通知ヲ發シタル日ヨリ之ヲ起算ス
前二項ノ規定ハ倉庫營業者ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第六條 自治管理倉庫證券ノ所持人ハ其ノ米穀ニ付米穀自治管理法第四十八條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル貯藏ノ解除アリタルトキハ證券ノ發行者ニ對シ其ノ證券ニ貯藏ノ解除アリタル旨ノ記載ヲ請求スルコトヲ得

自治管理倉庫證券ノ所持人證券ニ前項ノ記載ヲ受ケタルトキハ第四條第二項ノ承諾ヲ得ズシテ之ヲ讓渡又ハ質入スルコトヲ得

第七條 地方長官ハ米穀販賣組合ニシテ其ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ二分ノ一以上ヲ其ノ組合員トスルモノニ限り米穀自治管理法第二十八條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ爲スコトヲ得
前項ノ許可ハ地方ノ事情及其ノ組合ノ狀況等ヲ參酌シテ之ヲ爲スベシ

第八條 前條ノ許可ヲ受ケタル團體ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ米穀統制組合ノ事業ヲ休止又ハ廢止スルコトヲ得ズ

第九條 地方長官ハ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ其ノ事業ニ關スル決議若ハ役員ノ行爲又ハ第十三條ノ規定(第三十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル總代ノ選舉ガ法令、定款(略)ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議又ハ總代ノ選舉若ハ當選ヲ取消シ、改選ヲ命ジ又ハ其ノ事業ヲ停止スルコトヲ得

地方長官公益上必要アリト認ムルトキハ第七條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ其ノ事業ニ關スル左ニ掲グル事項ハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經ベシ

- 一 收支豫算
 - 二 經費ノ分賦收入方法
 - 三 事業報告及收支決算
 - 四 借入金(一時借入金ヲ除ク)
- 前項第一號、第二號及第四號ニ掲グル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
- 第一項各號ニ掲グル事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ總會若ハ總代會成立セザルトキ又ハ之ヲ召集スルノ暇ナキトキハ定款(略)ノ定ムル所ニ依リ理事(略)之ヲ專決處分スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ專決處分ヲ爲シタルトキハ理事(略)

ハ次ノ總會又ハ總代會ニ之ヲ報告スベシ

第十一條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ其ノ事業ニ關スル收入支出ハ他ノ事業ニ關スル會計ト区分シ之ヲ經理スベシ

第十二條 米穀自治管理法第三十條第一項ノ總會ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 團體員ニシテ米穀統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者
- 二 米穀自治管理法第二十九條ニ規定スル者
- 三 地方長官ニ於テ任命シタル特別議員

第十五條 地方長官ハ道府縣米穀販賣組合聯合會ニシテ其ノ所屬組合中米穀統制組合ノ事業ヲ行フ組合ガ其ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ノ二分ノ一以上ニ達スルモノニ限り米穀自治管理法第三十八條ノ規定ニ依ル許可ヲ爲スコトヲ得

特別ノ事情アルトキハ地方長官ハ前項ノ規定ニ拘ラズ農林大臣ノ認可ヲ得テ米穀自治管理法第三十八條ノ規定ニ依ル許可ヲ爲スコトヲ得

第七條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 第八條及第九條ノ規定ハ地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ團體ニ之ヲ準用ス

第十七條 米穀自治管理法第四十條第一項ノ總會ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 所屬組合ニシテ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ米穀販賣組合ノ代表者
- 二 其ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合及所屬組合ニ非ズシテ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ代表者
- 三 農林大臣ニ於テ任命シタル特別議員

第十八條 米穀自治管理法第四十條第一項ノ總會ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 所屬組合ニシテ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ米穀販賣組合ノ代表者ヨリ選出シタル總代
- 二 其ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合及所屬組合ニ非ズシテ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ代表者ヨリ選出シタル總代
- 三 農林大臣ニ於テ任命シタル特別議員

第十九條 米穀自治管理法第四十一條第一項ノ米穀需給推算ハ每年内地、朝鮮及臺灣ヲ通ジ米穀豫想收穫高(臺灣ノ第一期作ニ付テハ推定高)、十一月一日ノ米穀現在高、過去ノ消費狀況ヲ參酌シタル米穀消費見込高及次ノ米穀年度ニ持越サルルヲ適當ト認ムル米穀ノ數量ヲ基準トシテ之ヲ行フ

第二十一條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)ハ米穀自治管理法第四十七條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ寄託ヲ受ケ貯藏スベキ米穀ヲ其ノ責任ヲ以テ再保管セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ再保管ヲ爲スコトヲ得ル者ハ命令ヲ以テ定ムル者ニ限ル

再保管ノ目的タル米穀ニ付發行セラレタル倉庫證券アル場合ニ於テハ當該倉庫證券ヲ發行シタル者ニ之ヲ返還シタル後ニ非ザレバ自治管理倉庫證券ノ發行ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十二條 米穀自治管理法第四十七條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ寄託ヲ受ケ貯藏スベキ米穀ハ他ノ米穀ト区分シ之ヲ保管スベシ

第二十三條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限り米穀自治管理法第四十六條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ貯藏シタル米穀ニ付第一號乃至第三號ノ場合ニ在リテハ農林大臣、(略)第四號ノ場合ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受ケ其ノ貯藏ノ解除ヲ爲スコトヲ得

- 一 米穀統制法施行令第十二條但書ノ平均價格ガ同令第

其他 米穀自治管理法施行規則抄

二條ノ標準最低價格ノ上値一割ニ相當スル價格以上ニ在ルトキ

- 二 貯藏ヲ開始シタル米穀年度ヲ越エタルトキ
- 三 災害、事變其ノ他避クベカラザル事由アル場合ニ於テ特ニ必要アルトキ

四 損傷シタル米穀ニシテ處分ヲ要スルモノアルトキ

第二十四條 農林大臣(略)前條第一號又ハ第二號ニ該當スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ米穀自治管理法第四十六條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)ニ於テ貯藏シタル米穀ノ貯藏ノ解除ヲ命ズルコトヲ得

第二十六條 米穀自治管理法第五十條第一項(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ買入價格ハ同法第四十九條第二項(同法第五十條第一項適用ノ場合)又ハ第五十七條第二項(同法第五十條第一項適用ノ場合)ノ買入價格ヨリ古米格ニ付爲シタル補償額ヲ控除シタル額トス但シ古米格ニ付補償ヲ爲サザル場合ニ於テハ米穀自治管理法第四十九條第二項又ハ第五十七條第二項ノ買入價格ヲ以テ其ノ買入價格トス

第二十八條 米穀自治管理法第五十五條ノ規定ニ依リ内

地、朝鮮及臺灣ニ於テ米穀ノ統制ヲ命ズルコトヲ得ルハ米穀統制法施行令第十二條第一項但書ノ平均價格ガ同令第二條ノ標準最低價格ヲ下ラントスル虞アリト認ムルトキニ限ル

前項ノ場合ニ於ケル内地、朝鮮及臺灣ニ對スル割當ノ割合ハ米穀自治管理法附則第二項ノ規定ニ依リ定マリタル割合、米穀生産高、米穀管外移出高、米穀消費見込高其ノ他ノ米穀事情ヲ參酌シ米穀自治管理委員會ニ諮問シテ之ヲ定ム

第三十四條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ團體員(米穀自治管理法第二十九條ニ規定スル者ヲ含ム(略))ニシテ米穀自治管理法第四十三條第二項ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ割當ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ(略)其ノ團體ノ代表者ハ評議員又ハ定款ノ定ムル機關ノ意見ヲ徵シ遲滞ナク決定ヲ爲(略)スベシ

前項ノ決定アリタルトキハ其ノ團體ノ代表者ハ直ニ異議申立人ニ之ヲ通知スベシ

第三十五條 (略)前條ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタル者其ノ

決定ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ訴願セントスルトキハ其ノ決定ヲ爲シタル米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)ヲ經由スベシ

第三十六條 異議ノ申立又ハ訴願(略)ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書(略)ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ但シ第三十四條第一項ノ規定ニ依リ異議ノ申立ハ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ七日以内ニ之ヲ爲スベシ

異議ノ申立ニ關シテハ訴願法第五條、第八條第三項、第九條、第十條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス(略)

附則

本令ハ米穀自治管理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(昭和十一年九月二十日ヨリ施行)

五 米穀自治管理法施行規則抄

昭和十一年九月十六日農林省令第二十五號

第一條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ貯藏米穀保管ニ關スル規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クベシ之ヲ

其他 米穀自治管理法施行規則抄

變更セントスルトキ亦同ジ

前項ノ規定ニハ左ノ事項ヲ規定スベシ

- 一 保管料ニ關スル事項
- 二 保管期間ニ關スル事項
- 三 入庫及出庫ニ關スル事項
- 四 證券ヲ發行スル場合ニ在リテハ證券發行ニ關スル事項
- 五 保險ニ關スル事項

第二條 自治管理倉庫證券發行ノ認可申請書ニハ定款(略)及前條ノ保管ニ關スル規程ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

- 一 申請ノ理由
- 二 倉庫ノ所在地
- 三 倉庫ノ棟敷、建坪、構造及收容力
- 四 倉庫及敷地ノ使用ノ權利ニ關スル事項
- 五 附屬ノ設備ニ關スル事項

前項第二號及第三號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第四條 米穀統制組合ハ左ニ掲グル者ヲ以テ其ノ組合員トス但シ地方長官地方ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受ケテ區域ヲ定メ第一號乃至第五號

- ノ組合員タル資格ヲ變更スルコトヲ得
- 一 其ノ地區内ニ於テ水稻田五段歩以上ヲ自作スル者
 - 二 其ノ地區内ニ於テ水稻田一町歩以上ヲ小作スル者
 - 三 其ノ地區内ニ於ケル水稻田一町歩以上ニ付權利ヲ有シ米穀ヲ小作料トシテ受クル者
 - 四 其ノ地區内ニ於テ水稻田ヲ自作及小作スル者ニシテ其ノ自作スル面積ノ二倍ニ相當スル面積ト其ノ小作スル面積トノ合計ガ一町歩以上ニ達スルモノ
 - 五 其ノ地區内ニ於テ水稻田ヲ自作若ハ小作及ハ水稻田ヲ自作及小作スル者ニシテ其ノ地區内ニ於ケル水稻田ニ付權利ヲ有シ米穀ヲ小作料トシテ受クルモノノ中其ノ水稻田ノ面積ノ合計ガ一町歩以上ニ達スルモノ但シ自作スル面積ニ付テハ其ノ二倍ニ相當スル面積ヲ以テ計算ス
 - 六 前各號ニ掲グル者ニ準ズルモノトシテ農林大臣ノ認可ヲ受ケテ地方長官ノ指定シタルモノ
- 地方長官前項但書ノ規定ニ依ル變更ヲ爲シタルトキ又ハ前項第六號ノ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スベシ
- 第十八條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ米穀統制組合ノ總代タルコトヲ得ズ
- 一 禁治産者又ハ準禁治産者

- 二 破産者ニシテ復權ヲ得ザル者
 - 三 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 四 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者
- 第十九條** 總代ノ選舉ニ關スル事務ハ組合長之ヲ管理ス
- 選舉ハ單記無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ
- 投票ハ一人一票ニ限ル
- 第二十條** 總代ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ選出スベキ總代ノ定數ヲ以テ其ノ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ六分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス
- 前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同ジキトキハ組合長又ハ其ノ指名シタル者抽籤シテ當選者ヲ定ムベシ
- 第二十一條** 前二條ニ規定スルモノヲ除クノ外總代ノ選舉ニ關シ必要ナル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ
- 第二十二條** 總代ノ選舉法令又ハ定款ニ違反シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生ズルノ虞アル場合ニ於テハ選舉人ハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ當選決定ノ日ヨリ三十日以内ニ選舉又ハ當選ノ取消ヲ地方長官ニ申立ツルコトヲ得

選舉人前項ノ申立ヲ爲ストキハ米穀統制組合ヲ經由シテ申立書ヲ地方長官ニ差出スベシ此ノ場合ニ於テハ米穀統制組合ハ意見ヲ附シ七日以内ニ地方長官ニ之ヲ進達スベシ

總代ハ選舉又ハ當選ノ取消アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハズ

前三項ノ規定ニ依リ總代會ヲ招集スルコト能ハザルトキハ地方長官ハ總代ヲ指定シテ總代會ヲ招集セシムルコトヲ得

第二十六條 總代會ヲ招集スルニハ少クとも七日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ總代會ヲ組織スル者ニ通知スベシ

前項ノ期間ハ定款ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二十三條 選舉ノ取消アリタルトキハ米穀統制組合ハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フベシ

當選ノ取消アリタルトキハ組合長ハ直ニ第二十條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムベシ

第二十七條 總代會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノ議決ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條 總代ノ任期ハ定款ノ定ムル所ニ依リ事業年度ニ從ヒ四年以内トス但シ補闕ノ總代ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トシ新ニ設ケタル總代ノ任期ハ他ノ總代ノ殘任期間トス

第二十八條 總代會ノ議長ハ組合長、組合長事故アルトキハ副組合長ヲ以テ之ニ充ツ組合長及副組合長共ニ事故アルトキ又ハ第二十五條第三項若ハ第四項ノ場合ニ於テハ出席者ノ互選ニ依リ議長ヲ定ム

第二十五條 總代會ハ組合長之ヲ招集ス

總代會ヲ組織スル者ハ其ノ總數ノ三分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總代會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

組合長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依リ請求アリタル後十四日以内ニ總代會ヲ招集セザルトキハ請求者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十九條 總代會ハ之ヲ組織スル者ノ半數以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得但シ同一ノ事項ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タザルトキ又ハ招集ニ應ズルモ出席者定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 總代會ノ議事ハ米穀自治管理法及同法ニ基キテ發スル命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ過

其他 米穀自治管理法施行規則抄

半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十一條 總代會ノ議決ヲ經ベキ事項ニシテ輕微ナルモノニ付テハ定款ノ定ムル所ニ依リ書面ヲ以テ其ノ總代會ヲ組織スル者ノ意見ヲ徵シ總代會ノ議決ニ代フルコトヲ得

第三十二條 總代會ノ議長ハ議事録ヲ作り左ニ掲グル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ署名スベシ

一 開會ノ日時及場所

二 總代會ヲ組織スル者ノ定數及員數

三 出席者ノ員數

四 議事ノ要領

五 議決シタル事項及賛否ノ數

第三十三條 米穀統制組合ノ事業年度ハ前年ノ十一月一日ヨリ其ノ年ノ十月三十一日迄トス

第三十五條 米穀統制組合ノ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ノ認可申請書ハ毎年十月二十日迄ニ之ヲ地方長官ニ差出スベシ但シ設立ノ認可ヲ受ケタル年度ニ於テハ總代會ノ議決ヲ經タル後遲滞ナク之ヲ差出スベシ

第三十六條 米穀統制組合ノ定款、收支豫算及經費ノ分賦收入方法ノ變更並ニ借入金ノ認可申請書ニハ理由書ヲ添

附スベシ尙借入金ノ認可申請書ニハ利率、期間、借入先及償還ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第三十七條 事業報告及收支決算ハ次ノ事業年度内ニ總代會ノ承認ヲ受ケ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ差出スベシ
前項ノ書類ニハ當該事業年度末日現在ニ依リ調製シタル財産目錄ヲ添附スベシ

第五十三條 米穀販賣組合（略）ノ米穀自治管理法施行令第七條ノ許可申請書ニハ理由書及定款（略）變更ニ關スル總會又ハ總代會ノ議事録ノ謄本ヲ添附スベシ

第五十四條 地方長官前條ノ團體ニ對シ米穀自治管理法施行令第七條ノ許可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨並ニ團體ノ名稱、區域、理事又ハ會長及副會長ノ氏名及住所ヲ告示スベシ

前項ノ規定ニ依リ告示シタル事項ニ變更アリタルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第五十五條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體米穀自治管理法施行令第八條ノ規定ニ依リ其ノ事業ノ休止又ハ廢止ノ許可ヲ受ケントスルトキハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經テ地方長官ニ申請書ヲ差出スベシ
前項ノ許可申請書ニハ理由書及總會又ハ總代會ノ議事録ノ謄本ヲ添附スベシ

第五十六條 地方長官米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ米穀自治管理法施行令第八條ノ規定ニ依リ其ノ事業ノ休止若ハ廢止ノ許可ヲ爲シ又ハ米穀自治管理法施行令第九條ノ規定ニ依リ其ノ事業ヲ停止シ若ハ同令第七條ノ許可ヲ取消ヲ爲シタル場合ハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第五十七條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ米穀自治管理法ニ關スル事業ニ付テハ米穀統制組合ノ事業年度ニ依ルベシ

第五十八條 米穀自治管理法施行令第十條第一項第四號ノ一時借入金ハ借入ノ日ヨリ一年以内ニ償還スルモノヲ謂フ

第五十九條 第三十五條乃至第三十七條ノ規定ハ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ニ之ヲ準用ス

第六十條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ノ米穀自治管理法第四十三條ノ規定（同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル割當ハ總代會ノ議決ヲ經ベシ但シ其ノ團體ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ガ百人未滿ナル場合又ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ總代會ニ代ヘ總會ノ議決ニ依ルコトヲ得

第六十一條 第十八條乃至第二十四條ノ規定ハ米穀自治管理法第三十條第一項ノ總代會ノ總代ニ關シ之ヲ準用ス

其他 米穀自治管理法施行規則抄

第二十五條乃至第三十二條ノ規定ハ米穀自治管理法第三十條第一項ノ總會又ハ總代會ニ關シ之ヲ準用ス

第六十四條 第五十三條乃至第五十七條ノ規定ハ地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ團體ニ之ヲ準用ス

第六十五條 米穀自治管理法施行令第十七條及同令第十八條ニ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ代表者トアルハ左ニ掲グルモノトス

一 米穀統制組合ノ組合長

二 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ米穀販賣組合ノ理事但シ理事數人アル場合ニ於テハ理事ノ互選シタル者

三 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ市農會又ハ町村農會ノ會長

第六十六條 第六十一條第一項ノ規定ハ米穀自治管理法第四十條第一項ノ總會又ハ總代會ニ關シ之ヲ準用ス

第六十七條 地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ團體ノ米穀自治管理法第四十三條ノ規定（同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル割當ハ總會ノ議決ヲ經ベシ但シ其ノ團體ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ノ數三十未滿ナル場合又ハ特別ノ

事情アル場合ニ於テハ總代會ニ代ヘ總會ノ議決ニ依ルコトヲ得

第六十八條 農林大臣米穀自治管理法第四十三條又ハ同法第五十六條ノ規定ニ依ル割當ヲ爲ス場合ハ地方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ區域内ニ於ケル米穀ノ販賣高、生産高、區域外ヘノ移出高等ヲ參酌スルモノトス

前項ノ販賣高ハ前五箇年中ノ中庸作柄ノ年ニ於ケルモノ、生産高ハ第二回米穀豫想收穫高、區域外ヘノ移出高ハ前五箇年平均トス
第一項ノ場合ニ於テ農林大臣ハ内地ヲ區域トスル米穀販賣組合聯合會ノ意見ヲ徵スルモノトス

第六十九條 地方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ團體米穀自治管理法第四十三條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲ス場合ハ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ區域内ニ於ケル米穀ノ販賣高、生産高等ヲ參酌スベシ
前條第二項ノ規定ハ前項ノ販賣高及生産高ニ之ヲ準用ス

第七十條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ハ其ノ割當テラレタル數量ノ米穀ヲ團體員ニシテ米穀統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者及米穀自治管理法第二十九條ノ規定

ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ同條ニ規定スル者ニ對シ割當ツベシ

定款(略)ニ特別ノ規定アル場合ハ前項ニ規定スルモノノ外團體員ニシテ米穀自治管理法第二條ニ該當スル者ニ對シ其ノ申出ニ依リ割當ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體米穀自治管理法第四十三條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲ス場合ハ割當ヲ受クベキ者ノ米穀ノ販賣高等ヲ參酌スベシ此ノ場合ニ於テ優先割當ヲ申出ヅルモノアルトキハ先ヅ其ノ者ニ割當ヲ爲スコトヲ得
前項ノ割當ハ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外一人ニ付額四十石ヲ超ユルコトヲ得ズ

第七十四條 米穀自治管理法第四十四條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ハ地方長官之ヲ行フ
第六十九條乃至第七十一條、第七十三條及第七十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條 地方米穀統制組合聯合會若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體米穀自治管理法第四十三條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ

準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第七十六條 米穀自治管理法第四十七條(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ寄託ハ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)ノ指定スル所ニ從ヒ農林大臣ノ定ムル條件ニ適合スル當該年産ノ水稻粳粍ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ地方長官ノ定ムル所ニ依リ粍ノ二分ノ一ニ相當スル容量ノ當該年産ノ玄米ニシテ米穀統制法施行令第一條第二項ノ規定ニ依リ農林大臣ノ告示スル銘柄等級ノモノヲ以テ粍ニ代フルコトヲ得

第七十七條 米穀自治管理法第四十三條ノ規定(同法第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)ヨリ割當ヲ受ケタル者前條ノ寄託ヲ爲サザルトキハ地方長官ハ期間ヲ定メテ寄託ヲ爲スコトヲ命ズルコトヲ得

第七十八條 米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體米穀自治管理法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ米穀ノ貯藏ノ解除ヲ爲サントスルトキハ同條第一號乃至第三號ノ場合ニ在リテハ地方長官ヲ經由シテ農林大臣ニ、第四號ノ場合ニ在リテハ地方長官ニ解除ノ許可ヲ申請スベシ

其他 米穀自治管理法施行規則抄

第八十二條 左ノ場合ニ於テハ地方長官ハ農林大臣ニ報告スベシ

五 米穀自治管理法施行令第七條(同令第三十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)又ハ同令第十五條ノ許可ヲ爲シタルトキ

六 米穀統制組合(略)又ハ地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ其ノ事業ノ休止若ハ廢止ノ許可ヲ爲シ又ハ米穀自治管理法施行令第九條(同令第十六條及第三十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ處分ヲ爲シタルトキ

七 米穀自治管理法施行令第十二條第三號又ハ同令第十三條第三號(同令第三十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ特別議員ヲ任命シタルトキ

八 第七十四條ノ規定ニ依リ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體(略)ニ對シ割當ヲ爲シタルトキ

十 米穀自治管理法施行令第二十三條第四號ニ該當スル場合ニ於テ解除ノ許可ヲ爲シタルトキ

附則

本令ハ米穀自治管理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十一年勅令第三百二十四號ヲ以テ同年九月二十日ヨリ施行)

五五 米穀自治管理法施行令第二十一條ノ再保管ニ關スル件

抄

昭和十一年十一月十九日農林省令第三十四號

第一條 米穀自治管理法施行令第二十一條ノ規定ニ依リ再保管ヲ爲スコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

- 一 農業倉庫業者 聯合農業倉庫業者又ハ倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ米穀自治管理法施行令第二十一條ノ規定ニ依リ再保管ヲ其ノ事業ト爲ス旨ヲ地方長官ニ届出デタルモノ
- 二 米穀自治管理法施行令第二十一條ノ規定ニ依リ再保管ヲ其ノ事業ト爲スコトニ付地方長官ノ認可ヲ受ケタル者

第二條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體米穀自治管理法施行令第二十一條第一項ノ規定ニ依リ再保管セシメタル米穀ニ付自治管理倉庫證券ヲ發行シタルトキハ當該米穀ノ再保管者ニ對シ倉庫證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ズ

第三條 米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體再保管ノ目的タル米穀ニ付貯藏ノ解除アリタルトキハ再保管者及寄託者又ハ自治管理倉庫證券ノ所持人ニ對シ遲滞ナク解除セラレタル米穀ノ銘柄、等級、數量及解除ノ年月日ヲ通知スベシ

第四條 再保管者前條第一項ノ規定ニ依リ解除ノ通知ヲ受ケタルトキハ同條第二項ノ規定ニ依リ出庫指圖書ノ交付ヲ受ケタル者ノ請求ニ因リ再保管ノ目的タル米穀ノ出庫ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ再保管者ハ出庫指圖書ノ提出ヲ請求スルコトヲ得

第五條 再保管者前條第一項ノ規定ニ依リ解除ノ通知ヲ受ケタルトキハ同條第二項ノ規定ニ依リ出庫指圖書ノ交付ヲ受ケタル者ノ請求ニ因リ再保管ノ目的タル米穀ノ出庫ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ再保管者ハ出庫指圖書ノ提出ヲ請求スルコトヲ得

第六條 再保管者前條第一項ノ規定ニ依リ解除ノ通知ヲ受ケタルトキハ同條第二項ノ規定ニ依リ出庫指圖書ノ交付ヲ受ケタル者ノ請求ニ因リ再保管ノ目的タル米穀ノ出庫ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ再保管者ハ出庫指圖書ノ提出ヲ請求スルコトヲ得

第七條 再保管者前條第一項ノ規定ニ依リ解除ノ通知ヲ受ケタルトキハ同條第二項ノ規定ニ依リ出庫指圖書ノ交付ヲ受ケタル者ノ請求ニ因リ再保管ノ目的タル米穀ノ出庫ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ再保管者ハ出庫指圖書ノ提出ヲ請求スルコトヲ得

五六 自治管理倉庫建設補助ニ關スル件

昭和十六年四月二十六日一六食糧第三三九號
農林省食糧管理局長官通牒

米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ建設スル自治管理倉庫ノ建設費用ニ付助成金ヲ交付スル道府縣ニ對シ昭和十六年度ニ於テ別紙自治管理倉庫建設補助要項ニ依リ國庫補助金ヲ交付スルコトト相成候條御了知相成度依命此段及通牒候也

自治管理倉庫建設補助要項

- 一 倉庫ノ建設主體ハ米穀統制組合並ニ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ米穀販賣組合及農會トス
- 二 補助金ハ建設費ノ三分ノ二以内ニシテ一坪當本屋ニ對シ六十圓以内トス
- 三 補助金ハ敷地購入費及整地費ニ對シテハ之ヲ交付セズ
- 四 補助金ノ交付ヲ受ケ建設スベキ倉庫ハ燻蒸可能ナルモノニシテ坪當収容力三十三石程度ノモノナルコトヲ要ス
- 五 補助金ノ交付ヲ受ケントスル道府縣ハ申請書ニ左ニ掲グル書類ヲ添附シ昭和十六年五月三日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ
- (一) 様式第一號ノ事業計畫書
- (二) 收支豫算書
- (三) 助成金交付ニ關スル規程又ハ條件ヲ記載シタル書類
- (四) 前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ
- (五) 補助金交付ノ指令ヲ受ケタル道府縣前號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ニ對シ

其他 自治管理倉庫建設補助ニ關スル件

- 六 補助金交付ノ指令ヲ受ケタル道府縣補助金ノ交付ヲ請求セントスルトキハ請求書ニ様式第二號ノ精算書及様式第三號ノ助成金交付ニ關スル調査ヲ添附シ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ
- 七 補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ様式第四號ノ事業成績書ヲ遲滞ナク農林大臣ニ之ヲ提出スベシ
- 八 補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ其ノ助成金ヲ交付スル場合ニ於テハ左ノ條件ヲ附スベシ
 - (一) 米穀自治管理法ニ依リ米穀ノ貯藏ヲ爲スベキ場合ニ於テハ農林大臣ノ別ニ定ムル條件ニ依リ寄託ニ應ズルコト
 - (二) 建設シタル倉庫ヲ處分セントスル場合ニ於テハ地方長官ヲ經由シ農林大臣ノ認可ヲ受クベキコト
 - (三) 倉庫ノ利用狀況ニ關シ毎年十一月三十日迄ニ地方長官ヲ經由シ農林大臣ニ報告スルコト
 - (四) 倉庫建設者ニシテ前各號ニ違反シタルトキハ既ニ交付シタル助成金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベキコト
- 九 農林大臣ハ前號ニ依リ助成金ノ返還ヲ受ケタル道府縣ニ對シ助成金中補助金ニ相當スル金額ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ

團體ガ米穀ノ出廻數量ノ調節又ハ備荒貯蓄ノ目的ヲ以テ
糶ヲ貯藏スルトキハ之ヲ助成スル爲貯藏團體ニ對シ米穀
需給調節特別會計ニ屬スル米穀ヲ交付スルコトヲ得
前項ノ交付ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第一項ノ規定ニ依リ交付スル助成米ノ數量ハ毎年三十萬
石ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二條 政府ハ本法ニ基ク命令ニ違反シタル團體ニ對シ其
ノ交付ヲ受ケタル米穀ノ價額ニ相當スル金額ノ全部又ハ
一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

第三條 本法ニ依ル助成米ノ交付ニ關スル一切ノ歲入歲出
ハ米穀需給調節特別會計ニ屬セシム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和十一年勅令第三百二十八號ヲ以テ同年九月二十日ヨ
リ施行)

五九 糶共同貯藏助成法施行令

昭和十一年九月十六日勅令第三百二十九號

第一條 糶共同貯藏助成法第一條第一項ノ規定ニ依リ左ノ
團體ヲ指定ス

- 一 市町村其ノ他之ニ準ズルモノ

二 農事實行組合

三 郷倉組合

第二條 農林大臣糶共同貯藏助成法第一條ノ規定ニ依リ米
穀ヲ交付セントスル場合ハ其ノ旨、交付スベキ米穀ノ數
量ノ限度、助成米交付ノ條件其ノ他交付ニ關シ必要ナル
事項ヲ告示ス

第三條 糶共同貯藏助成法第一條ノ規定ニ依リ貯藏團體ニ
交付スル助成米ノ數量ハ當該團體貯藏スル糶ノ數量ノ百
分ノ五(糶ヲ以テ交付スル場合ハ百分ノ十)ヲ超ユルコ
トヲ得ズ

附 則

本令ハ糶共同貯藏助成法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(昭和十一年九月二十ヨリ施行)

六〇 米穀統制法施行令抄

昭和八年十月二十三日勅令第二百八十號
(改正中略)

昭和十五年二月勅令第六十三號

第十五條 米穀統制法第六條ノ規定ニ依ル米穀ノ貸付ハ道
府縣ニ於テ米穀ヲ市町村、産業組合、農會等ニ對シ農林
大臣ノ適當ト認ムル條件ヲ以テ貸付又ハ賣渡ヲ爲サント

スル場合ニ之ヲ行フ

(參照)

米穀統制法

第六條 政府ハ米穀ノ買換ヲ爲サントスル場合ニ於テ必
要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ買換ニ代
ヘ買換ノ爲賣渡ヲ爲サントスル米穀ヲ道府縣ニ對シ貸
付スルコトヲ得

六一 米穀統制法施行規則抄

昭和八年十月二十四日農林省令第二十號
改正(中略)

昭和十五年十月農林省令第百號

第三十九條 米穀現在高調査ハ毎年三月一日、五月一日、

七月一日、八月一日、九月一日及十一月一日各午前零時
現在ニ於テ内地ニ現在スル米穀ニ付之ヲ行フ但シ左ニ掲
グル米穀ニ付テハ之ヲ行ハザルモノトス

- 一 調査期日ニ於テ保稅地域及外國貿易船ニ現在スル米
穀

二 内地米、朝鮮米及臺灣米ノ碎米

三 八月一日、九月一日及十一月一日現在ノ調査ニ在リ
テハ其ノ年八月一日ヨリ十月三十一日迄ノ間ニ生産セ

其他

米穀統制法施行規則抄 醫療利用組合ノ設立並ニ醫療事
業兼營ニ依ル産業組合定款變更認可稟請ノ件

ラレタル内地米

前項ノ調査ハ内地米、朝鮮米及臺灣米ニ在リテハ糶、玄
米及白米ニ區分シ、外國米ニ在リテハ糶、玄米、白米及
碎米ニ區分シテ之ヲ行フ

第四十條 左ニ掲グル倉庫ノ管理者ハ其ノ倉庫ニ現在スル
米穀ニシテ前條ノ規定ニ依リ調査セラルベキモノノ數量
ニ付地方長官ニ對シ様式第三號ニ依リ申告ヲ爲スベシ

- 一 倉庫營業者ノ倉庫
- 二 運送營業者、運送取扱營業者又ハ銀行ノ倉庫
- 三 農業倉庫又ハ聯合農業倉庫
- 四 前各號ノ外農會、産業組合、産業組合聯合會又ハ之
ニ準ズルモノニシテ地方長官ノ指定シタルモノノ倉庫

六二 醫療利用組合ノ設立並醫療

事業兼營ニ依ル産業組合定

款變更認可稟請ノ件

昭和十二年六月十六日一二更第六一九一號
農 林 省 經 濟 更 生 部 長 通 牒

醫療利用設備ヲ有スル産業組合又ハ産業組合聯合會設立許
可ノ申請並産業組合又ハ産業組合聯合會ノ醫療利用事業兼

營ニ依ル定款變更認可申請アリタルトキハ産業組合法施行規則第十九條ノ二ニ依リ其處分ニ付豫メ稟何相成規定ニ有之候モ町村ヲ區域トスル産業組合ニシテ別ニ診療所其他ノ具體的設備ヲ爲サザルモノガ既存ノ醫療利用組合聯合會ノ設備ヲ利用セントスルモノニ付テハ處分前指揮ヲ請フコトヲ要セザル取扱ニ相成居候處爾今左記ニ依リ許可又ハ認可ト同時ニ報告相成度此段及通牒候也
追而區域ガ一町村ノ區域ヲ超ユル組合ニ在リテハ許可又ハ認可前豫メ打合セテ要スル儀ニ付爲念申添候

記

- 一、組合ノ名稱及區域
- 二、許可又ハ認可年月日
- 三、區域内ニ於ケル總戶數、組合員數、出資口數
- 四、區域内ニ於ケル診療科別開業醫師數
- 五、最近ニ於ケル財産目錄、貸借對照表、事業報告書

六三 醫師法抄

明治三十九年五月法律第四十七號
改正(中略)

昭和八年四月法律第四十五號

第四條ノ二 醫師ニ非ザル者(公共團體ヲ除ク)診療所ヲ設

置セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ノ許可ヲ受クベシ
前項ニ規定スルモノノ外診療所ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

六四 診療所取締規則

昭和八年十月四日内務省令第三十號

第一章 總則

- 第一條 診療所ト稱スルハ公衆又ハ特定多數人ノ爲醫業ヲ爲ス場所ヲ謂ヒ病院ト稱スルハ診療所ニシテ患者十人以上ノ收容施設ヲ有スルモノヲ謂フ
- 第二條 疾病ノ治療ヲ爲ス場所ニシテ診療所ニ非ザルモノハ之ニ診療所、診療所、醫院其ノ他醫業ヲ爲ス場所ニ紛ハシキ名稱ヲ附スルコトヲ得ズ
疾病ノ治療ヲ爲ス場所ニシテ病院ニ非ザルモノハ之ニ病院又ハ病院分院ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ズ
- 第三條 診療所ニハ醫業ニ關シ廣告スルコトヲ得ザル事項ヲ表示スル名稱ヲ附スルコトヲ得ズ但シ診療所所在地ノ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ依リ)ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 何人ト雖モ診療所ノ醫業ニ關スル廣告ニ其ノ診療所ニ於テ常時診療ニ從事セザル醫師ノ氏名ヲ表示スル場合ニ於テハ當該診療所ニ於ケル其ノ醫師ノ診療日ヲ併セ表示スベシ

第五條 何人ト雖モ診療所ノ醫業ニ關スル廣告ニハ其ノ診療所ニ於テ診療ニ從事セザル醫師ノ氏名ヲ表示スルコトヲ得ズ

第二章 診療所ノ開設、休止及廢止

第六條 醫師病院ニ非ザル診療所ヲ開設シタルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ十日以内ニ診療所所在地ノ地方長官ニ届出ヅベシ

- 一 名稱
 - 二 所在地
 - 三 開設ノ年月日
 - 四 病室アルトキハ其ノ建物ノ構造概要及平面圖(精神病室又ハ傳染病室アルトキハ之ヲ明示スルコト)並ニ各病室ノ患者收容定員
 - 五 診療ニ從事スル醫師ノ氏名及其ノ診療日
 - 六 藥劑師勤務スルトキハ其ノ氏名
- 前項第一號又ハ第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ事項ニ付前項ニ準ジ届出ヅベシ病室アル建物ノ増

其他 診療所取締規則

築、改築又ハ大修繕ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第七條 現ニ診療所ヲ開設スル醫師更ニ他ノ診療所ヲ開設セントスルトキハ診療所ノ名稱、所在地及管理方法ヲ具シ開設セントセル診療所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ醫師同時ニ二以上ノ診療所ヲ開設セントスルトキ亦同ジ

前項ノ診療所ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第八條 公共團體病院ニ非ザル診療所ヲ開設シタルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ十日以内ニ診療所所在地ノ地方長官ニ届出ヅベシ

- 一 名稱
- 二 所在地
- 三 開設ノ年月日
- 四 開設ノ目的及維持方法
- 五 病室アルトキハ其ノ建物ノ構造概要及平面圖(精神病室又ハ傳染病室アルトキハ之ヲ明示スルコト)並ニ各病室ノ患者收容定員
- 六 管理者ノ氏名
- 七 診療ニ從事スル醫師ノ氏名及其ノ診療日
- 八 藥劑師勤務スルトキハ其ノ氏名
- 九 醫業報酬額

前項第一號又ハ第四號乃至第九號ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ事項ニ付前項ニ準ジ届出ツベシ病室アル建物ノ増築、改築又ハ大修繕ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第九條 醫師ニ非ザル者(公共團體ヲ除ク)病院ニ非ザル診療所開設ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ診療所所在地ノ地方長官ニ申請スベシ

- 一 名稱
 - 二 所在地
 - 三 開設ノ目的及維持方法
 - 四 醫業報酬額
 - 五 開設者法人ナルトキハ定款又ハ寄附行爲
- 前項ノ診療所ノ開設者ハ開設後十日以内ニ前條第一項第三號及第五號乃至第八號ノ事項ヲ診療所所在地ノ地方長官ニ届出ツベシ

第一項第三號又ハ第四號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事項ニ付診療所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケベシ

第一項第一號、第五號又ハ第二項ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ事項ニ付第二項ニ準ジ届出ツベシ病室アル建物ノ増築、改築又ハ大修繕ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第十條 醫師又ハ公共團體病院ヲ開設セントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ病院所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケ

- 一 名稱
 - 二 所在地
 - 三 開設目的及維持方法
 - 四 敷地ノ面積及平面圖
 - 五 敷地周圍ノ見取圖
 - 六 建物ノ構造概要及平面圖(各室ノ用途ヲ示シ精神病室又ハ傳染病室アルトキハ之ヲ明示スルコト)
 - 七 各病室ノ患者收容定員
 - 八 火災其ノ他ノ災害ニ對スル施設
 - 九 汚物處理及消毒ニ關スル施設
 - 十 竣工ノ豫定期日
 - 十一 醫業報酬額
 - 十二 開設者法人ナルトキハ定款又ハ寄附行爲
- 前項ノ病院ノ開設者ハ開設後十日以内ニ第八條第一項第三號及第六號乃至第八號ノ事項ヲ病院所在地ノ地方長官ニ届出ツベシ

第一項第三號、第四號、第六號乃至第九號又ハ第十一號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事項ニ付病院所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケベシ建物ノ増築、改築又ハ大修繕ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

ベシ第四號若ハ第六號乃至第九號ノ事項ヲ變更セントスルトキ又ハ建物ノ増築、改築若ハ大修繕ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第九條 醫師ニ非ザル者(公共團體ヲ除ク)病院開設ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ診療所所在地ノ地方長官ニ申請スベシ

- 一 名稱
 - 二 所在地
 - 三 開設者公共團體ナルトキハ開設ノ目的及維持方法
 - 四 敷地ノ面積及平面圖
 - 五 敷地周圍ノ見取圖
 - 六 建物ノ構造概要及平面圖(各室ノ用途ヲ示シ精神病室又ハ傳染病室アルトキハ之ヲ明示スルコト)
 - 七 各病室ノ患者收容定員
 - 八 火災其ノ他ノ災害ニ對スル施設
 - 九 汚物處理及消毒ニ關スル施設
 - 十 竣工ノ豫定期日
 - 十一 開設者公共團體ナルトキハ醫業報酬額
- 前項ノ病院ノ開設者ハ開設後十日以内ニ第八條第一項第三號、第七號、第八號ノ事項及開設者公共團體ナルトキハ管理者ノ氏名ヲ病院所在地ノ地方長官ニ届出ツベシ

第一項第一號、第三號、第十號、第十一號又ハ前項ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ事項ニ付前項ニ準ジ届出ツベシ

第十條 醫師ニ非ザル者(公共團體ヲ除ク)病院開設ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ病院所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケ

- 一 名稱
 - 二 所在地
 - 三 開設目的及維持方法
 - 四 敷地ノ面積及平面圖
 - 五 敷地周圍ノ見取圖
 - 六 建物ノ構造概要及平面圖(各室ノ用途ヲ示シ精神病室又ハ傳染病室アルトキハ之ヲ明示スルコト)
 - 七 各病室ノ患者收容定員
 - 八 火災其ノ他ノ災害ニ對スル施設
 - 九 汚物處理及消毒ニ關スル施設
 - 十 竣工ノ豫定期日
 - 十一 醫業報酬額
 - 十二 開設者法人ナルトキハ定款又ハ寄附行爲
- 前項ノ病院ノ開設者ハ開設後十日以内ニ第八條第一項第三號及第六號乃至第八號ノ事項ヲ病院所在地ノ地方長官ニ届出ツベシ

第一項第三號、第四號、第六號乃至第九號又ハ第十一號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事項ニ付病院所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケベシ建物ノ増築、改築又ハ大修繕ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第十六條

診療所ノ管理者ハ其ノ診療所ノ構造設備ニ付本令又ハ藥劑師法施行規則第十條、第十一條及第十三條ノ規定ニ違反セズ並ニ危害ノ發生セザルヤウ必要ナル注意ヲ爲スベシ

診療所ノ管理者ハ其ノ診療所ニ存スル藥品ニ付藥品營業並藥品取扱規則第二十六條乃至第二十九條ノ規定ニ違反セザルヤウ必要ナル注意ヲ爲スベシ

第十七條

診療所ノ開設者前二項ノ事項ニ關シ管理者ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ必要ナル措置ヲ爲スベシ

第十八條

病院ノ管理者ハ病院ニ醫師ヲ宿直セシムベシ但シ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第十九條 診療所ノ藥劑師藥劑ノ調製ニ當リ醫師ノ處方ニ疑ハシキ廉アルトキハ其ノ醫師ニ質シタル後之ヲ調製スベシ

第二十條

患者ノ收容ニ付テハ左ノ規定ヲ遵守スベシ但シ第一號乃至第四號ニ付テハ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 病室ニハ定員ヲ超エテ患者ヲ收容セザルコト
二 病室ニ非ザル場所ニ患者ヲ收容セザルコト

三 同室ニ收容スルコトニ因リ病毒傳播ノ危險アル患者ヲ他ノ種ノ患者ト同室ニ收容セザルコト

四 精神病患者又ハ傳染病患者ヲ精神病室又ハ傳染病室ニ非ザル病室ニ收容セザルコト

五 病室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ
一 診療ニ使用スル電氣、光線、熱又ハ放射線ノ設備ニ付テハ危險防止上適當ナル方法ヲ講ズルコト
二 病室ハ地階又ハ木造建物ノ第三階以上ニハ之ヲ設ケザルコト
三 第三階以上ノ階ニシテ病室ヲ有スルモノニ在リテハ二以上ノ避難階段ヲ設クルコト
四 病室ノ床高ハ〇・四五米以上トスルコト但シ床又ハ床下ニ漆喰叩、「コンクリート」叩其ノ他適當ナル防濕方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
五 病室ノ床木造ナルトキハ其ノ床下ニハ適當ナル換氣方法ヲ講ズルコト
六 病室ノ天井高ハ二・二米以上トスルコト
七 病室ノ面積ハ患者一人ヲ收容スルモノニ在リテハ六・七五平方メートル以上、患者二人以上ヲ收容スルモノニ在

第四章 診療所ノ構造設備

第二十一條

診療所ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ
一 診療ニ使用スル電氣、光線、熱又ハ放射線ノ設備ニ付テハ危險防止上適當ナル方法ヲ講ズルコト
二 病室ハ地階又ハ木造建物ノ第三階以上ニハ之ヲ設ケザルコト
三 第三階以上ノ階ニシテ病室ヲ有スルモノニ在リテハ二以上ノ避難階段ヲ設クルコト
四 病室ノ床高ハ〇・四五米以上トスルコト但シ床又ハ床下ニ漆喰叩、「コンクリート」叩其ノ他適當ナル防濕方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
五 病室ノ床木造ナルトキハ其ノ床下ニハ適當ナル換氣方法ヲ講ズルコト
六 病室ノ天井高ハ二・二米以上トスルコト
七 病室ノ面積ハ患者一人ヲ收容スルモノニ在リテハ六・七五平方メートル以上、患者二人以上ヲ收容スルモノニ在

リテハ患者一人ニ付四・八六平方メートル以上トスルコト

八 病室ニ於テハ直接外氣ニ面シ室面積ノ八分ノ一以上ニ相當スル面積ヲ開放シ得ベカラシムルコト但シ之ニ代ルベキ適當ナル換氣裝置アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

九 精神病室又ハ傳染病室ハ一般病室ト遮斷スルコト

十 精神病室ニ於テハ監護上適當ナル施設ヲ爲スコト

十一 傳染病室アル診療所ニ於テハ消毒所ヲ設ケ又ハ適當ナル消毒施設ヲ爲スコト

第十二條 病院ノ構造設備ハ前條ノ規定ニ依ルノ外左ノ規定ニ依ルベシ

一 病室ニ通ズル廊下ノ幅ハ内法一・二米以上トスルコト但シ中廊下アルトキハ其ノ幅ハ内法一・六米以上トスルコト

二 第二階ニ病室アルトキハ階段二以上ヲ設クルコト

三 患者ノ使用スル階段ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルコト但シ避難階段ハ此ノ限ニ在ラズ

イ 階段及踊場ノ幅ハ内法一・二米以上トスルコト

ロ 蹴上ハ〇・二米以下、踏面ハ〇・二四米以上トスルコト

ハ 高四米ヲ超ユルモノニ在リテハ高四米以内毎ニ踊場ヲ設クルコト

ニ 螺旋狀ト爲サザルコト

四 消毒所、汚物處理場又ハ汚物溜ハ病室ヨリ適當ナル間隔ヲ保ツコト

五 汚物處理場又ハ汚物溜ハ耐水材料ヲ以テ構造シ防水裝置ヲ施シ且臭氣又ハ汚物ノ散逸ヲ防グ爲適當ナル裝置ヲ爲スコト

第二十三條 特別ノ事情アル場合ニ於テハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ本章ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第五章 診療所ノ監督

第二十四條 地方長官ハ當該官吏ヲシテ診療所ノ構造設備ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ當該官吏ヲシテ其ノ證書ヲ携帯セシムベシ

第二十五條 病院ノ病室ハ所在地ノ地方長官ノ検査ヲ受ケ許可ヲ得タル後ニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ病院ニ非ザル診療所ノ傳染病室ニ付亦同ジ

第二十六條 地方長官ハ診療所ノ構造設備本令ニ違反シ又ハ衛生上有害若ハ保安上危險ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ修繕若ハ改築ヲ命ズルコトヲ得

第二十七條 地方長官ハ診療所ノ管理者犯罪若ハ醫事ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ管理ヲ爲スコト能ハズト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

其他 診療所取締規則

第二十八條 地方長官ハ診療所ノ開設者本令若ハ本令ニ基ク處分ニ違反シ又ハ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ診療所ニ依ル診療ヲ停止シ又ハ其ノ閉鎖ヲ命ズルコトヲ得

第六章 罰則

第二十九條 醫師ニ非ザル者許可ヲ受ケズシテ診療所ヲ開設シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二條乃至第五條、第七條第一項、第九條第三項第十條第一項、第十一條第三項若ハ第十八條ノ規定ニ違反シタル者、第十五條第一項但書若ハ第二項ノ規定ニ依ル管理者ニシテ地方長官ノ許可ヲ受ケズシテ他ノ診療所ヲ管理シタル者又ハ第二十六條乃至第二十八條ノ規定ニ基ク處分ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條 第六條、第九條第二項、第四項、第十條第二項、第三項、第十一條第二項、第四項、第十二條乃至第十四條、第十七條、第十九條、第二十條、第二十五條若ハ第三十六條第二項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十四條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ若ハ妨ゲタル者ハ科料ニ處ス
第三十二條 未成年者又ハ禁治産者タル診療所ノ開設者ガ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ業務ニ關シ成年

者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條 法人タル診療所ノ開設者ガ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ之ヲ法人ノ代表者ニ適用ス

附則

第三十四條 本令ハ昭和八年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十五條 公衆又ハ特定多數人ノ爲往診ノミニ依リ診療ニ従事スル醫師ニ付テハ其ノ住所ヲ以テ診療所ト看做シ第三條乃至第七條、第十二條乃至第十四條及第三十六條第二項並ニ其ノ罰則ノ規定ヲ適用ス

第三十六條 本令施行ノ際現ニ存スル診療所ニシテ其ノ開設ニ付地方長官ノ許可ヲ要スルモノハ本令施行ノ際其ノ許可アリタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ存スル診療所ノ開設者ハ本令施行後三月以内ニ第六條乃至第十一條ノ規定ニ準ジ届出ヅベシ
本令施行ノ際現ニ存スル診療所ニ付テハ第十七條及第十八條ノ規定ハ本令施行後三月以内之ヲ適用セズ

第三十七條 本令施行ノ際現ニ存スル診療所ノ昭和八年九月一日以前ヨリ附スル名稱ニ付テハ第二條第二項及第三條ノ規定ハ昭和十五年十二月三十一日迄之ヲ適用セズ

六五 國民健康保險法

昭和十三年四月一日法律第六十號

第一章 總則

第一條 國民健康保險ハ相扶共濟ノ精神ニ則リ疾病、負傷、分娩又ハ死亡ニ關シ保險給付ヲ爲スヲ目的トスルモノトス

第二條 國民健康保險ハ國民健康保險組合（以下組合ト稱ス）之ヲ行フ

第三條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ準用ス

組合ガ規約ノ定ムル所ニ依リテ爲ス保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第五百五十三條ノ規定ニ拘ラズ時効中斷ノ效力ヲ有ス

第四條 國民健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第五條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ

第六條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フル

其他 國民健康保險法

コトヲ得ズ

第七條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ保險給付ヲ受クベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理人ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第八條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ組合ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ組合ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

市町村ガ前項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ着手セズ又ハ九十日以内ニ之ヲ結了セザルトキハ組合ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市町村制第一百一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第一項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第二章 國民健康保險組合

第一節 總則

第九條 組合ハ左ノ二種トス

一 普通國民健康保險組合

其他 國民健康保險法

二 特別國民健康保險組合
組合ハ法人トス

第十條 普通國民健康保險組合ハ其ノ地區内ノ世帯主ヲ組
合員トシ、特別國民健康保險組合ハ同一ノ事業又ハ同種
ノ業務ニ従事スル者ヲ組合員トシ之ヲ組織ス

第十四條 第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タル資格ナキ
者ハ組合員タルコトヲ得ズ但シ其ノ世帯ニ被保險者タル
資格アル者アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
普通國民健康保險組合ノ地區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ
特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

第十一條 組合ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ規約ヲ作
リ組合員タラントスル者ノ同意ヲ得テ地方長官ノ認可ヲ
受クベシ
組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第十二條 組合ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 事務所ノ所在地
- 三 組合ノ地區（特別國民健康保險組合ニ在リテハ組合員ノ範圍）
- 四 組合員ノ加入及脱退ニ關スル事項
- 五 被保險者ノ資格ノ得喪ニ關スル事項

六 其ノ他重要ナル事項

第十三條 普通國民健康保險組合ニ付其ノ組合員タル資格
ヲ有スル者ノ三分ノ二以上組合員タル場合ニ於テ地方長
官必要アリト認メ其ノ組合ヲ指定シタルトキハ組合員タ
ル資格ヲ有スル者（特別ノ事由アル者ニシテ命令ヲ以テ
定ムルモノヲ除ク）ハ總テ組合員ト爲ルモノトス

第十四條 組合ハ組合員及組合員ノ世帯ニ屬スル者ヲ以テ
其ノ被保險者トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ
限ニ在ラズ
一 健康保險ノ被保險者

二 他ノ組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ノ被保險者
三 特別ノ事由アル者ニシテ規約ヲ以テ定ムルモノ
前項ノ規定ニ拘ラズ組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合員
ノ世帯ニ屬スル者ヲ包括シテ被保險者ト爲サザルコトヲ
得

第十五條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ規約違反者ヨリ過
怠金ヲ徴收スルコトヲ得

第十六條 組合ハ事業ニ支障ナキ場合ニ限り被保險者ニ非
ザル者ヲシテ組合ノ施設ヲ利用セシムルコトヲ得
組合ハ前項ノ規定ニ依リ組合ノ施設ヲ利用スル者ニ對シ
規約ノ定ムル所ニ依リ利用料ヲ請求スルコトヲ得

第十七條

本法ニ規定スルモノノ外組合ノ管理、財産ノ保
管及利用方法其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以
テ之ヲ定ム

第二節 事業

第十八條 組合ハ被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養
ノ給付、分娩ニ關シテハ助産ノ給付、死亡ニ關シテハ葬
祭ノ給付ヲ爲ス但シ特別ノ事由アル組合ハ助産ノ給付又
ハ葬祭ノ給付ヲ爲サザルコトヲ得

組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ給付ニ併セテ其ノ他
ノ保險給付ヲ爲スコトヲ得
特別ノ事由アル組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ給
付ニ代ヘテ療養費、助産費又ハ葬祭費ヲ支給スルコトト
爲スコトヲ得

第十九條 療養ノ給付、助産ノ給付又ハ葬祭ノ給付ヲ爲ス
組合其ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合其ノ他必要アル場
合ニ於テハ其ノ都度之ニ代ヘテ療養費、助産費又ハ葬祭
費ヲ支給スルコトヲ得

第二十條 組合ハ療養ノ給付ニ要スル費用ノ一部ヲ其ノ給
付ヲ受クル者（給付ヲ受クル者組合員ニ非ザル場合ニ於
テハ其ノ屬スル世帯ノ組合員）ヨリ徴收スルコトヲ得
第二十一條 組合ハ被保險者ノ健康ヲ保持増進スル爲左ノ

其他 國民健康保險法

施設ヲ爲スコトヲ得

- 一 疾病又ハ負傷ノ豫防ニ關スル施設
 - 二 健康診断ニ關スル施設
 - 三 保養ニ關スル施設
 - 四 其ノ他健康ノ保持増進ニ關スル施設
- 第二十二條 組合ハ其ノ事業ニ要スル費用ニ充ツル爲組合員ヨリ保險料ヲ徴收ス
組合ハ特別ノ事由アル者ニ對シ保險料ヲ減免シ又ハ其ノ
徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十三條 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定期間保險給
付ヲ受クル者ナカリシ世帯ノ組合員（組合員ノミヲ被保
險者トスル組合ニ在リテハ保險給付ヲ受ケザリシ組合
員）ニ對シ其ノ期間ノ保險料ノ一部ヲ拂戻スコトヲ得

第二十四條 保險給付ノ種類範圍支給期間及支給額、保險
料ノ額徴收方法及減免其ノ他保險給付及保險料ニ關シ必
要ナル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第三節 管理

第二十五條 組合ニ組合會ヲ置ク
組合會ハ組合會議長及組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス
組合會議長ハ理事長ヲ以テ之ニ充ツ理事長故障アルトキ
ハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ行フ

組合會議員ハ組合員ニ於テ之ヲ互選ス

第二十六條 組合會ノ議決スベキ事項左ノ如シ

- 一 收入支出ノ豫算
- 二 事業報告及決算
- 三 收入支出ノ豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄
- 四 準備金其ノ他重要ナル財産ノ處分
- 五 組合債
- 六 規約ノ變更
- 七 其ノ他重要ナル事項

前項第一號及第四號乃至第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十七條 組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類ヲ檢閲シ、

理事ノ報告ヲ請求シ又ハ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ前項ノ組合會ノ權限ニ屬スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十八條 組合ニ理事數人ヲ置ク

理事ハ組合會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ組合員ニ非ザル者ノ中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付地方長官ノ

認可ヲ受クベシ

普通國民健康保險組合ニ在リテハ特別ノ事由ナキ限り前項ノ規定ニ拘ラズ理事中ニ關係市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル吏員ヲ加フルモノトス

第二十九條 理事ノ中一人ヲ理事長トス

理事長ハ理事ニ於テ之ヲ互選ス但シ前條第三項ノ規定ニ依ル理事アルトキハ特別ノ事由ナキ限り之ニ付選任ス

理事長ハ組合ヲ代表ス

理事長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス

第三十條 組合會成立セズ又ハ其ノ議決スベキ事項ヲ議決セザルトキハ理事ハ地方長官ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スベキ事項ヲ處置スルコトヲ得

第三十一條 組合會ニ於テ議決スベキ事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セザルトキ又ハ之ヲ召集スルノ暇ナキトキハ理事之ヲ專決スルコトヲ得

第三十二條 前二條ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ理事ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スベシ

第三十三條 組合ノ規約ノ定ムル所ニ依リ理事長及理事以外ノ役員ヲ置クコトヲ得

第四節 分合及解散

第三十四條 組合分割、合併又ハ解散ヲ爲サントスルト

キハ組合會ニ於テ之ヲ議決シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第三十五條 合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ成立シ

タル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ成立シタル組合ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合又ハ分割後存續スル組合ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ承繼スル權利義務ノ限度ハ分割ノ議決ト共ニ之ヲ議決シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第三十六條 組合ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第三十七條 組合解散シタルトキハ理事清算人ト爲ル

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ地方長官清算人ヲ選任ス清算人缺ケタルトキ亦同ジ

清算人ハ組合ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財産處分ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ地方長官必要アリト認ムルトキハ清算方法及財産處分ノ變更ヲ命ジ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三章 國民健康保險組合聯合會

其他 國民健康保險法

第三十八條 組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ハ共同シテ其ノ

目的ヲ達スル爲メ國民健康保險組合聯合會（以下組合聯合會ト稱ス）ヲ設立スルコトヲ得

組合聯合會ハ法人トス

第三十九條 組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ規約ヲ作リ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

組合聯合會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第四十條 組合聯合會ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 組合聯合會ノ目的及事業
- 二 組合聯合會ノ名稱
- 三 事務所ノ所在地
- 四 加入及脱退ニ關スル事項
- 五 經費ノ分賦ニ關スル事項
- 六 其ノ他重要ナル事項

第四十一條 組合聯合會ニ總會、理事長及理事ヲ置ク

總會ノ組織並ニ理事長及理事ノ選任ニ關スル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第四十二條 第十五條乃至第十七條、第二十六條、第二十

七條、第二十九條第三項第四項及第三十條乃至第三十七條ノ規定ハ組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第四章 監督及補助

第四十三條 主務大臣及地方長官ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ニ對シ其ノ事業及財産ニ關シ報告ヲ爲サシメ、其ノ狀況ヲ検査シ、規約ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ其ノ役員其ノ執行スベキ職務ヲ執行セザルトキハ地方長官ハ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ負擔トス

第四十五條 地方長官ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、規約、主務大臣若ハ地方長官ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ其ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合若ハ組合聯合會ノ解散ヲ命ジ若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ第五十四條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第四十六條 組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ノ被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍ハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第四十七條 國庫ハ豫算ノ範圍内ニ於テ組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得
道府縣及市町村ハ組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第五章 國民健康保險委員會、訴訟及訴訟

第四十八條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ國民健康保險委員會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキ民事訴訟ヲ提起スルモノトス

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ裁判上ノ請求ト看做ス

第四十九條 第四十六條ノ規定ニ依ル認可ノ申請アリタルトキハ地方長官ハ國民健康保險委員會ノ意見ヲ徵シ之ガ處分ヲ爲スベシ

第五十條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ト醫師、齒科醫師、藥劑師其ノ他ノ者又ハ其ノ團體トノ間ニ於ケル保險給付ニ關スル契約ニ關シ紛爭ヲ生ジタルトキハ國民健康保險委員會ハ當事者ノ請求ニ依リ其ノ解決ニ付斡旋ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 本法ニ規定スルモノノ外國民健康保險委員會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 組合ノ爲シタル保險料其ノ他本法ノ規定ニ依

第五十六條 本法中町村又ハ町村長トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第五十七條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會第三十七條第五項又ハ第四十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ゲタルトキハ其ノ役員又ハ清算人ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(昭和十三年六月勅令第四百三十三號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

六六 國民健康保險法施行規則

昭和十三年六月二十二日厚生省令第十號

第一章 國民健康保險組合

第一節 設立

第一條 組合設立ノ發起人ハ七人ヲ下ルコトヲ得ズ

第二條 組合設立ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一 規約

ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第八條ノ規定ニ依ル滯納處分ニ不服アル者ハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ二以上ノ道府縣ニ跨ル組合ニ關スルモノニ在リテハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルモノトス

前項ノ規定ニ依ル訴願ニ關シテハ組合ヲ訴願法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

第五十三條 本章ニ規定スル審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分又ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第一百五十八條第二項及第一百五十九條ノ規定ヲ準用ス

第六章 雜 則

第五十四條 營利ヲ目的トセザル社團法人ニシテ其ノ社員ノ爲ニ醫療ニ關スル施設ヲ爲スモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケ組合ノ事業ヲ行フコトヲ得

第五十五條 本法中地方長官トアルハ二以上ノ道府縣ニ跨ル組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ニ付テハ之ヲ主務大臣トス

- 二 事業計畫書
- 三 保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面
- 四 組合員タラントスル者ノ同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類

第三條 組合ハ其ノ名稱中ニ國民健康保險組合ナル文字ヲ用フベシ

國民健康保險組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ國民健康保險組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第四條 初年度ノ收入支出ノ豫算ハ發起人之ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可申請ハ組合設立ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スベシ

第五條 組合設立ノ際ニ於テ定ムベキ組合ノ被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍ハ發起人之ヲ定メ組合設立ノ認可申請ト同時ニ認可申請ヲ爲スベシ

第六條 組合ノ設立ヲ認可シタルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ告示スベシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同ジ

- 一 組合ノ名稱
- 二 事務所ノ所在地
- 三 組合ノ地區（特別國民健康保險組合ニ在リテハ組合

師又ハ藥劑師ノ選定ヲ自由ナラシムベシ

第十三條 組合被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ヲ定メタルトキハ之ヲ公示スベシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ診療又ハ藥劑ノ支給以外ノ給付ノ支給ニ當ル者ニ付之ヲ準用ス

第十四條 組合ハ國民健康保險法第十八條第二項ノ規定ニ依リ療養又ハ分娩ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル被保險者ニ對シ規約ノ定ムル所ニ從ヒ傷病手當金又ハ出産手當金ヲ支給スルコトヲ得

第十五條 組合ハ被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ就キ療養ノ給付ニ關シ帳簿書類ヲ閲覧シ、説明ヲ求メ又ハ報告ヲ徵スルコトヲ得

第十六條 組合ハ一年間保險給付ヲ受クル者ナカリシ世帯ノ組合員（組合員ノミヲ被保險者トスル組合ニ在リテハ保險給付ヲ受ケザリシ組合員）ニ對シ其ノ期間ノ保險料ノ四分ノ一以內ヲ拂戻スコトヲ得但シ第五十七條ノ規定ニ依リ準備金ヲ積立テ仍剩餘金アル場合ニ限ル

第十七條 組合會議員ノ定數ハ十人ヲ下ルコトヲ得ズ

第十八條 議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ之ヲ起算

其他 國民健康保險法施行規則

員ノ範圍）

四 認可ノ年月日

第七條 組合設立ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク規約ヲ公示スベシ

第八條 組合設立ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク組合會ヲ召集シ組合設立ノ經過、初年度ノ收入支出ノ豫算及被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍其ノ他重要ナル事項ヲ報告スベシ

第九條 組合設立後理事就職ニ至ル迄ハ發起人理事ノ職務ヲ行フ

第十條 組合ノ設立ニ要スル費用ハ組合設立ノ後組合ノ負擔トス

第十一條 國民健康保險法第四十六條ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍ニハ被保險者ノ通常利用シ得ベキ醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ヲ包含スルコトヲ要ス

第十二條 組合ハ特別ノ事由ナキ限り國民健康保險法第四十六條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル範圍内ノ總テノ醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ヲシテ被保險者ニ對スル診療又ハ藥劑ノ支給ニ當ラシメ且被保險者ヲシテ醫師、齒科醫

師ニ對シ其ノ範圍ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ヲ定メタルトキハ之ヲ公示スベシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ診療又ハ藥劑ノ支給以外ノ給付ノ支給ニ當ル者ニ付之ヲ準用ス

第十四條 組合ハ國民健康保險法第十八條第二項ノ規定ニ依リ療養又ハ分娩ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザル被保險者ニ對シ規約ノ定ムル所ニ從ヒ傷病手當金又ハ出産手當金ヲ支給スルコトヲ得

第十五條 組合ハ被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ就キ療養ノ給付ニ關シ帳簿書類ヲ閲覧シ、説明ヲ求メ又ハ報告ヲ徵スルコトヲ得

第十六條 組合ハ一年間保險給付ヲ受クル者ナカリシ世帯ノ組合員（組合員ノミヲ被保險者トスル組合ニ在リテハ保險給付ヲ受ケザリシ組合員）ニ對シ其ノ期間ノ保險料ノ四分ノ一以內ヲ拂戻スコトヲ得但シ第五十七條ノ規定ニ依リ準備金ヲ積立テ仍剩餘金アル場合ニ限ル

第十七條 組合會議員ノ定數ハ十人ヲ下ルコトヲ得ズ

第十八條 議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ之ヲ起算

其他 國民健康保險法施行規則

員ノ範圍）

四 認可ノ年月日

第七條 組合設立ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク規約ヲ公示スベシ

第八條 組合設立ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク組合會ヲ召集シ組合設立ノ經過、初年度ノ收入支出ノ豫算及被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍其ノ他重要ナル事項ヲ報告スベシ

第九條 組合設立後理事就職ニ至ル迄ハ發起人理事ノ職務ヲ行フ